



取扱説明書

VHF TRANSCEIVER
IC-V1
UHF TRANSCEIVER
IC-U1

この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。この取扱説明書は、別売品のごとも記載していますので、お読みになったあと大切に保管してください。



IC-V1



IC-U1

Icom Inc.

はじめに

このたびは、IC-V1/IC-U1をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

IC-V1は144MHz帯、IC-U1は430MHz帯のFMハンドヘルドトランシーバーです。

オプションのデジタルユニット(UT-118)を装着することで、デジタル通信もお楽しみいただけます。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

登録商標について

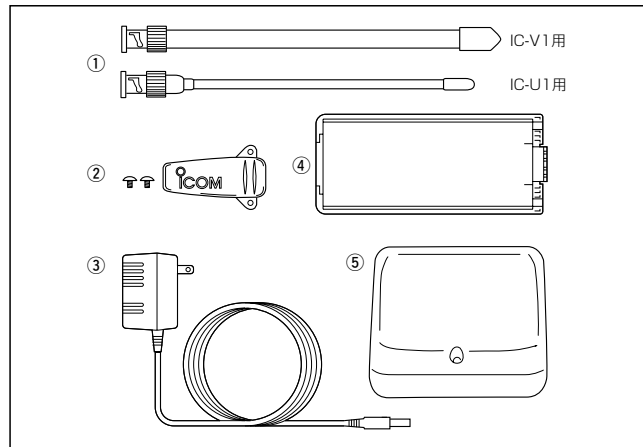
アイコム株式会社、アイコム、Icom, Inc.、icom、ポケットビープは、アイコム株式会社の登録商標です。

D-STARIは社団法人日本アマチュア無線連盟の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

アイコム株式会社の著作物の全部または一部を無断記載、複写およびいかなる方法による複製を禁止します。

付属品



- ①アンテナ
 - ②ベルトクリップ
 - ③ACアダプター*
 - ④バッテリーパック*
 - ⑤充電器*
- 取扱説明書
 - 保証書
 - 愛用者カード

*仕様によって、付属していない場合があります。

はじめに	i
もくじ	ii
安全上のご注意(必ずお読みください)	vi
■ 無線機本体について	vi
■ バッテリーパックについて	vii
■ 充電器について	ix
1. 各部の名称と機能	1
1 上面/側面/前面パネル	1
2 表示部	3
2. ご使用の前に	5
■ 付属品の取り付けかた	5
① アンテナを取り付ける	5
② ベルトクリップを取り付ける	5
3. 電源について	6
1 電池の入れかた	6
2 バッテリーパック/バッテリーケースの装着	6
3 簡易充電のしかた	7
4 急速充電のしかた	8
5 充電時のご注意	9
4. 基本操作のしかた	10
■ 電源の“ON/OFF”と音量調整のしかた	10
① 電源を入れる	10
② 音量を調整する	10
③ 周波数を調整する	11
④ 音量とスケルチを調整する	11
⑤ 送信出力を設定して交信する	12

■ 運用モード[VFO/メモリー/コールチャンネル (CALL-CH)]の切り替えかた	13
① VFOモードにするには	13
② メモリーモード/CALL-CHモードにするには	13
■ チューニングステップを変えるには	14
■ 受信モニター機能について	14
■ スケルチディレイの設定	15
5. レピータ/デュプレックスの操作	16
■ オートレピータ機能での交信(IC-U1のみ)	16
■ デュプレックスの運用	19
6. メモリーチャンネルの操作	21
■ メモリーモードについて	21
■ M-CHの呼び出しかた	22
■ メモリー(M-CH/CALL-CH/PROGRAM-CH)への 書き込みかた	23
■ M-CHをバンクで編集する	26
■ メモリーネームの使いかた	28
■ メモリークリア(消去)のしかた	29
■ コールチャンネル(CALL-CH)の使いかた	30
7. スキャンの操作	31
■ スキャンについて	31
■ VFOスキャンのしかた	33
■ メモリースキャンのしかた	34
■ メモリーバンクスキャンのしかた	34
8. プライオリティスキャンの操作	35
■ プライオリティスキャンについて	35

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17

もくじ

9. セットモード	38	■ DV(デジタル音声)モード運用時の簡易データ通信 について	86
■ セットモードの設定方法	38	■ D-STAR®システムについて(IC-U1のみ)	88
■ セットモードの設定項目について (VFO/メモリーモード)	40	■ デジタルレピータの運用(IC-U1のみ)	89
■ イニシャルセットモードの設定方法	45	■ メッセージ通信機能の使いかた	92
■ イニシャルセットモードの設定項目について	47	■ 受信履歴項目を呼び出してコールサインを確認する	94
■ オプションセットモードの設定方法	52	■ GPSの運用	95
■ オプションセットモードの設定項目について	54	12. 別売品について	98
10. 各種機能の使いかた	59	■ MH-75A(スピーカーマイクロホン)の使いかた	98
■ DTMFメモリー機能の使いかた	59	■ MB-86(回転式ベルトクリップ)の取り付けかた	99
■ トーンスケルチ/デジタルコードスケルチ/デジタル コールサインスケルチ/ポケットビープ機能の使いかた	63	13. ご参考	100
■ CTCSSトーン/DTCSSコードスキャンのしかた	68	■ 工場出荷時の状態に戻す(リセット)には	100
■ ページャー/コードスケルチについて	69	① オールリセットのしかた	100
■ ページャー機能の使いかた	70	② パーシャルリセットのしかた	100
■ コードスケルチ機能の使いかた	71	■ 故障かな?と思ったら	101
■ ビープ音について	73	■ 故障のときは	102
■ キーロック機能の使いかた	73	14. 定格	103
■ オートパワーオフ機能の使いかた	73	■ 一般仕様	103
■ タイムアウトタイマー機能の使いかた	73	■ 送信部	103
■ クローニングについて	74	■ 受信部	103
11. DV(デジタル音声)モードの操作	75	15. 免許申請について	104
■ デジタル音声ユニットの取り付け	75	■ 免許申請の書きかた	104
■ DV(デジタル音声)モードの設定	76	■ 送信系統図(IC-V1)	105
■ 自局と相手局のコールサインの設定	77	■ 送信系統図(IC-U1)	106
■ DV(デジタル音声)モードで交信するときの設定	82	■ バンド使用区分について	107
■ EMRモードの運用	84	16. 操作ガイド	108
■ BK(割り込み)通信の運用	85	17. 別売品一覧	110

各種セットモードの設定項目

■ セットモードの設定方法	38	■ イニシャルセットモードの設定方法	45
■ セットモードの設定項目について (VFO/メモリーモード)	40	■ イニシャルセットモードの設定項目について	47
◇ レピータ用トーン周波数の設定	40	◇ ビープ音(操作音)の設定	47
◇ トーンスケルチ用トーン周波数の設定	40	◇ タイムアウトタイマー機能の設定	47
◇ DTCSコードの設定	40	◇ オートレピータ機能の設定(IC-U1のみ)	47
◇ DTCS位相反転機能の設定	41	◇ オートパワーオフ機能の設定	48
◇ チューニングステップの設定	41	◇ ロックアウト機能の設定	48
◇ デュプレックスの設定	41	◇ スケルチディレイの設定	48
◇ オフセット周波数の設定	41	◇ DTMFコード送出スピードの設定	48
◇ デュプレックス反転の設定	42	◇ [VOL]の機能入れ替え設定	49
◇ スキャンストップタイマーの設定	42	◇ メモリーモード中の表示設定	49
◇ ファンクションキータイマーの設定	42	◇ LCDコントラストの設定	49
◇ LCDバックライトの設定	42	◇ パワーセーブの設定	49
◇ 送信禁止の設定	43	◇ [MONI]のホールド機能設定	50
◇ スキップチャンネルの設定	43	◇ デジタル/アナログモニターの設定	50
◇ メモリーバンクの設定	43	◇ ダイアルスピードの設定	50
◇ メモリーバンクのリンク設定	44	◇ リモコン機能付きスピーカーマイクロホンの 設定	50
◇ 通過帯域ワイド/ナローの設定	44	◇ Sメータースケルチの設定	51
		◇ ALCの設定	51
		◇ バッテリー保護の設定	51
		◇ オプションセットモードの設定	51

各種セットモードの設定項目

■ オプションセットモードの設定方法	52		
■ オプションセットモードの設定項目について	54	◇ スタンバイビープ機能の設定	56
◇ DTMFモードの設定	54	◇ 相手局コールサイン自動書き込み機能の設定	56
◇ DV(デジタル音声)モードの設定	54	◇ 受信レピータコールサイン自動書き込み機能の 設定(IC-U1のみ)	56
◇ 自局のコールサインの設定	54	◇ 相手局コールサイン表示の設定	56
◇ 自局のコールサイン(2nd)の設定	54	◇ 自局コールサイン表示の設定	57
◇ 相手局のコールサインの設定	54	◇ メッセージ送信機能の設定	57
◇ レピータ1のコールサインの設定(IC-U1のみ)	54	◇ 送信メッセージの設定	57
◇ レピータ2の設定(IC-U1のみ)	54	◇ 受信メッセージの設定	57
◇ レピータ2のコールサインの設定(IC-U1のみ)	55	◇ GPSの設定	57
◇ 相手局のコールサイン表示	55	◇ GPS自動送信の設定	58
◇ 相手局のコールサイン(2nd)表示	55	◇ 自局位置情報の表示	58
◇ 受信レピータ1のコールサイン表示(IC-U1のみ)	55	◇ 相手局位置情報の表示	58
◇ 受信レピータ2のコールサイン表示(IC-U1のみ)	55	◇ GPSメッセージ出力の設定	58
◇ 割り込み通信の設定	55	◇ GPS受信メッセージの表示	58
◇ EMRモードの設定	55		
◇ 自動応答機能の設定	55		
◇ デジタルコードの設定	56		
◇ データ自動送信の設定	56		
◇ 本機とパソコン間の通信速度の設定	56		

安全上のご注意(必ずお読みください)

安全にお使いいただくために、
必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- お読みになったあとは、大切に保管してください。

■無線機本体について

⚠ 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- 引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。火災、爆発の原因になります。

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、業務用無線局および中継局周辺では絶対に使用しないでください。運航の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたす原因になりますので、電源を切ってください。
- 電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

- 指定以外のバッテリーパック、および乾電池ケースは使用しないでください。火災、感電、故障の原因になります。
- 線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。火災、感電、故障の原因になります。
- アンテナを接続しないで送信したり、送信しながらアンテナを接続しないでください。感電、故障の原因になります。
- アンテナの端を持って本体を振り回したり、投げたりしないでください。本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。
- 大きな音量でヘッドホンやイヤホンなど使用しないでください。大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- この製品は完全調整していますので、分解、改造しないでください。火災、感電、故障の原因になります。
- 煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

安全上のご注意

■ 無線機本体について(つづき)

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- 電源を接続する前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで、電源電圧を確認してください。
- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- マイクロホンを接続するときは、指定以外のマイクロホンを使用しないでください。故障の原因になることがあります。
- テレビやラジオの近くで送信しないでください。電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。変色、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
- 製品の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。
- 製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。けが、故障の原因になることがあります。

■ バッテリーパックについて

⚠ 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が死亡または重傷を負う危険が差し迫っていることが想定される内容」を示しています。

- 専用充電器(☞P7~9)以外で充電しないでください。電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- バッテリーパックを他の機器に使用しないでください。電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- バッテリーパックは下記のことを必ず守らないと、電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
 - 火の中に投入したり、加熱しない。
 - ハンダ付けしない。
 - プラス⊕とマイナス⊖を針金などの金属類で接続しない。
 - ネックレスなどの金属類と一緒に持ち運んだり、放置しないでください。
- 電池の液が目に入ったときは、こすらないでください。失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。

使用後はリサイクルへ

この機器は充電式電池使用機器です。希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は破棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。



Ni-Cd



Li-ion



Ni-MH

■ バッテリーパックについて(つづき)

**警告**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 分解、改造しないでください。
電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
 - 指定時間を超えても充電を完了しないときは、充電をやめてください。
電池の発熱、液もれの原因になります。
 - 指定時間以上充電しないでください。
満充電後、すぐに再充電を繰り返すと過充電となり、電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
 - 電池の液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 次の次項を守らないと、破裂、発熱、液もれの原因になります。
- テープを巻きつけたり、加工しないでください。
バッテリーパックから、ガスが発生することがあります。
 - バッテリーパックの上に工具などの金属や導電性のあるものを置いたり、落下させないでください。
 - 水や海水につけたり、ぬらさないでください。

**注意**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- 充電またはバッテリーパックを無線機本体に装着する前に必ずこの取扱説明書をよく読んでください。
- 0℃以下または45℃以上(ニッケル水素バッテリーパックの場合は、0℃以下または40℃以上)では充電しないでください。
周囲温度が0℃以下または45℃以上(ニッケル水素バッテリーパックの場合は40℃以上)になる場所では、充電されないことがあります。
- 寒い戸外や冷えたまま充電しないでください。
電池の液もれ、性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- 高温の場所で使用、放置しないでください。
電池の液もれ、性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- 電池を水や海水につけたり、ぬらさないでください。
電池の発熱、サビの原因になることがあります。
- 強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。
電池の破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。
液もれの原因になることがあります。
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

安全上のご注意

■ バッテリーパックについて(つづき)

- 無線機を長期間(約1年)使用しない場合はバッテリーパックを取りはずし、 $-30^{\circ}\text{C}\sim+35^{\circ}\text{C}$ (ニッケル水素バッテリーパックの場合は $-20^{\circ}\text{C}\sim+30^{\circ}\text{C}$ 、リチウムイオンバッテリーパックの場合は $-20^{\circ}\text{C}\sim+25^{\circ}\text{C}$)で湿気の少ない場所に保管してください。

3ヶ月間ほど使用しない場合は、 $-30^{\circ}\text{C}\sim+50^{\circ}\text{C}$ (リチウムイオンバッテリーパックの場合は $-20^{\circ}\text{C}\sim+35^{\circ}\text{C}$ 、ニッケル水素バッテリーパックの場合は $-20^{\circ}\text{C}\sim+40^{\circ}\text{C}$)で湿気の少ない場所に保管してください。

電池の発熱、サビの原因になることがあります。

- バッテリーパックを使用の際に異常と思われたときは、使用しないでお買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

そのまま使用すると、電池の破裂、発熱、液もれ、故障の原因になることがあります。

- リチウムイオンバッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。
長期間リチウムイオンバッテリーパックをご使用にならない場合は、満充電にしたあと、バッテリー残量が中レベルぐらいになるまで使用して(電源を入れて1時間程度そのままにしておく)、無線機から取りはずして保存してください。

■ 充電器について



危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- 付属の充電器はニカドバッテリーパック専用の充電器です。指定以外の充電には使用しないでください。
電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- 必ず弊社指定のACアダプターを使用してください。
他の電源で使用すると、火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- この製品を分解、改造しないでください。
火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 充電器に水を入れたり、ぬらさないでください。
また、水にぬれたときは、使用しないでください。
火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- 接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

■充電器について(つづき)

- 接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
感電、けがの原因になります。
- むれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。
感電の原因になります。
- 接続ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- 煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐにACコンセントからACアダプターを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。



注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- 充電またはバッテリーパックを無線機本体に装着する前に必ずこの取扱説明書をよく読んでください。
- 0°C以下または35°C以上では充電しないでください。
周囲温度が0°C以下または35°C以上になる場所では、充電されないことがあります。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
火災、発熱、感電、故障の原因になることがあります。
- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。
充電器の火災、故障、誤動作、変形、変色、または電池の破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。
- ACアダプターを抜き差しするときは、コードを引っ張らないでください。
火災、感電、故障の原因になることがありますので、電源プラグを持って抜いてください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプターを抜いてください。
火災、発熱の原因になることがあります。
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

安全上のご注意

その他取り扱い上のご注意

- バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上使用しなかったときは、必ず充電してください。
- バッテリーパックを極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は、水分をふき取ってからご使用ください。
- バッテリーパックが満充電されたあとも、引き続き充電したり、短時間運用後の再充電の繰り返しはさせていただきます。
- アンテナを持って、製品を持ち運ばないでください。
故障、破損の原因になることがあります。
- 室内で送信すると、電波障害を起こすことがあります。
室内で送信するときは、外部アンテナをご使用ください。
- 付属のアンテナは、トランシーバーを手で持ったときに特性がよくなるように設計しています。
- 使用できるのは、日本国内に限られています。

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けているとの連絡を受けた場合は、ただちに電波の発射を中止し、障害の有無や程度を確認してください。

参考 無線局運用規則 第8章 アマチュア局の運用

第258条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若しくは与えるおそれがあるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。

以下省略

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機やアンテナ系を点検し、障害に応じて弊社サービス窓口やお買い上げの販売店などに相談し、適切な処置をしてください。
受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むずかしい場合もあります。
日本アマチュア無線機器工業会(JAIA)、および(社)日本アマチュア無線連盟(JARL)では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

日本アマチュア無線機器工業会 (JAIA)

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-10-5 第2川端ビル
TEL 03-3944-8611

(社)日本アマチュア無線連盟 (JARL)

〒170-8073 東京都豊島区巢鴨1-14-5
TEL 03-5395-3111

各バンドのおもな特徴と楽しみかた

IC-V1/U1はそれぞれVHF(144MHz帯)/UHF(430MHz帯)による電波伝搬の特徴を生かした交信が楽しめます。

VHF帯/UHF帯の電波は直進性が高く、建物や山岳などによる減衰や反射で電波の強度が変化し、通信状態に影響を与えます。

通信状態への影響はバンドによっても異なり、ビルのなかや市街地などでは影響を受けやすく、通信距離が大きく変化する場合がありますので、相手局に対して見通しのよい場所で運用することをおすすめします。

◇144MHz帯の特徴

144MHz帯はVHF帯のメインストリートと言われています。

全国どこへ移動しても交信相手には困りません。また、仲間とのラグチューや連絡用としても役立ちます。

◇430MHz帯の特徴

レピータを使用すれば、見通し外の局とも交信できるのが430MHzです。

ハンディー機でも比較的遠方のレピータにアクセスできるので、交信範囲を大きく広げます。

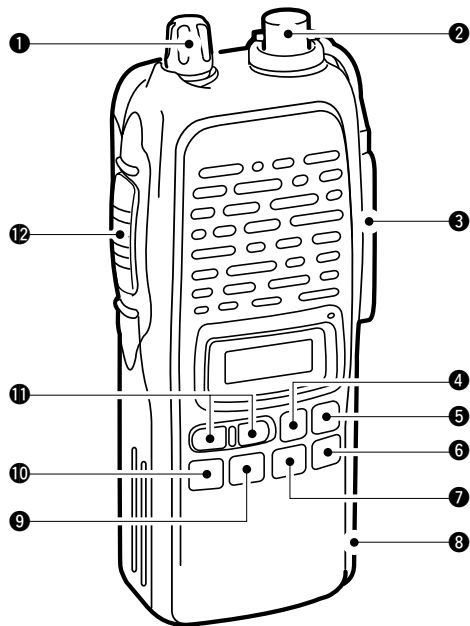
DV(デジタル音声)モード通信について

DV(デジタル音声)モードでは、FMモードに比べて通信距離が短くなります。通信できる距離の目安は、FMモードで変調音にノイズが入り、気になる程度です。

DV(デジタル音声)モードで通信中にFM局の妨害電波を受けると、デジタル信号が復調されませんので、妨害電波の影響がなくなってからご使用ください。

DV(デジタル音声)モードで使用できる周波数範囲は、IC-V1が144.50~144.70MHzと145.65~145.80MHz、IC-U1が430.80~431.40MHzと438.00~439.00MHzになりますので、バンドの使用区分を守って運用してください。詳しくは107ページの「バンドの使用区分について」をご覧ください。

1. 上面/側面/前面パネル

**① 音量[VOL]ツマミ**

音量を調整します。電源投入時の音量レベルは、前回の交信に使用したレベルが設定されます。(P11)

イニシャルセットモードで[VOL]と[▼]/[▲]キーの機能入れ替えをすることができます。(P49)

② アンテナコネクター(P5)

付属品のアンテナを接続するコネクターです。

③ スピーカー[SP]/マイクロホン[MIC]ジャック

別売品のスピーカー・マイクロホンやイヤホンなどを接続するジャックです。

※別売品については、110ページをご覧ください。

④ モニター[MONI]キー(P14)


交信相手の信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくいときや、ノイズを聞きながら音量を調整するときに“ON”にします。


[MONI]を押しているあいだは“ON”、離すと“OFF”になります。(P50)

⑤ 電源[PWR]キー(P10)

長く(約1秒)押すごとに電源を“ON”/“OFF”します。

1. 上面/側面/前面パネル(つづき)

⑥ 送信出力調整[H/M/L]/ロック[]キー(※P12)

- 押すごとに送信出力を「High」「Middle」「Low」に切り替えます。
- [FUNC]を押してから、[H/M/L()]を長く押すと、キーロック機能がONとなります。(※P73)
※キーロック機能がONでも、[VOL]、[PTT]、[MONI]、[FUNC]はロックされません。

⑦ VFO切り替え[V/M/C]/メモリー書き込み[MW]キー



- 押すごとに「VFOモード」、「メモリーモード」、「コールチャンネル」を切り替えます。(※P11)
- [FUNC]を押してから、[V/M/C(MW)]を短く押すと、セレクトメモリーライト状態になります。(※P23)

⑧ データ[DATA]ジャック(※P86、95)

本機とコンピュータを接続するジャックです。
接続には接続ケーブルが必要です。
※接続ケーブルについては、86ページをご覧ください。

⑨ セットモード切り替え[SET]/トーンスケルチ・DTCSスケルチ切り替え[TONE]キー



- 押すごとに「セットモード」、「VFOモード」を切り替えます。(※P38)
- 長く押すと「オプションセットモード」に切り替えます。(※P52)

- [FUNC]を押してから、[SET(TONE)]を押すごとに、通常モード/トーンスケルチ/DTCSスケルチを切り替えます。(※P66)

⑩ ファンクション[FUNC]キー



[FUNC]を押して、次に該当するキーを押すことにより、各種諸機能が動作します。

⑪ DOWN[▼]/UP[▲]キー



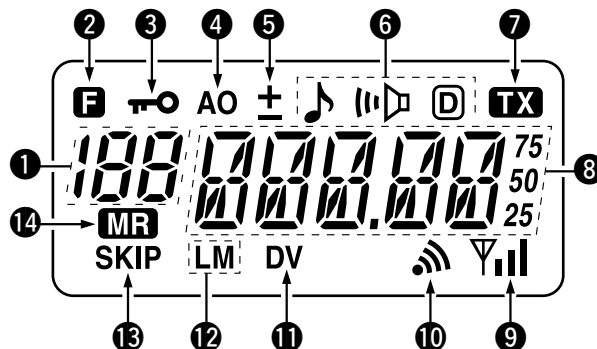
- VFOモードでは周波数の設定、メモリーモードではメモリーチャンネルを呼び出し、セットモードではセット項目を選択します。(※P11、22、38)
- スキャン中に[▼]/[▲]を押すと、スキャンの方向を変更できます。(※P31)
- イニシャルセットモードで[VOL]と[▼]/[▲]の機能入れ替えをすることができます。(※P49)

⑫ PTT(送信)キー(※P12)

押している間は送信状態、離すと受信状態に戻ります。

1 各部の名称と機能

2. 表示部



① メモリー表示部

メモリーバンク、メモリーチャンネル番号、SETモード項目などを表示します。

② ファンクション表示部

[FUNC]が押された状態を表示します。

③ ロック表示部(☞P73)

キーロック機能が動作していることを表示します。

④ オートパワーオフ表示部(☞P73)

オートパワーオフ機能が動作していることを表示します。

⑤ デュプレックス表示部(☞P19)

デュプレックス運用モード(-/+)を選択していることを表示します。

オートレピータ動作中は、“-”と“♪”が表示します。(☞P16)
(IC-U1のみ)

⑥ トーンスケルチ(デジタルコードスケルチ)表示部(☞P66)

トーンスケルチ(デジタルコードスケルチ：UT-118装着時)などに設定されている機能を表示します。

- “♪”点灯 : トーンエンコーダー機能の動作中を表示
- “▶”点灯 : CTCSS(デジタルコードスケルチ)によるポケットビープ機能の動作中を表示
- “▶”点灯 : トーンスケルチ機能(デジタルコードスケルチ)の動作中を表示
- “▶ @”点灯 : DTCS(デジタルコールサインスケルチ)によるポケットビープ機能の動作中を表示
- “@”点灯 : DTCS(デジタルコールサインスケルチ)コードスケルチ機能の動作中を表示

⑦ 送信表示部(☞P12)

送信していることを表示します。

2. 表示部(つづき)





⑧ 周波数表示部

運用周波数を表示します。(※P11)




SETモード時は設定内容を表示します。(※P38)

⑨ S/RFインジケータ表示部

受信時は、受信した信号の強さを表示します。(※P12)

受信信号の強さ	弱い	←————→		強い
Sメーターの表示				

送信時は、RFインジケータとして表示します。(※P12)

送信出力	LOW	MIDDLE	HIGH
RFメーターの表示			

⑩ ページャーコード受信表示部(※P71)

ページャーコードを受信していることを表示します。

この機能を使用するには、オプションのDTMF/コードスケル
チユニット(UT-108)が必要です。

⑪ デジタル音声モード表示部(※P76)

デジタル音声モード機能が動作していることを表示します。

⑫ 送信出力表示部(※P12)

Sメーター表示部と合わせ、送信出力を3段階で表示します。

- “L”点灯 : LOWパワー選択時に点灯します。
- “M”点灯 : MIDDLEパワー選択時に点灯します。
- 点灯なし : HIGHパワーは“L”、“M”どちらも点灯しません。

⑬ スキップ表示部(※P32)

スキップ機能を表示します。

- “SKIP”点灯 : メモリースキップを表示

⑭ メモリーモード表示部(※P22)

メモリーモード状態を表示します。

2

ご使用の前に

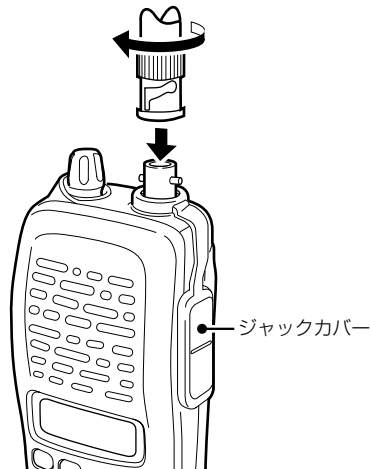
■ 付属品の取り付けかた

① アンテナを取り付ける

アンテナコネクターは、BNC型を使用しています。
アンテナを取り付けるときは、下図のようにアンテナコネクターにさしこみ、時計回りの方向に回してください。

外部アンテナをご使用になる場合は、BNC型アンテナコネクターをご使用ください。

※ ジャックカバーは、別売品のスピーカーマイクを取り付けるとき以外、外さないでください。



⚠ 警告

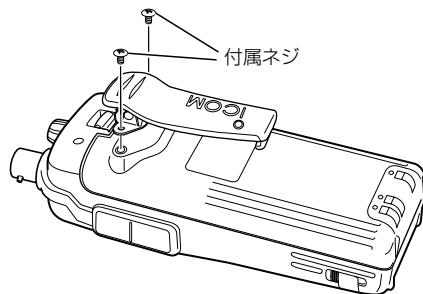
アンテナを持って無線機を振り回したり、投げたりしないでください。

使用者や周囲の人に当たったとき、けがをしたり、本機の故障、および破損の原因となることがあります。

② ベルトクリップを取り付ける

ベルトクリップは、付属のネジ(サイズ:3x5mm)で取り付けてください。

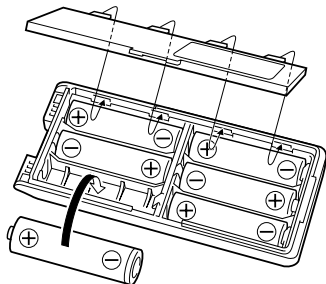
付属品以外のネジで取り付けしないでください。



1. 電池の入れかた

BP-208Nは単三形アルカリ電池を6本を収容できるバッテリーケースです。

電池の極性⊕(プラス)、⊖(マイナス)をまちがえないように挿入してください。



■ 電池のご使用について

本機の性能を十分に発揮させるため、高容量のアルカリ電池をご使用ください。

電池は、気温が低下するほど容量の減少が著しくなります。

通常、電池の使用できる温度の下限は、 -10°C とされていますので、寒冷地で使用する場合は、電池部分を暖かくして(十分保温する)ご使用ください。

■ 交換時期について

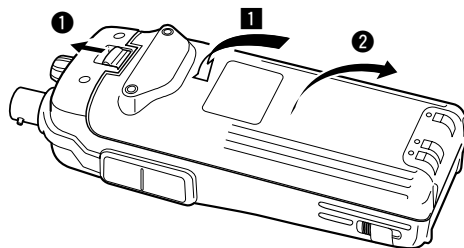
電池の容量が低下すると、表示部全体が点滅したり、表示が全体的にうすくなってきます。

このようなときは、すべて同じ種類の新しい単三形アルカリ電池と交換してください。

2. バッテリーパック/バッテリーケースの装着

バッテリーパックまたはバッテリーケースは、下図を参照して装着してください。

バッテリーを装着するときは、**1**の矢印の方向に挿入し、取りはずすときは、**1** **2**の順に行ってください。



【バッテリーパック/バッテリーケース装着時のご注意】

本機は電源を“OFF”にしても、常に微電流が流れています。

本機を使用しないときは、必ずバッテリーパックまたはバッテリーケースを本体から取りはずしてください。

【ご参考】

接触不良などを防ぐため、バッテリーパック/ケースの電源端子を、乾いた布などで定期的に清掃されることをおすすめします。

3 電池について

3. 簡易充電のしかた

付属品のBP-222N(バッテリーパック)は、出荷時十分に充電されていません。

必ず充電してから、ご使用ください。

- BC-146(付属品)を使用して、充電してください。

バッテリーパック単体、または無線機に装着した状態で充電できます。充電するときは、付属品のAD-99N(アダプター)を充電器に取り付けてください。

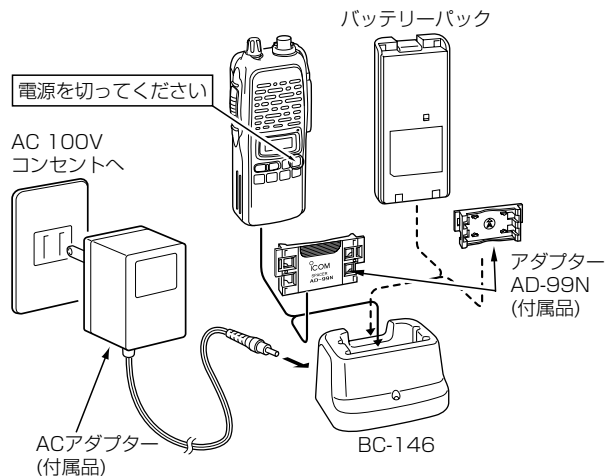
- バッテリーパックを単体で充電するときは、アダプターの刻印Ⓐがある面を充電端子側に装着します。
- 本体にバッテリーパックを装着したまま充電するときは、アダプターの刻印Ⓐがある面をLED側に装着します。

● 充電時間の目安

BP-209N:	約12時間
BP-210N:	約18時間30分
BP-222N:	約6時間30分

【ご注意】

- BP-222Nを無線機に装着して充電するときは、必ず本体の電源を“OFF”にしてください。
- AC 100Vが著しく低下すると、充電できないことがあります。
- リチウムイオンバッテリーパックの充電はできません。
- BP-208N(バッテリーケース)に市販の単三形ニカド電池などを入れても充電できません。
- 弊社指定の充電器以外は絶対に使用しないでください。故障の原因となります。



4. 急速充電のしかた

BC-119N(別売品)を使用して、急速充電ができます。
本体にバッテリーパックを装着したまま充電するときは、必ず電源を切ってから行ってください。

- バッテリーパックを単体で充電するときは、スぺーサーAの刻印④がある面をLED側に装着します。
- 本体にバッテリーパックを装着したまま充電するときは、スぺーサーAの刻印④がある面を充電端子側に装着します。

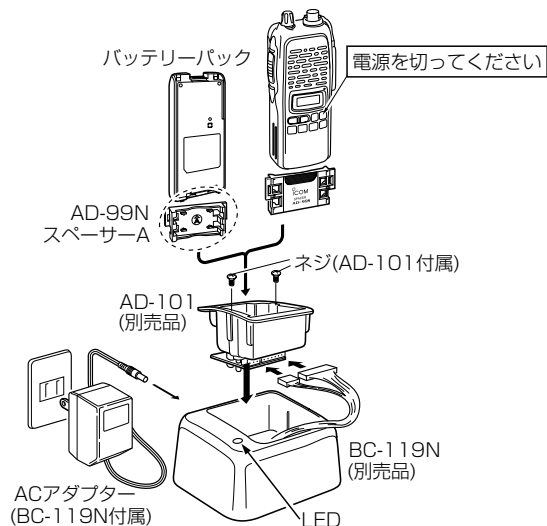
■ LED表示について

充電中は橙色に点灯し、充電が完了すると緑色に点灯します。

※充電中に橙色の点滅が続くときは充電できません。

このような場合は102ページを参照してください。

● BC-119Nで充電するとき



- 充電時間：約2時間30分

3 電池について

急速充電のしかた(つづき)

【ご注意】

- AC 100Vが著しく低下すると、充電できないことがあります。
- 充電端子は、綿棒や乾いた布でときどき清掃してください。
- 充電器を使用しないときは、電源からはずしておいてください。
- 弊社指定の充電器以外は絶対に使用しないでください。
故障の原因となります。

■ 運用時間の目安

バッテリーパック	電 圧	電 流	運 用 時 間*1	
			IC-V1	IC-U1
BP-208N	単三型アルカリ電池(6本) 用バッテリーパック		—*2	
BP-209N	7.2V	1100mAh	3時間20分	3時間40分
BP-210N	7.2V	1650mAh	6時間	7時間
BP-211N	7.4V	1800mAh	6時間10分	8時間15分
BP-222N	7.2V	600mAh	2時間15分	2時間50分

*1運用時間は、送信1、受信1、待ち受け8(パワーセーブはオート)を繰り返し運用した場合での目安です。

*2ご使用のアルカリ電池により(メーカーなど)、運用時間が異なります。

5. 充電時のご注意

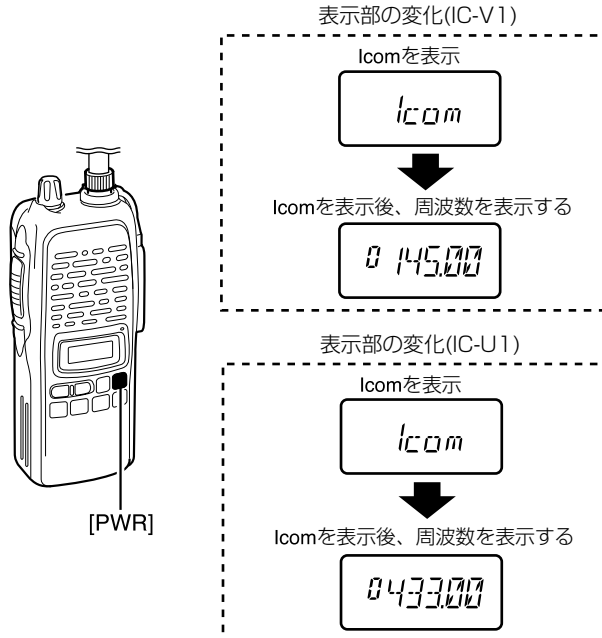
- 充電は、必ず指定の充電器をお使いください。
- できるだけ常温(20℃前後)で充電してください。
周囲温度が0℃以下または45℃以上(ニッケル水素バッテリーパックの場合、0℃以下または40℃以上)になる場所では、正常に充電されないことがあります。
- バッテリーパックが満充電されたあとも、引き続き充電したり、短時間運用後の再充電の繰り返しはさけてください。
- バッテリーパックをお買い上げいただいたとき、または長時間使用しなかったときは、ご使用前に必ず充電してください。
- 充電器およびバッテリーパックの端子をショートや分解しないでください。感電のおそれがあります。
また、火や水のなかに入れないでください。
爆発のおそれがあります。
- ネックレスなどの金属類と一緒に持ち運んだり、放置しないでください。
- ショートすると電池の破裂、発熱、液もれの原因となり、危険です。
- バッテリーパックは消耗品ですから、充電/放電を繰り返すと運用時間が短くなります。
運用時間が極端に短くなったときは寿命ですので、新しいバッテリーパックをご購入ください。
- 充電器を使用しないときは、コンセントからはずしてください。
- 別売品のBP-211Nは、継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。
なお、満充電した直後に再充電をしないでください。

■ 電源の“ON/OFF”と音量調整のしかた

① 電源を入れる

[PWR]を長く(1秒以上)押します。

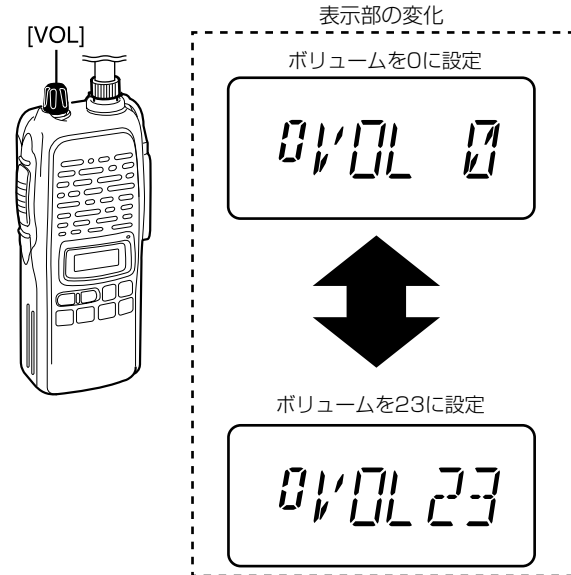
- ビープ音が鳴り、[Icom]を表示したあと、周波数を表示します。
- 電源を切るときも、同じ操作をします。



② 音量を調整する

[VOL]を回して、お好みの音量に設定します。

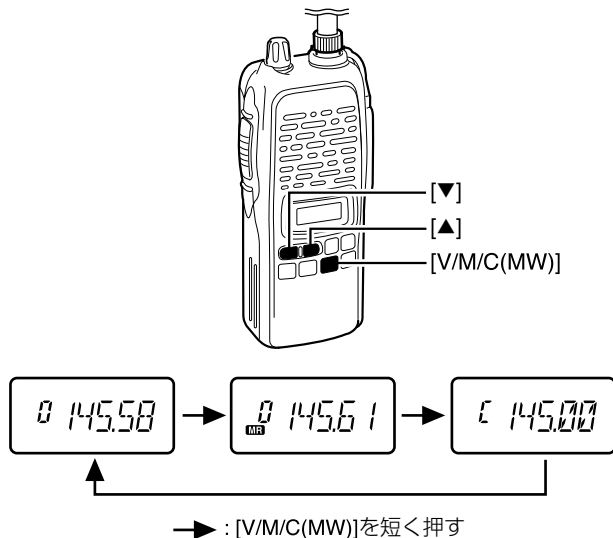
- ※ [PTT]スイッチ以外のキーを押すとビープ音が鳴り、設定した音量を確認できます。
- 表示部に音量レベル(VOL0～VOL23)を表示します。音量レベルは24段階あります。



4 基本操作のしかた

③ 周波数を設定する

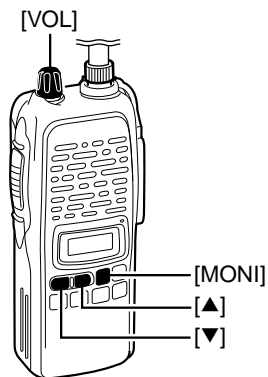
- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [▼]/[▲]を押して、交信する周波数を設定します。
チューニングステップは20kHzステップを初期設定しています。(※P41)



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

④ 音量とスケルチを調整する

- ① [VOL]を回して、音量を調整します。
[VOL]を時計方向に回すと大きくなり、反時計方向に回すと小さくなります。
- ② [MONI]を押しながら[▼]/[▲]を押して、スケルチレベルの調整をします。信号を受信していない状態で雑音(ザー)が消え、“▽”(アンテナマーク)表示が消灯する位置に調整します。スケルチレベルの調整で、[MONI]を押しながら[▲]を押すすぎると、スケルチレベルが深くなり、弱い信号が受信できなくなることがあります。
なお、スケルチディレイ(遅延)の制御時間を切り替えることができますので、受信信号の強さ(Sメーターレベル)に応じて、切り替えると聞きやすくなります。(※P15、48)



5 送信出力を設定して交信する

送信する前に、運用する周波数を他局が使用していないか確かめ、妨害・混信を与えないようにご注意ください。

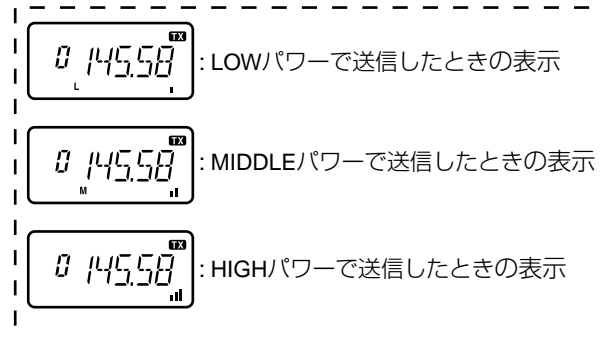
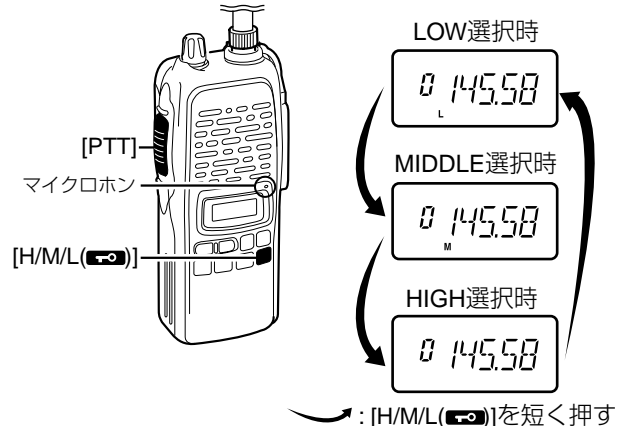
- ① [H/M/L ()] を短く押すごとに、LOWパワー“L”→MIDDLEパワー“M”→HIGHパワー“(消灯)”→LOWパワー“L”と送信出力が切り替わります。
送信出力は次のようになっています。

	Low	Middle	High
IC-V1	0.5W	4.0W	7.0W
IC-U1	0.5W	2.0W	5.0W

- ② 送信するときは、[PTT]を押しながら、マイク部に向かって話します。
マイクロホンと口元は5cm程離し、普通の大きさの声で話してください。(送信中はTX表示点灯)
設定した送信出力によって、RFインジケータのバーが表示されます。
- ③ [PTT]を離すと、受信状態に戻ります。
信号を受信すると、受信レベルによって、Sインジケータのバーが表示されます。

バンドの使用区分(バンドプラン)を厳守のうえ、運用してください。(P107)

交信相手との距離に応じて、送信出力を切り替えます。



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

4 基本操作のしかた

■運用モード[VFO/メモリー/コールチャンネル(CALL-CH)]の切り替えかた

① VFOモードにするには

[▼]/[▲]で設定した周波数で運用するモードです。

表示部に“**MR**”が表示されているときは、[V/M/C(MW)]を短く2回、“**f**”が表示されているときは、[V/M/C(MW)]を短く1回押すと、VFOモードに設定されます。

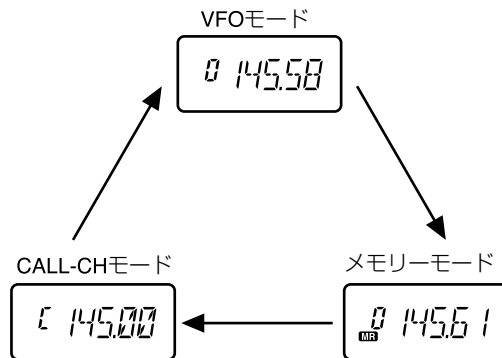
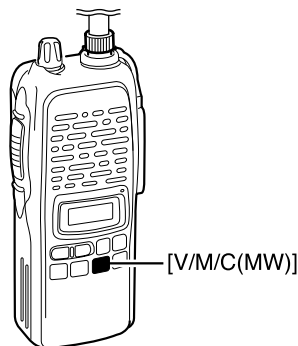
② メモリーモード/CALL-CHモードにするには

あらかじめ記憶させたM-CH、またはアマチュアバンドで決められた呼び出し周波数をメモリーしたCALL-CHを呼び出して運用するモードです。CALL-CHの初期設定値はIC-V1が145.000MHzに、IC-U1が433.000MHzに設定されています。(※P30)

メモリーモードにするには、表示部に“**MR**”が表示されるまで、[V/M/C(MW)]を短く押します。

CALL-CHにするには、表示部に“**f**”が表示されるまで、[V/M/C(MW)]を短く押します。

●VFO/メモリー/CALL-CHの切り替え動作図



→ : [V/M/C(MW)]を短く押す

※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

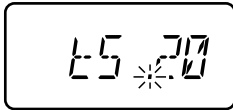
■ チューニングステップを変えるには

チューニングステップとは、[▼]/[▲]で周波数をセットするときに、変化する周波数の幅をいいます。

チューニングステップは、5kHz/10kHz/12.5kHz/15kHz/20kHz/25kHz/30kHz/50kHzの中から選択できます。

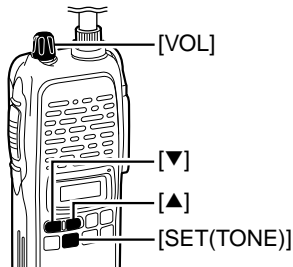
チューニングステップは、セットモードで選択できます。(※P41)

- ① [SET(TONE)]を短く押して、セットモードを表示します。
- ② [▼]/[▲]を短く押して、「チューニングステップの設定(tS)」項目を選択します。(※P41)



- ③ [VOL]を回して、5kHz、10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、25kHz、30kHz、50kHzの中から選択します。
- ④ [SET(TONE)]を短く押すと、セットモードを解除して周波数表示に戻ります。

[MONI]、[PTT]を短く押しても、セットモードを解除して周波数表示に戻ります。

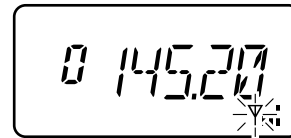
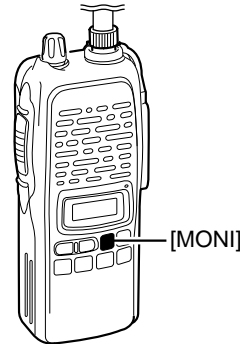


■ 受信モニター機能について

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくい場合に効果があります。

また、DV(デジタル音声)モード運用(別売品のデジタルユニットが必要です)ではモニター時の電波型式をアナログ(FMモード)かデジタルかを選択できます。(※P50)

- ① [MONI]を押しているあいだ、スケルチを開いて受信します。“▽”(アンテナマーク)表示が点滅して、モニター機能を表示します。
- ② [MONI]を離すと、モニター機能を解除します。(※P50)モニター機能の動作中、周波数の変更はできません。



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

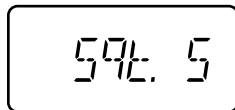
“▽”表示が点滅する

4 基本操作のしかた

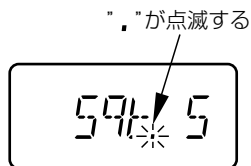
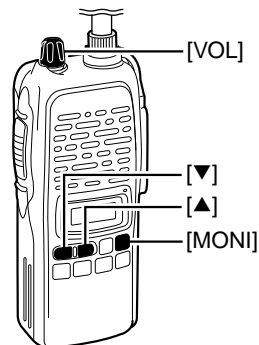
■スケルチディレイの設定

受信時のスケルチディレイ(遅延)の制御時間をイニシャルセットモードで選択することができます。(☞P48)

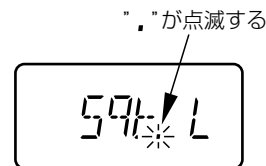
- ① [PWR]を長く(約1秒)押して、いったん電源を切ります。
- ② [▼]、[▲]を同時に押しながら[PWR]を押して、電源を入れます。(イニシャルセットモードを表示します。)(☞P45)
- ③ [▼]/[▲]を短く押して、「スケルチディレイの設定(Sqt)」項目を選択します。(☞P48)



- ④ [VOL]を回して、「S(Short)」または「L(Long)」を選択します。
 - Sqt. S : スケルチディレイ(遅延)時間を「S(Short)」にします。(初期設定値)
 - Sqt. L : スケルチディレイ(遅延)時間を「L(Long)」にします。
- ⑤ [PWR]を短く押すと、周波数表示に戻ります。



スケルチディレイを“S”
に設定したとき



スケルチディレイを“L”
に設定したとき

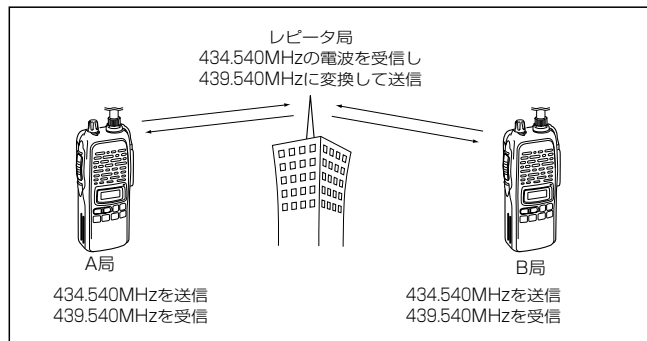
■ オートレピータ機能での交信(IC-U1のみ)

IC-U1は、オートレピータ機能を搭載しており、周波数を439.000MHz~440.000MHzに合わせるだけで、レピータ運用モードになります。

※ 144MHz帯は、レピータが設置されていないので、IC-V1ではこの機能は動作しません。

※ レピータとは、山や建物などの障害物で直接交信できない局との交信を可能にする自動無線中継局のことをいいます。

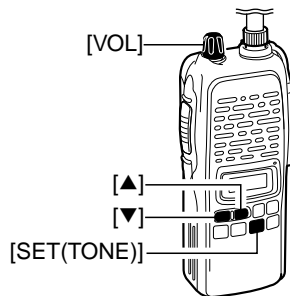
※ オートレピータ機能は、イニシャルセットモードの「**オートレピータ機能の設定(RPt)**」項目で無効にすることもできます。(☞P17, 47)



※ 430MHz帯では、各地区にレピータが設置されているので、JARL NEWSや各専門誌などでお調べください。

◇ レピータ周波数を設定する

- ① **[V/M/C(MW)]**を短く押して、VFOモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② **[▼]/[▲]**を押して、交信する周波数を設定します。
439.000MHz~440.000MHzに合わせます。
“**_♪**”を表示して、トーン周波数(88.5Hz/初期設定値)とオフセット周波数(5.000MHz/初期設定値)が自動的に設定されます。
※送信と受信の周波数のずれ幅のことをオフセット周波数といいます。



【ご注意】

レピータアクセス用トーン周波数(☞P40)とオフセット周波数(☞P19, 41)を変更したときは、オートレピータ機能のトーン周波数/オフセット周波数も変更されます。

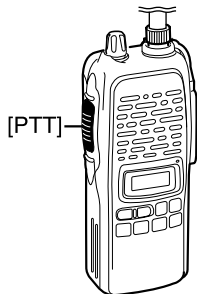
5 レピータ/デュプレックスの操作

■ オートレピータ機能での交信(IC-U1のみ) つづき

◇ レピータにアクセスする

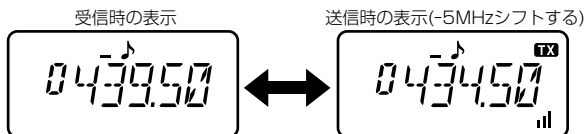
[PTT]を約2秒間押し、離します。

※ 発射した電波がレピータに届いていれば、受信状態に戻ったときに、ID信号(モールス符号または音声)が聞こえます。
なお、タイミングにより、ID信号が聞こえない場合もあります。



◇ 交信する

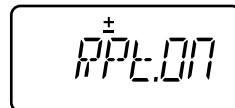
[PTT]を押すと送信状態、離すと受信状態に戻ります。



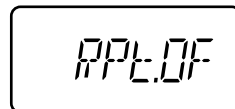
◇ オートレピータ機能の解除のしかた

オートレピータ機能は、イニシャルセットモードで解除できます。(※P47)

- ① [PWR]を押して、いったん電源を切ります。
- ② [▼]と[▲]を押しながら[PWR]を押して、電源を入れます。(イニシャルセットモードを表示します。)(※P45)
- ③ [▼]または[▲]を短く押して、「オートレピータ機能の設定(RPt)」項目を選択します。(※P47)



- ④ [VOL]を回して、「RPt.OF」を選択します。



- RPt.ON : オートレピータ機能を有効にします。(初期設定)
 - RPt.OF : オートレピータ機能を無効にします。
- ⑤ [PWR]を短く押すと、イニシャルセットモードを解除します。

■ オートレピータ機能での交信(IC-U1のみ) つづき

◇ 送信周波数のチェック

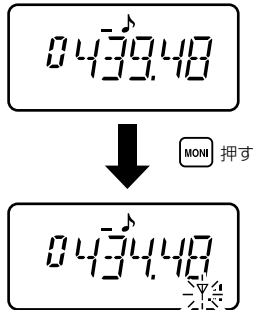
レピータの運用中に、レピータを中継しなくても交信可能かどうかチェックできます。

[MONI]を押して、交信相手の信号が受信できれば、レピータで中継しなくても交信できるようになります。

※ モニター機能動作時は、“▽”(アンテナマーク)表示が点滅します。

※ 受信できるときは、439.000MHz以下の周波数に移って交信しましょう。

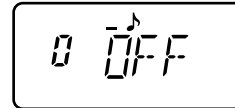
※ モニター機能動作時は、オフセット周波数分だけ周波数表示がシフトします。



◇ 送信時のオフバンド表示について

オフセット周波数を変更(※P19、41)したときは、オートレピータ機能のオフセット周波数も変化するのでご注意ください。

※ 送信したときにアマチュアバンドから逸脱するようなオフセット周波数を設定すると、送信出力は停止して周波数表示部に“OFF”を表示し、オフバンドしていることを知らせます。



※ オフバンド表示になったときは、もう一度オフセット周波数を設定しなおしてください。

5 レピータ/デュプレックスの操作

■デュプレックスの運用

デュプレックス運用とは、通常の交信(シンプレックス：送受信同一周波数)と違い、同一バンド内で送信と受信の周波数をずらして交信することをいいます。

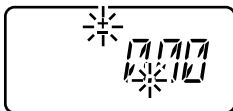
- 「dUP +(プラス)」を設定すると、送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数*だけ高くなります。
- 「dUP -(マイナス)」を設定すると、送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数*だけ低くなります。

*送信と受信の周波数のずれ幅のことをオフセット周波数といいます。

◇オフセット周波数を設定する

オフセット周波数は、セットモードで設定できます。(※P41)

- ①メモリーモードのときは[V/M/C(MW)]を2回、コールチャンネルのときは1回短く押して、VFOモードにします。
- ②[SET(TONE)]を短く押して、「オフセット周波数の設定」項目を選択します。(※P41)



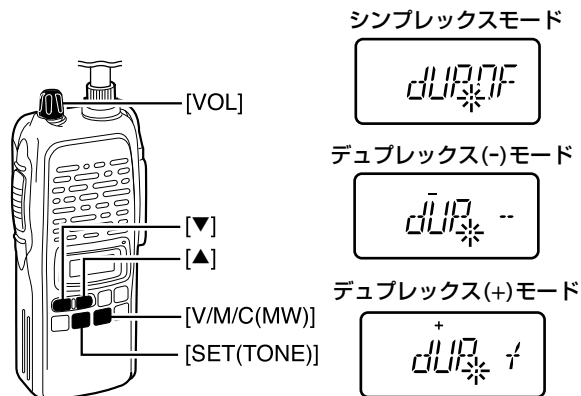
- ③[VOL]を回して、オフセット周波数を設定します。
なお、オフセット周波数のチューニングステップは、セットモードのチューニングステップで設定できます。(※P41)
0.000~20.000MHzの範囲で設定できます。
IC-V1は“0.000MHz”を初期設定しています。
IC-U1は“5.000MHz”を初期設定しています。
- ④[SET(TONE)]、[MONI]、[PTT]スイッチのどれかを短く押すと、セットモードを解除します。

◇デュプレックスモードを設定する

- ①メモリーモードのときは[V/M/C(MW)]を2回、コールチャンネルのときは1回短く押して、VFOモードにします。
- ②[▼]/[▲]を押して、交信する周波数を設定します。
- ③[SET(TONE)]を短く押し、[▼]/[▲]を押して、「デュプレックスモードの設定(dUP)」項目を選択します。(※P41)



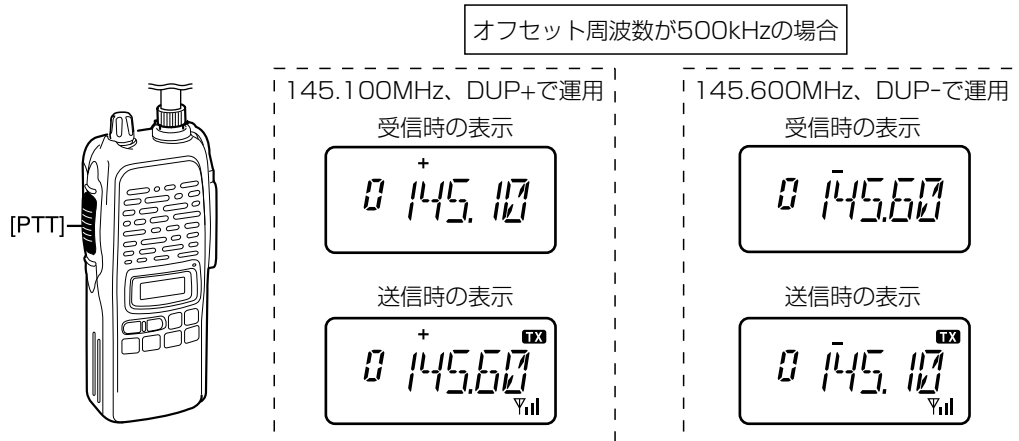
[VOL]を回して、「dUP.OF(シンプレックス)」→「dUP.- (マイナス)」→「dUP.(プラス)」とデュプレックスモードを切り替えます。



■デュプレックスの運用 (つづき)

◇交信する

[PTT]スイッチを押すと送信状態、離すと受信状態に戻ります。



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

◇送信時のオフバンド表示について

- 送信したときにアマチュアバンドから逸脱するようなオフセット周波数を設定すると、送信出力は停止して周波数表示部に“OFF”を表示して、送信周波数がオフバンドしていることをお知らせします。
- オフバンド表示になったときは、もう一度オフセット周波数、またはデュプレックスのシフト方向(+/-)を設定しなおしてください。

6

メモリーチャンネルの操作

■メモリーモードについて

よく使用する周波数や運用情報などを、あらかじめメモリーチャンネルに記憶させておき、すばやく呼び出して運用するためのモードです。

- 本機には、通常のメモリーチャンネル(M-CH)として200CH、プログラムスキャン用チャンネル(PROGRAM-CH)として6CH(3組)(1A/1B~3A/3B)、およびコールチャンネル(CALL-CH)として1CH(C)の合計207CHを内蔵しています。
- M-CHを運用する際は、メモリーモードにします。メモリー(記憶)していないチャンネルは呼び出さないので、すばやく目的のM-CHを呼び出せます。
- M-CHに記憶する際は、VFOモードで内容を設定したあと、書き込み操作をします。

◆M-CHに記憶できる内容について

- すべてのM-CHで運用周波数のほかに、下記の内容を記憶します。
- 「デュプレックスのON/OFF」、「シフト方向(+/-)」、「デュプレックスの反転」、「オフセット周波数」、「トーンスケルチのトーン周波数と運用モードのON/OFF」、「レピータアクセス用トーン周波数」「DTCSコード・極性」、「メモリーバンク」、「スキップチャンネル」、「チューニングステップ」、「受信モード」、「送信出力設定」、「メモリーネームのON/OFF」、「送信の禁止」、「ワイド/ナロー」
 - オプションのデジタルユニットを取り付けたとき、「コールサイン(相手局、レピータのみ)」、「デジタルコードスケルチのON/OFF」、「デジタルコールサインスケルチのON/OFF」も記憶します。
 - オプションのDTMF/コードスケルチユニットを取り付けたとき、「ページャー/コードスケルチの設定」も記憶します。

◆表記について

- 以後の説明において、メモリーチャンネルは(M-CH)、プログラムスキャン用チャンネルは(PROGRAM-CH)、コールチャンネルは(CALL-CH)と略記します。

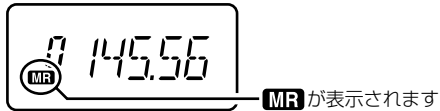
◇M-CHの初期設定値について

チャンネル	おもな用途
0~199 (M-CH)	<ul style="list-style-type: none">● 通常のM-CHとして使用します● 工場出荷時に記憶している内容 “0”：145.000MHz(IC-V1) 433.000MHz(IC-U1) ※ 1~199は工場出荷時、ブランクチャンネルのため表示しません
1A/1B~ 3A/3B (PRO- GRAM-CH)	<ul style="list-style-type: none">● プログラムスキャンの周波数設定用 “1A/1B~3A/3B”6CH(3組)● 工場出荷時、すべてブランクチャンネルのため表示しません 希望の周波数範囲(下限周波数と上限周波数)を書き込んでください。
C (CALL-CH)	<ul style="list-style-type: none">● アマチュアバンドの呼び出し周波数をセットしています “C”：145.000MHz(IC-V1)、 433.000MHz(IC-U1) ※ 通常のM-CHとして使用できます

■ M-CHの呼び出しかた

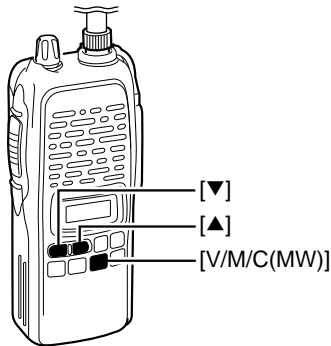
メモリーしていないM-CHを呼び出すことはできません。

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードにします。
 押しごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
 メモリーモードが選択されると、表示部に“MR”が点灯します。



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

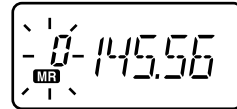
- ② [▼]/[▲]を押します。
 書き込まれているM-CHだけを呼び出します。



◇ すべてのM-CHを呼び出す

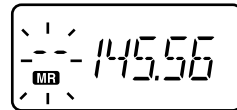
- ① [FUNC]を短く押してから、[V/M/C(MW)]を短く押して、セレクトメモリーライト状態にします。(M-CH表示部が点滅します。)
- ② [▼]/[▲]を押すと、すべてのM-CHを呼び出すことができます(書き込まれていないM-CHも呼び出せます)。
- ③ [MONI]を短く押すと、VFOモードに戻ります。

- VFOモードからセレクトメモリーライト状態にしたとき

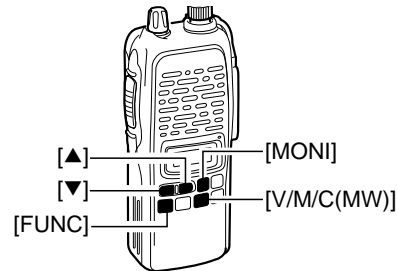


※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

- メモリーモードからセレクトメモリーライト状態にしたとき



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。



6 メモリーチャンネルの操作

■メモリー(M-CH/CALL-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた

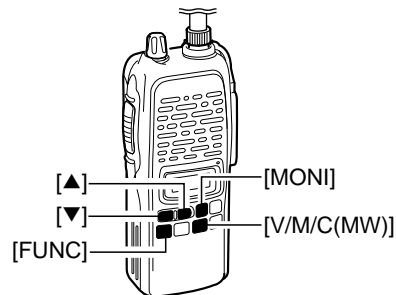
M-CH、CALL-CH、PROGRAM-CHへの書き込み、または書き替えをします。

工場出荷時は、M-CHの“0～199”までがブランクチャンネルになっています。

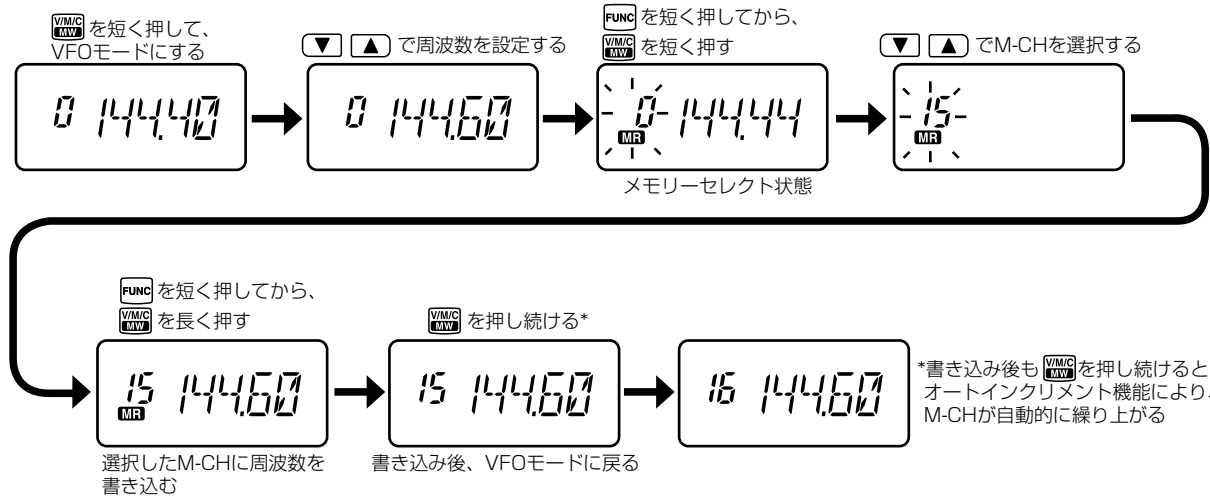
◇M-CHの書き込みかた

《例》IC-V1でM-CH“15”に“144.60MHz”をメモリーする。

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [▼]/[▲]を押して、周波数(144.60MHz)を設定します。
- ③ [FUNC]を短く押し、[V/M/C(MW)]を短く押して、セレクトメモリーライト状態にします。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
- ④ [▼]/[▲]を押して、M-CH“15”を選択します。
“C”を選択するとCALL-CHに書き込みます。
“-- --”を選択するとVFOに書き込みます。
“1A/1B～3A/3B”を選択するとPROGRAM-CHに書き込みます。
- ⑤ [FUNC]を短く押し、[V/M/C(MW)]を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押すと、周波数をメモリーに書き込み、メモリー内容を表示してVFOモードに戻ります。



■メモリー(M-CH/CALL-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた (つづき)



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

6 メモリーチャンネルの操作

■メモリー(M-CH/CALL-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた (つづき)

◇書き込み後のオートインクリメントについて

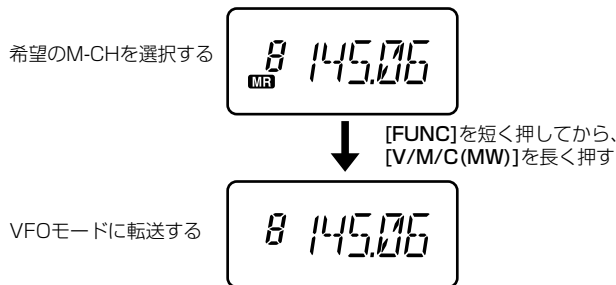
23ページの手順⑤で書き込み完了後も[V/M/C(MW)]を押し続ける(ピッ、ピピ ピーが鳴るまで)と、M-CHが1CHだけ自動的に繰り上がり、VFOモードになります。

M-CHを続けて書き込みをするときに便利な機能です。

◇M-CHの内容をVFOに転送して使うには

使用しているM-CH、またはCALL-CHの周辺に移って交信する場合などに便利な機能です。

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [▼]/[▲]を押して、希望のM-CHを呼び出します。
- ③ [FUNC]を短く押してから、[V/M/C(MW)]を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押します。
M-CHの内容をVFOに転送して、VFOモードになります。

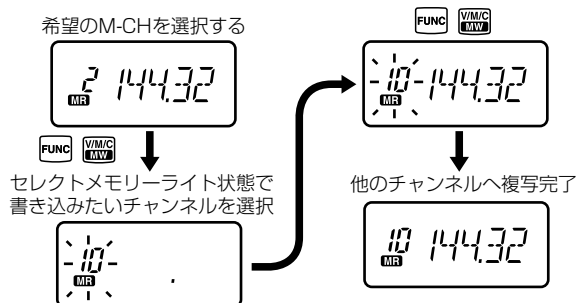


※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

◇M-CHの内容を他のチャンネルへ複写するには

M-CHの内容をCALL-CHや、プログラムスキャン用周波数として複写する場合に便利な機能です。

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [▼]/[▲]を押して、希望のM-CHを呼び出します。
- ③ [FUNC]を短く押してから、[V/M/C(MW)]を短く押して、セレクトメモリーライト状態にします。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
- ④ [▼]/[▲]を押して、複写したいM-CHを選びます。
“C”を選択するとCALL-CH、“-- --”を選択するとVFO、“1A/1B~3A/3B”を選択するとPROGRAM-CHに書き込みます。
- ⑤ [FUNC]を短く押してから、[V/M/C(MW)]を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押すと、複写します。



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

■ M-CHをバンクで編集する

本機のM-CHは207CHあります。
CALL-CHを除く206CHに書き込んだM-CHの内容を10個のバンク(A、B、C、D、E、F、G、H、I、J)に分割して編集することができます。
各バンクには、0～199および1A～3BのすべてのM-CHを割り当てることができます。

◇ M-CHとバンクの使用例

※IC-V1でバンク編集する場合の例です。

M-CHの内容		バンクの内容				
001 144.000MHz	A	A (バンク) 144.000MHz } 144.000MHz 144.140MHz } } 144.510MHz } 144.500MHz 004 145.120MHz } を編集する 005 145.340MHz } 006 144.040MHz } 007 144.560MHz } 008 145.480MHz } 009 144.560MHz } 010 145.620MHz } 011 144.050MHz } 012 145.200MHz } 013 145.250MHz } 014 145.125MHz } 015 144.440MHz } 016 145.850MHz } 017 144.720MHz } 018 145.050MHz } 019 144.700MHz } 020 144.795MHz } 021 145.700MHz } 022 144.300MHz } 199 145.870MHz } C (バンク) 145.200MHz } 145.001MHz 145.125MHz } } 145.700MHz } 146.000MHz 145.870MHz } を編集する				
	B		B (バンク) 144.501MHz } 144.501MHz 144.510MHz } } 144.560MHz } 145.000MHz 011 144.720MHz } を編集する			
	C			C (バンク) 145.001MHz } 145.001MHz 145.125MHz } } 145.700MHz } 146.000MHz 017 144.720MHz } を編集する		
	A				A (バンク) 144.000MHz } 144.000MHz 144.140MHz } } 144.510MHz } 144.500MHz 004 145.120MHz } を編集する	
	B					B (バンク) 144.501MHz } 144.501MHz 144.510MHz } } 144.560MHz } 145.000MHz 011 144.720MHz } を編集する
	C					

◇ バンクのM-CH表記について

各バンクに編集されたM-CHは、書き込んだ順に編集されます。
また、各バンクで編集したバンクのチャンネル番号は表示されません。

メモリーバンクは、M-CHを整理するために使用します。
編集元のM-CHを変更または更新するとメモリーバンクの内容も変更されます。

◇ 編集のしかた

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードにします。
[V/M/C(MW)]を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [▼]/[▲]を押して、バンクに編集するM-CHを選びます。
- ③ [SET(TONE)]を短く押して、セットモードにします。
- ④ [▼]/[▲]を押して、「メモリーバンクの設定(bAK)」項目を選択します。(※P43)

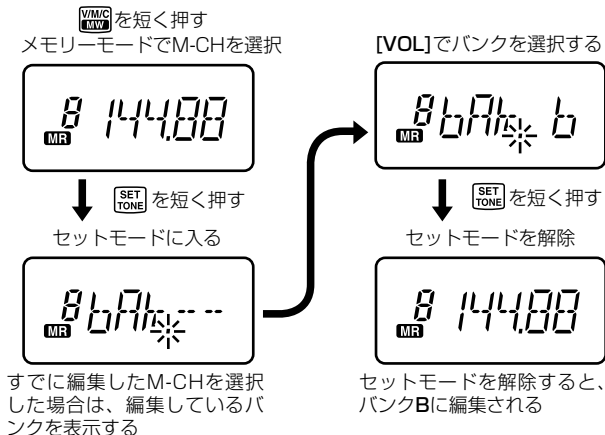
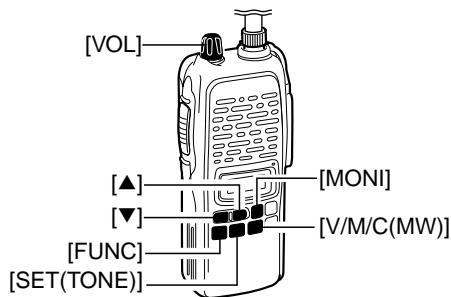


- ⑤ [VOL]を回して、メモリーバンク(A～J)を選択します。
※バンクを解除するときは、[VOL]を回して“bAk -- --”を選択します。
- ⑥ [MONI]を短く押すと、選択したメモリーバンクに書き込み、セットモードを解除します。

6 メモリーチャンネルの操作

■ M-CHをバンクで編集する (つづき)

● メモリーバンク編集の操作



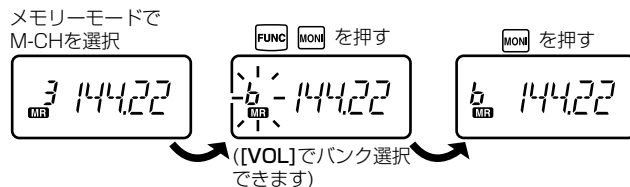
※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

◇ メモリーバンクに編集した内容を確認するには

- ① [V/M/C(MW)] を短く押して、メモリーモードにします。
[V/M/C(MW)] を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [FUNC] を短く押してから、[MONI] を短く押し、[VOL] を回して、メモリーバンク(A~J)を選択します。(メモリー表示部が点滅します)
- ③ [MONI] を短く押すと、メモリー表示部が点滅から点灯に変わります。
- ④ [▼]/[▲] を押すと、メモリーバンクに編集した内容呼び出します。

VFOモードに戻るときは、[V/M/C(MW)] を短く2回押しします。

メモリーチャンネルモードに戻るときは、[FUNC] を短く押してから、[MONI] を短く押し、[VOL] を回して、メモリーチャンネルを選択して、再度[MONI] を短く押しします。



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

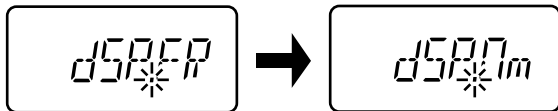
■メモリー名の使いかた

メモリーに記憶しているM-CHにアルファベット、数字、記号を使用して、5文字以内で名前(ネーム)を入れることができます。

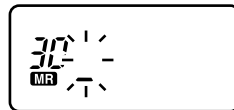
◇メモリー名を入力する

《例》M-CH“30”に“LOCAL”のメモリー名を入れる場合

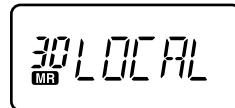
- ①電源が入っているときは、いったん電源を切ります。
- ②[▼]/[▲]を押しながら[PWR]を押して、イニシャルセットモードに入ります。(※P45)
- ③[▼]/[▲]を押して、「メモリーモード中の表示設定(dSP)」項目を選択します。(※P49)
- ④[VOL]を回して、「メモリーの名前表示(dSP.nm)」項目を選択します。



- ⑤[PWR]を短く押してイニシャルセットモードを解除します。
- ⑥[V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードに入り、[▼]/[▲]を押して、名前をつけたいメモリー番号を選択します。
すでにネームが登録されているときはネームを表示、未登録のときは周波数表示となります。
- ⑦[SET(TONE)]を短く押すと、メモリーネーム設定画面となり、ネームの1桁目が点滅します。



- ⑧[VOL]を回して、1桁目の文字“L”を選びます。
- ⑨[▼]/[▲]を押して、文字を入れる桁を選びます。
- ⑩前述⑧～⑨を繰り返して、5文字以内でネームを入れます。
- ⑪[SET(TONE)]を短く押すと、メモリーネームを書き込んで、メモリーネーム設定画面を解除します。



※ネームを訂正したいときは、メモリーネームを入れなおしてください。
最後に入れたネームが有効となります。

●文字入力一覧表

(space)	↑(+)	--(-)	==(=)	✕(*)	/(/)	□(□)	∩(∩)	∪(∪)	∅(∅)
1(1)	2(2)	3(3)	4(4)	5(5)	6(6)	7(7)	8(8)	9(9)	A(A)
b(B)	c(C)	d(D)	e(E)	f(F)	g(G)	h(H)	i(I)	j(J)	k(K)
l(L)	m(M)	n(N)	o(O)	p(P)	q(Q)	r(R)	s(S)	t(T)	u(U)
v(V)	w(W)	x(X)	y(Y)	z(Z)					

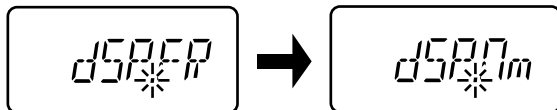
6 メモリーチャンネルの操作

■メモリーネームの使いかた(つづき)

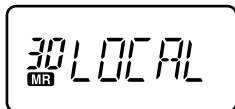
◇メモリーネームを表示するには

メモリーネームの表示は、イニシャルセットモードで設定します。

- ①電源が入っているときは、いったん電源を切ります。
- ②[▼]/[▲]を押しながら[PWR]を押して、イニシャルセットモードに入ります。(※P45)
- ③[▼]/[▲]を押して、「メモリーモード中の表示設定(dSP)」項目を選択します。(※P49)
- ④[VOL]を回して、「メモリーの名前表示(dSP.nm)」項目を選択します。



- ⑤[PWR]を短く押して、イニシャルセットモードを解除します。
- ⑥[V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードに入り、[▼]/[▲]を押して、名前を入れたM-CHを選びます。(28ページのM-CH“30”を選択したときを例とします。)



周波数表示に戻すときは、いったん電源を切って、イニシャルセットモードで「メモリーの名前表示(dSP.nm)」項目を選択して、「メモリーの周波数表示(dSP.FR)」項目を選択してください。

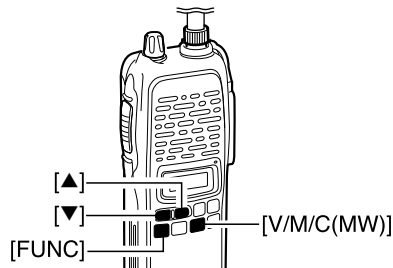
■メモリークリア(消去)のしかた

不要になったM-CHを消去します。

いったん消去したM-CHの内容は、元にもどせないのご注意ください。

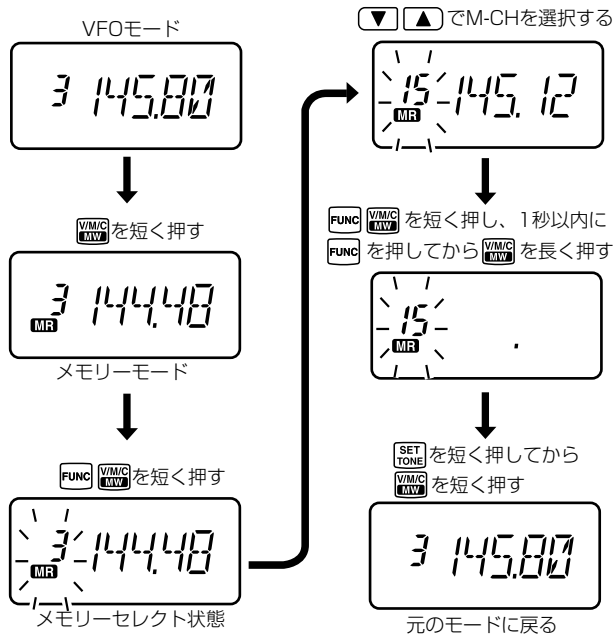
◇メモリーの内容を消去する

- ①[V/M/C(MW)]を短く押して、VFOモードにします。
[V/M/C(MW)]を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ②[FUNC]を短く押してから、[V/M/C(MW)]を短く押して、セレクトメモリーライト状態にします。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
- ③[▼]/[▲]を押して、消去したいM-CHを選びます。
- ④[FUNC]を押してから、[V/M/C(MW)]を短く押して、1秒以内にもう一度、[FUNC]を押してから、[V/M/C(MW)]を長く(ピッ ピピと鳴るまで)押すと、メモリー内容を消去して、セレクトメモリーライト状態になります。
- ⑤消去後、[SET(TONE)]、[MONI]または[H/M/L(☑)]のどれかを押すと、セレクトメモリーライト状態を解除します。



■メモリークリア(消去)のしかた(つづき)

●メモリークリアの操作



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

■コールチャンネル(CALL-CH)の使いかた

CALL-CHとは、各バンドで決められた呼び出し周波数のことで、メインチャンネルとも呼ばれています。

- IC-V1のコールチャンネル C : 145.000MHz
- IC-U1のコールチャンネル C : 433.000MHz

通常のM-CHと同様に、自由にメモリー内容を書き替えられるので、使用頻度の高い周波数を記憶しておくくと便利です。

CALL-CHの呼び出し、以前に使用していた運用モードに戻りたいときは、次のようにします。

- ① **[V/M/C(MW)]**を短く押して、CALL-CHを呼び出します。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② 以前に使用していた運用モードに戻りたいときは、**[V/M/C(MW)]**を1回押すとVFOモード、**[V/M/C(MW)]**を2回押すとメモリーモードに戻ります。

CALL-CHを書き替えるときは次のようにします。

- ① **[V/M/C(MW)]**を短く押して、VFOモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② **[▼]/[▲]**を押して、書き替える周波数を設定します。
- ③ **[FUNC]**を短く押してから、**[V/M/C(MW)]**を短く押して、セレクトメモリーライト状態にします。
- ④ **[▼]/[▲]**を押して、CALL-CHを選択します
周波数の前に“C”を表示します。
- ⑤ **[FUNC]**を短く押してから、**[V/M/C(MW)]**を長く押しすと、CALL-CHの周波数が書き替わります。

7 スキャンの操作

■ スキャンについて

スキャンとは、周波数やM-CHを自動的に切り替えて、信号の出ているところを探し出す機能です。

VFOモードで行うスキャン

● フルスキャンの動作(☞P33)



本機に定められた周波数範囲をスキャンします。

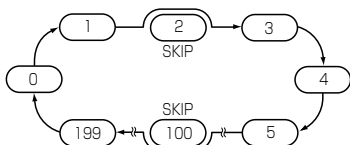
● プログラムスキャンの動作(☞P33)



プログラムスキャン用チャンネル(PROGRAM-CH)に書き込まれた周波数範囲をスキャンします。

メモリーモードで行うスキャン

● メモリー/バンクスキャンの動作(☞P34)



メモリーチャンネル、または指定したバンクに編集されたM-CHをスキャンします。

※バンクスキャン時は、周波数表示のみ切り替わる

◇ スケルチの調整

通常は雑音が消え“▽”(アンテナマーク)表示が消灯する位置にセットしておきます。

スキャン動作中でも、スケルチの調整ができます。

◇ スキャン中の[▼]/[▲]について

- スキャン中に[▼]/[▲]を押すと、押したボタンの方向でアップスキャンとダウンスキャンを切り替えます。
- 信号を受信してスキャンを一時停止しているときに、[▼]/[▲]を押すと即時再スタートします。

◇ スキャン中のステップについて

スキャン中に周波数を切り替えるステップ幅は、あらかじめ各バンドごとに設定しているチューニングステップ(☞P14, 41)で動作します。

◇ スキップ機能について

すべてのスキャンでスキップチャンネル(必要のないM-CHをスキャンから除外する)の指定ができます。

スキップチャンネルの設定については32ページを参照してください。

■ スキヤンについて (つづき)

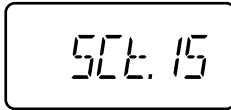
◇ 信号を受信すると

スキヤン中に信号を受信すると、その周波数で約15秒(初期設定)間停止して受信します。
約15秒経過すると、自動的に再スタートします。

◇ 再スタートの条件設定

再スタートの条件は、セットモードで変更できます。

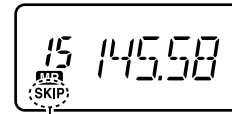
- ① [SET(TONE)]を短く押して、セットモードを表示します。
- ② [▼]/[▲]を押して、「スキヤンストップタイマーの設定(Sct)」項目を選択します。(※P42)



- ③ [VOL]を回して、再スタートの条件を選択します。
 - Sct. 5 : 一時停止してから5秒後に再スタートします。
 - Sct.10 : 一時停止してから10秒後に再スタートします。
 - Sct.15 : 一時停止してから15秒後に再スタートします。
(初期設定値)
 - SCP. 2 : 信号を受信しているあいだは一時停止し、信号が無くなると約2秒後に再スタートします。
- ④ [SET(TONE)]または[MONI]を短く押すと、セットモードを解除します。

◇ スキップチャンネルの指定と解除のしかた

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [SET(TONE)]を短く押して、セットモードを表示します。
メモリーネーム表示、またはチャンネル番号表示になっているときは、イニシャルセットモードで周波数表示に設定してください。(※P49)
- ③ [▼]/[▲]を押して、「スキップチャンネル(CHs)」の設定項目を選択します。(※P43)
- ④ [VOL]を回して、「CHs.ON」または「CHs.OF」を選択します。
 - CHs.OF : メモリーチャンネルのスキップ機能を解除します。(初期設定値)
 - CHs.ON : “SKIP”表示が点灯します。
メモリースキヤン時、指定したM-CHをスキップします。
- ⑤ [MONI]または[SET(TONE)]を短く押すと、セットモードを解除します。



スキップ表示

7 スキャンの操作

■VFOスキャンのしかた

◇フルスキャン/プログラムスキャンの操作

- フルスキャンは、本機に定められた周波数範囲をスキャンします。

表示：AL : フルスキャン動作となります。

- プログラムスキャンは、次の周波数範囲をスキャンします。

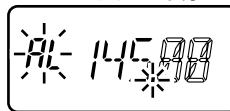
表示：P1 : 1A/1Bに設定された周波数範囲をスキャンします。

表示：P2 : 2A/2Bに設定された周波数範囲をスキャンします。

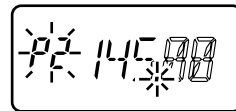
表示：P3 : 3A/3Bに設定された周波数範囲をスキャンします。

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [FUNC]を押したあと、[▲]を押すと、高い周波数のほうにVFOスキャンを開始します([▼]を押すと、低い周波数のほうにVFOスキャンを開始します)。
(メモリー表示部にスキャンガイダンス表示が点滅します。) スキャン中に[SET(TONE)]を短く押すと、フルスキャン、プログラムスキャンを切り替えることができます。
- ③ [V/M/C(MW)]または[H/M/L]を短く押すと、フルスキャン、プログラムスキャンを解除します。

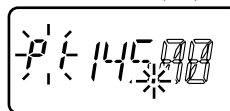
フルスキャンの表示



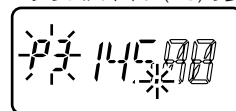
プログラムスキャン(P2)の表示



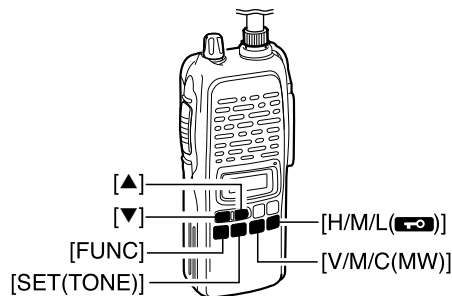
プログラムスキャン(P1)の表示



プログラムスキャン(P3)の表示



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。



■メモリスキャンのしかた

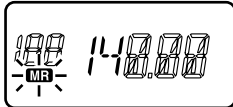
◇メモリスキャンの操作

メモリスキャンは、周波数を記憶しているM-CHを順次切り替えて、信号を探し出すスキャンです。

スキップチャンネルに指定したM-CH(**MR**が点灯)は、スキャンスタート操作をしたとき、そのM-CHをスキップしてスキャンします。

- ① **[V/M/C(MW)]**を短く押して、メモリーモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② **[FUNC]**を押したあと、**[▲]**を押すと、M-CH番号の大きいほうにメモリスキャンを開始します(**[▼]**を押すと、M-CH番号の小さいほうにメモリスキャンを開始します)。
(メモリー表示部にスキャンガイダンス表示が点滅します。)
- ③ **[V/M/C(MW)]**または**[H/M/L(←→)]**を短く押すと、メモリスキャンを解除します。

メモリスキャンの表示



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

■メモリーバンクスキャンのしかた

◇メモリーバンクスキャンの操作

指定したバンクに編集されたM-CH(周波数)をスキャンします。

※バンクに編集したチャンネル番号は表示されません。

※セットモードでメモリーバンクのリンク機能(☞P44)が設定されている場合は、リンクしているバンクもスキャンします。

※スキップが指定されたM-CH(周波数)はスキップしてスキャンします。

- ① **[V/M/C(MW)]**を短く押して、メモリーモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② **[FUNC]**を短く押してから、**[MONI]**を短く押し、メモリーバンク選択状態にします。
(メモリー表示部が点滅します。)
- ③ **[VOL]**を回して、メモリーバンク(**A~J**)を選択します。
- ④ **[MONI]**を短く押して、バンクを設定します。
(バンク表示部が点滅から点灯に切り替わります。)
- ⑤ **[FUNC]**を押したあと、**[▲]**を押すと、同じメモリーバンク内のM-CH番号の大きい方にメモリーバンクスキャンを開始します(**[▼]**を押すと、M-CH番号の小さいほうにメモリーバンクスキャンを開始します)。
(メモリー表示部にスキャンガイダンス表示が点滅します。)
- ⑥ **[V/M/C(MW)]**または**[H/M/L(←→)]**を短く押すと、メモリーバンクスキャンを解除します。

8 プライオリティスキャンの操作

■ プライオリティスキャンについて

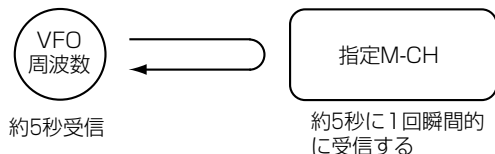
プライオリティスキャンは、通常の受信をしながら特定周波数の信号の有無を受信(監視)するためのスキャンです。プライオリティスキャンには、下記の種類があります。

- 受信する周波数/M-CHは、約5秒ごとに1回(0.5秒以内)受信し、信号を受信すると他のスキャンと同様に一時停止します。受信する周波数/M-CHを、プライオリティCH(チャンネル)といいます。
- ※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、他のスキャンと同じです。(セットモードの設定条件)

種 類	動 作
VFO周波数とM-CH	VFO周波数を約5秒間受信しながら、指定のM-CHの信号を受信(監視)します。
VFO周波数とメモリースキャン	VFO周波数を約5秒間受信しながら、スキャン中のM-CHを順次受信(監視)します。
VFO周波数とCALL-CH	VFO周波数を約5秒間受信(ワッチ)しながら、指定のコールチャンネルを受信(監視)します。
VFO周波数とメモリーバンク	VFO周波数を約5秒間受信(ワッチ)しながら、指定のメモリーバンクに編集したM-CHの周波数を受信(監視)します。

◇ VFO周波数を受信中にM-CHを受信する

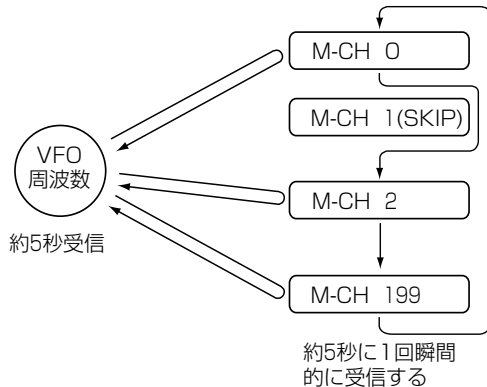
- ① [V/M/C(MW)]を短く押し、VFOモードにして、[▼]/[▲]を押して周波数を設定します。
[V/M/C(MW)]を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [V/M/C(MW)]を短く押し、メモリーモードにして、[▼]/[▲]を押して受信するM-CHを指定します。
- ③ [FUNC]を押してから、[H/M/L(←→)]を短く押すと、「VFO周波数を受信中にM-CHを受信する」プライオリティスキャンを開始します。
- ④ [V/M/C(MW)]を短く押すと、「VFO周波数を受信中にM-CHを受信する」プライオリティスキャンを解除します。



■ プライオリティスキャンについて (つづき)

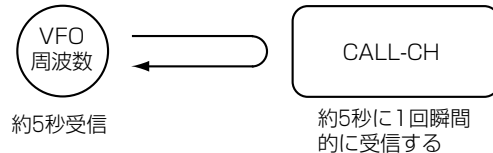
◇ VFO周波数を受信中にM-CHを順次受信する

- ① [V/M/C(MW)]を短く押し、VFOモードにして、[▼]/[▲]を押して周波数を設定します。
[V/M/C(MW)]を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードにします。
- ③ [FUNC]を押してから、[▼]か[▲]を押して、メモリスキャンをスタートさせます。
- ④ [FUNC]を押してから、[H/M/L(☞)]を短く押すと、「VFO周波数を受信中にM-CHを順次受信する」プライオリティスキャンを開始します。
- ⑤ [V/M/C(MW)]を短く押すと、「VFO周波数を受信中にM-CHを順次受信する」プライオリティスキャンを解除します。



◇ VFO周波数を受信中にCALL-CHを受信する

- ① [V/M/C(MW)]を短く押し、VFOモードにして、[▼]/[▲]を押して周波数を設定します。
[V/M/C(MW)]を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [V/M/C(MW)]を短く押して、CALL-CHモードにします。
- ③ [FUNC]を押してから、[H/M/L(☞)]を短く押すと、「VFO周波数を受信中にCALL-CHを受信する」プライオリティスキャンを開始します。
- ④ [V/M/C(MW)]を短く押すと、「VFO周波数を受信中にCALL-CHを受信する」プライオリティスキャンを解除します。

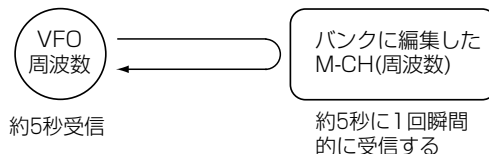


8 プライオリティスキャンの操作

■ プライオリティスキャンについて (つづき)

◇ VFO周波数を受信中にメモリーバンクに編集したM-CH(周波数表示のみ)を受信する

- ① **[V/M/C(MW)]**を短く押し、VFOモードにして、**[▼]/[▲]**を押して周波数を設定します。
[V/M/C(MW)]を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② **[V/M/C(MW)]**を短く押し、メモリーモードにします。
- ③ **[FUNC]**を押したあと、**[MONI]**を短く押し、メモリーバンク選択状態にします。(メモリー表示部が点滅します。) 選択したM-CHをすでに編集している場合は、編集しているバンクを表示します。
- ④ **[VOL]**を回して、メモリーバンク(A~J)を選択します。
- ⑤ **[MONI]**を短く押し、バンクを設定します。
(バンク表示部が点滅から点灯に切り替わります。)
- ⑥ **[▼]/[▲]**を押して、バンクに編集した周波数を選択します。
- ⑦ **[FUNC]**を押してから、**[H/M/L(←→)]**を短く押し、**「VFO周波数を受信中にメモリーバンクに編集したM-CHを受信する」** プライオリティスキャンを開始します。
- ⑧ **[V/M/C(MW)]**を短く押し、**「VFO周波数を受信中にメモリーバンクに編集したM-CHを受信する」** プライオリティスキャンを解除します。

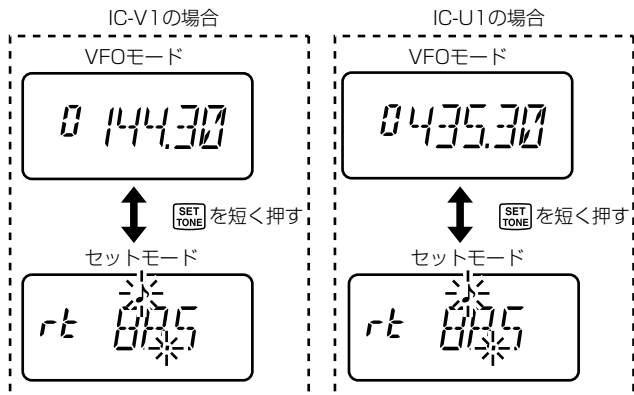


■ セットモードの設定方法

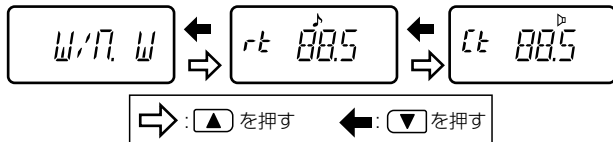
セットモードは、初期設定されている運用条件を、運用する状況やお好みの使いかたに応じて変更するモードです。

◇ セットモードの操作

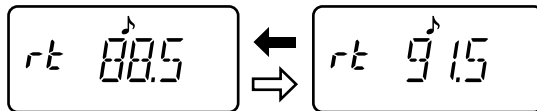
- ① [SET(TONE)]を短く押します。
セットモードを表示します。



- ② [▼]または[▲]を押すごとに、設定項目が切り替わります。



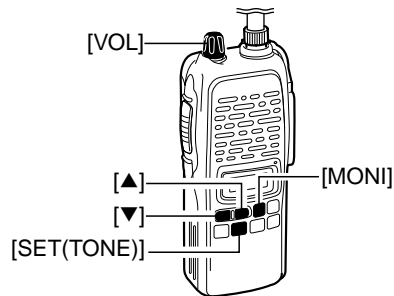
- ③ [VOL]を回して、設定内容を選択します。
続けてセットモードを設定するときは、②と③を繰り返し操作してください。



[VOL]を回す

- ④ [SET(TONE)]または[MONI]を短く押すと、セットモードを解除します。

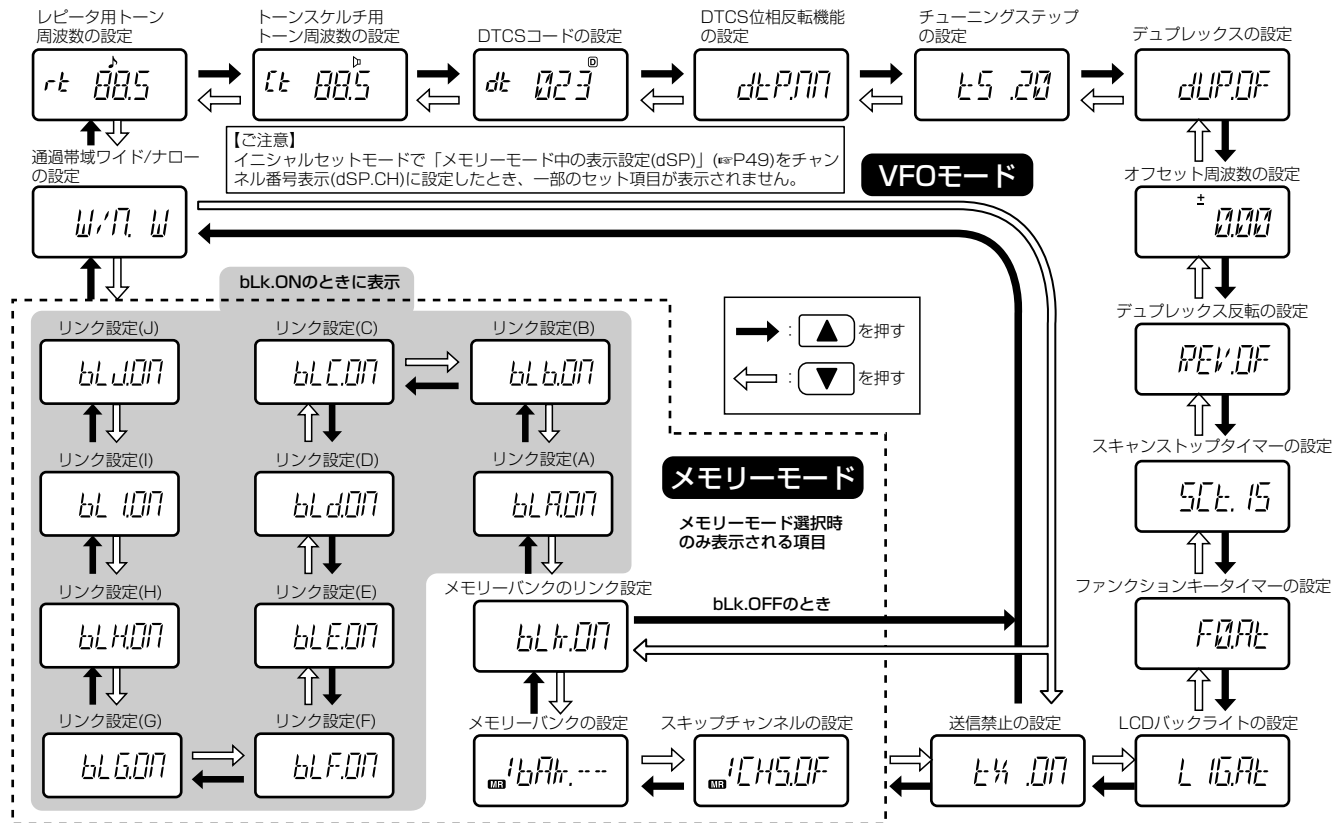
● セットモードで使用する操作キー



9 セットモード

■ セットモードの設定方法 (つづき)

◇ セットモードの設定項目 (VFO/メモリーモード)

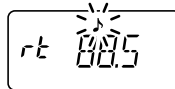


■ セットモードの設定項目について(VFO/メモリーモード)

◇ レピータ用トーン周波数の設定

レピータ運用で使用するトーン周波数を設定します。

- **88.5** : 67.0~254.1Hz(50波)の中から
選択します。
(初期設定値 : 88.5Hz)

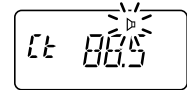


67.0	91.5	123.0	162.2	189.9	229.1
69.3	94.8	127.3	165.5	192.8	233.6
71.9	97.4	131.8	167.9	196.6	241.8
74.4	100.0	136.5	171.3	199.5	250.3
77.0	103.5	141.3	173.8	203.5	254.1
79.7	107.2	146.2	177.3	206.5	(単位: Hz)
82.5	110.9	151.4	179.9	210.7	
85.4	114.8	156.7	183.5	218.1	
88.5	118.8	159.8	186.2	225.7	

◇ トーンスケルチ用トーン周波数の設定

トーンスケルチ、ポケットビーブで使用するトーン周波数を設定します。

- **88.5** : 67.0~254.1Hz(50波)の中から
選択します。
(初期設定値 : 88.5Hz)

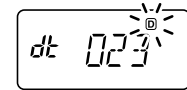


67.0	91.5	123.0	162.2	189.9	229.1
69.3	94.8	127.3	165.5	192.8	233.6
71.9	97.4	131.8	167.9	196.6	241.8
74.4	100.0	136.5	171.3	199.5	250.3
77.0	103.5	141.3	173.8	203.5	254.1
79.7	107.2	146.2	177.3	206.5	(単位: Hz)
82.5	110.9	151.4	179.9	210.7	
85.4	114.8	156.7	183.5	218.1	
88.5	118.8	159.8	186.2	225.7	

◇ DTCSコードの設定

コードスケルチ、DTCSビーブで使用するコードを設定します。

- **023** : 023~754(104波)の中から選択し
ます。
(初期設定値 : 023)



023	051	114	143	174	245	266	332	411	452	506	612	703
025	053	115	145	205	246	271	343	412	454	516	624	712
026	054	116	152	212	251	274	346	413	455	523	627	723
031	065	122	155	223	252	306	351	423	462	526	631	731
032	071	125	156	225	255	311	356	431	464	532	632	732
036	072	131	162	226	261	315	364	432	465	546	654	734
043	073	132	165	243	263	325	365	445	466	565	662	743
047	074	134	172	244	265	331	371	446	503	606	664	754

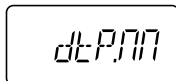
9 セットモード

■ セットモードの設定項目について(VFO/メモリーモード) (つづき)

◇ DTCS位相反転機能の設定

送信側、受信側それぞれの組み合わせで、コードの送出または検出の位相を設定します。

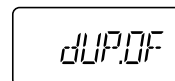
- dtP.nn : 送信/受信とも反転しません。(初期設定値)
- dtP.nR : 送信側を反転しないで、受信側を反転します。
- dtP.Rn : 送信側を反転し、受信側は反転しません。
- dtP.RR : 送信/受信とも反転します。



◇ デュプレックスの設定

送信と受信の周波数をずらして交信するときに設定します。

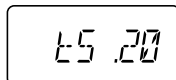
- dUP.OF : デュプレックス運用しません(通常の運用モードです)。(初期設定値)
- dUP.- : 送信周波数を受信周波数よりも低くします。
- dUP.+ : 送信周波数を受信周波数よりも高くします。



◇ チューニングステップの設定

周波数の設定、またはスキャンするときの周波数可変幅を設定します。

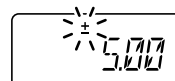
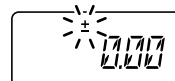
- 5、10、12.5、15、20、25、30、50kHzの中から選択します。(初期設定値：20kHz)



◇ オフセット周波数の設定

送信と受信の周波数のずれ幅をオフセット周波数といいます。レピータ(IC-U1のみ)/デュプレックス運用するときに設定します。

- オフセット周波数は0~20MHzのあいだで設定できます。
- IC-V1の初期設定値：0.00MHz
- IC-U1の初期設定値：5.00MHz



■ セットモードの設定項目について(VFO/メモリーモード) (つづき)

◇ デュプレックス反転の設定

デュプレックス運用のとき、送信周波数と受信周波数を入れ替えるときに設定します。

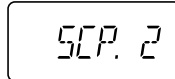
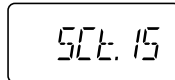
- REV.OF : 周波数を入れ替えません。
(初期設定値)
- REV.On : 周波数を入れ替えます。



◇ スキャンストップタイマーの設定

スキャン動作中に信号を受信して一時停止したあと、再スタートするまでの条件を設定します。

- スキャンストップタイマーの条件を下表の中から選択します。
(初期設定値 : SCt.15)

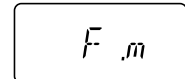


表示	動作内容
SCt.5	一時停止してから5秒後に再スタートします。
SCt.10	一時停止してから10秒後に再スタートします。
SCt.15	一時停止してから15秒後に再スタートします。
SCP.2	信号を受信しているあいだは一時停止し、信号が無くなると約2秒後に再スタートします。

◇ ファンクションキータイマーの設定

[FUNC]が押されて、次のキーが押されたあとの[FUNC]の有効時間を設定します。

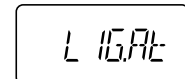
- FO.At : 次のキーが押されたあと、“**F**”がすぐに消えます。
(初期設定値)
- F1/2/3.At : 次のキーが押されたあと、1/2/3秒後に“**F**”が消えます。
- F .m : 次のキーが押されたあとも、再度が[FUNC]押されるまで“**F**”は消えません。



◇ LCDバックライトの設定

LCDのバックライト機能を設定します。

- LIG.At : [PTT]以外のキーが押されたとき、約5秒間バックライトが点灯します。(初期設定値)
- LIG.On : 常時バックライトを点灯します。
- LIG.OF : バックライトを点灯しません。



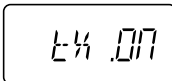
9 セットモード

■ セットモードの設定項目について(VFO/メモリーモード) (つづき)

◇ 送信禁止の設定

本機を送信できないようにするときに設定します。この機能はメモリーチャンネル、コールチャンネルでも、個別に設定できます。

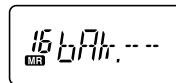
- **tX.On** : 送信できます。(初期設定値)
- **tX.OFF** : 送信できません。



◇ メモリーバンクの設定

M-CHを編集するメモリーバンクを設定します。

- **bAk.** : A~Jの中から選択します。
(初期設定値：メモリーバンク選択状態)



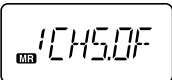
※ この項目は、メモリーモードのときにセットモードにしなければ表示されません。

※メモリーネーム、チャンネル番号表示選択時は項目表示されません。(P49)

◇ スキップチャンネルの設定

メモリースキャン時に、スキャンの対象からはずしたいチャンネルを飛び越す(スキップ)ように指定する機能です。

- **CHS.OF** : メモリーチャンネルのスキップ機能を解除します。
(初期設定値)



- **CHS.On** : “SKIP”表示が点灯します。

※ この項目は、メモリーモードのときにセットモードにしなければ表示されません。

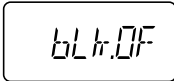
※メモリーネーム、チャンネル番号表示選択時は項目表示されません。

■ セットモードの設定項目について(VFO/メモリーモード) (つづき)

◇ メモリーバンクのリンク設定

メモリーバンクのリンク機能を設定します。
リンク機能によりバンクスキャン選択時、編集しているすべてのメモリーバンクをスキャンします。

- **bLk.OF** :メモリーバンクをリンクしません。(初期設定値)
- **bLk.On** :メモリーバンクをリンクします。



- ※ この項目は、メモリーモードのときにセットモードにしなければ表示されません。
- ※メモリーネーム、チャンネル番号表示選択時は項目表示されません。

●各バンクのリンクを設定する

- ① **bLk.ON(リンクする)**に設定したときは、[▼]または[▲]を短く押し、リンクするバンクを選択します。
- ② [VOL]を回して、リンクの“ON/OFF”を選択します。
 - **bLA.On/OF** :バンク“**A**”のリンクを選択します。
 - **bLb.On/OF** :バンク“**B**”のリンクを選択します。
 - **bLc.On/OF** :バンク“**C**”のリンクを選択します。
 - **bLd.On/OF** :バンク“**D**”のリンクを選択します。
 - **bLe.On/OF** :バンク“**E**”のリンクを選択します。
 - **bLf.On/OF** :バンク“**F**”のリンクを選択します。
 - **bLg.On/OF** :バンク“**G**”のリンクを選択します。

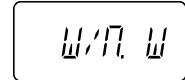
(右上につづく)

- **bLH.On/OF** :バンク“**H**”のリンクを選択します。
- **bLI.On/OF** :バンク“**I**”のリンクを選択します。
- **bLJ.On/OF** :バンク“**J**”のリンクを選択します。

◇ 通過帯域ワイド/ナローの設定

通過帯域の設定をします。ワイド/ナローから選択できます。
ワイドを選択すると、送受信の通過帯域が5kHzに、ナローを選択すると2.5kHzに設定されます。

- **W/n. W** :ワイド(5kHz)に設定されます。(初期設定値)
- **W/n. n** :ナロー(2.5kHz)に設定されます。



9 セットモード

■イニシャルセットモードの設定方法

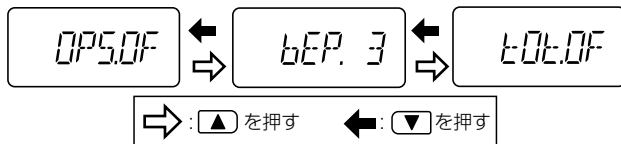
イニシャルセットモードは、普段あまり変更することのない機能をまとめたモードです。

◇イニシャルセットモードの操作

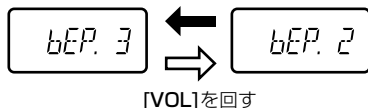
- ① [PWR]を押して、いったん電源を切ります。
- ② [▼]と[▲]を押しながら[PWR]を押して、電源を入れます。
(イニシャルセットモードを表示します。)

bEP. 3

- ③ [▼]または[▲]を短く押すごとに、設定項目が切り替わります。(次ページ参照)

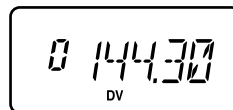


- ④ [VOL]を回して、設定内容を選択します。



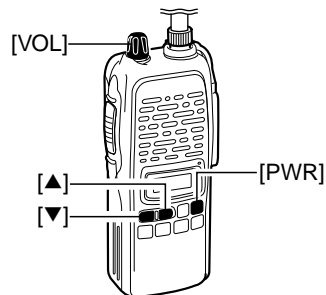
- 続けてイニシャルセットモードの項目を設定するときは、③と④を繰り返し操作してください。

- ⑤ [PWR]を押すと、イニシャルセットモードを解除します。



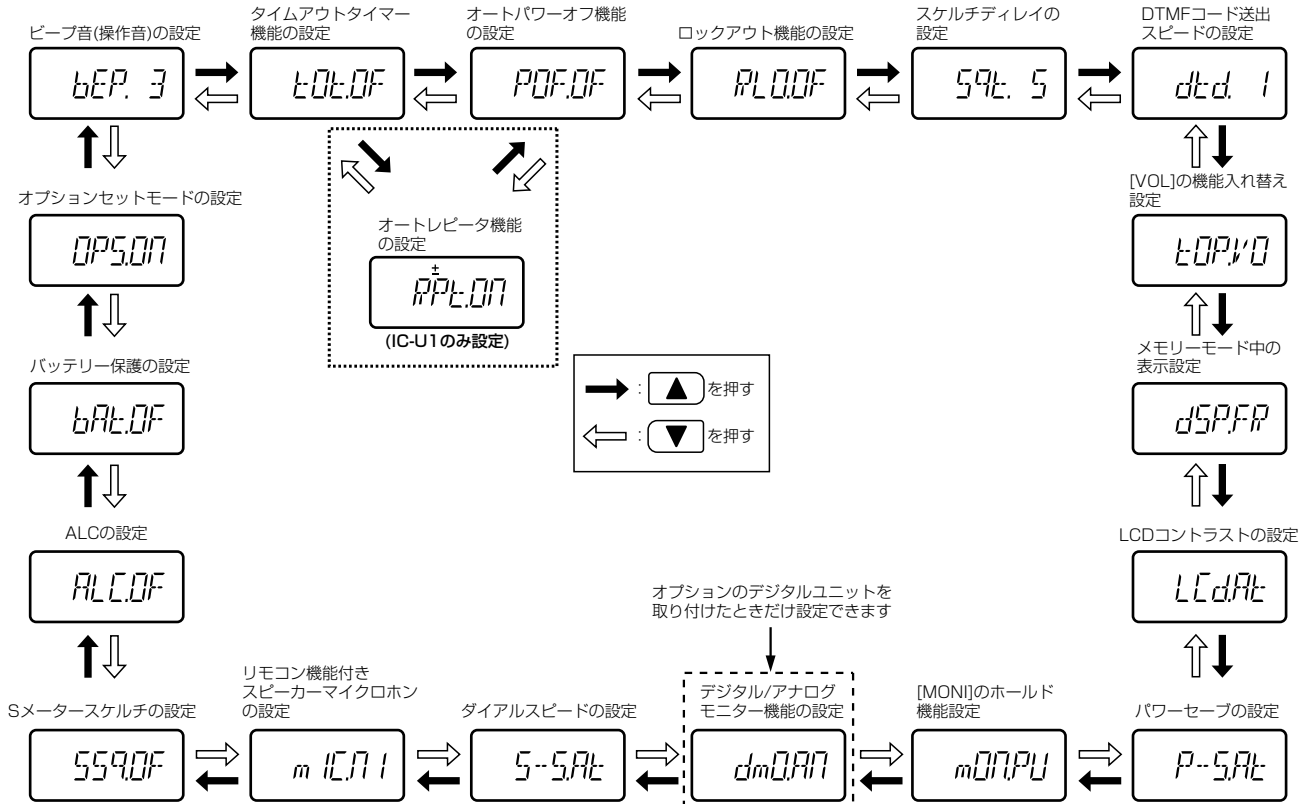
※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

●イニシャルセットモードの操作キー



■ イニシャルセットモードの設定方法 (つづき)

◇ イニシャルセットモードの設定項目



9 セットモード

■ イニシャルセットモードの設定項目について

◇ ビープ音(操作音)の設定

キー操作が正しく行われたかどうかを知らせるビープ音を設定します。

- **bEP. 1/2/3** : ビープ音を鳴らします。(初期設定値: 3)
- **bEP.OF** : 鳴りません。

A rectangular LCD display showing the text "bEP. 3" in a monospaced font.

◇ タイムアウトタイマー機能の設定

連続して送信する時間の制限を設定します。

- **tOt.OF** : 制限しません。(初期設定値)
- **tOt. 1~30** : 1~30分に制限します。

A rectangular LCD display showing the text "tOt.OF" in a monospaced font.

※ 禁止時間の10秒前にビープ音を鳴らして知らせます。
なお、DV(デジタル音声)モードでのレピータ運用時は、約10分に制限されています。(禁止時間の約30秒前にビープ音が鳴ります)

◇ オートレピータ機能の設定(IC-U1のみ設定)

レピータ運用をするための、シフト方向(-:マイナス)とトーンの“ON/OFF”を自動で設定するためのオートレピータ機能を設定します。

- **RPt.On** : オートレピータ機能を有効にします。(初期設定値)
- **RPt.OF** : オートレピータ機能を無効にします。

A rectangular LCD display showing the text "RPt.ON" in a monospaced font.

※ オートレピータ機能はアマチュアバンドの430MHz帯で、周波数範囲“439.000~440.000MHz”に対応しています。

■ イニシャルセットモードの設定項目について(つづき)

◇ オートパワーオフ機能の設定

自動的に電源を“OFF”にするオートパワーオフ機能を設定します。
待ち受け状態(何も操作しない状態)が一定時間(下記の設定時間)続くと、自動的に電源を切ります。

- **POF.OF** : オートパワーオフ機能を無効にします。(初期設定値)
- **POF.30** : 30分後に電源を切ります。
- **POF.1H** : 1時間後に電源を切ります。
- **POF.2H** : 2時間後に電源を切ります。

POF.OF

AO
POF.30

[ご注意] : 別売品のデジタルユニットを取り付けて、GPS自動送信の設定(☞P97)した場合、オートパワーオフは機能しませんので、ご注意ください。

◇ ロックアウト機能の設定

受信信号によって、本機が送信できるか、できないか(ロックアウト機能)を設定します。

- **RLO.RP** : レピータロックアウトがONになります。受信信号がないとき、またはトーン周波数(☞P40)が一致しているときに送信できます。
- **RLO.bU** : ビジーロックアウトがONになります。信号を受信中は送信できません。
- **RLO.OF** : ロックアウトしません。受信信号の有無、トーン周波数の一致/不一致に関わらず、送信できます。(初期設定値)

RLO.RP

RLO.bU

◇ スケルチディレイの設定

受信時のスケルチディレイ(遅延)の制御時間を設定します。

- **Sqt. S** : スケルチディレイ(遅延)時間を「Short」にします。(初期設定値)
- **Sqt. L** : スケルチディレイ(遅延)時間を「Long」にします。

Sqt. S

◇ DTMFコード送出スピードの設定

DTMFコードの送出するスピードを設定します。

- **dt.d. 1** : 約100m秒間隔で送信します。(初期設定値)
- **dt.d. 2** : 約200m秒間隔で送信します。
- **dt.d. 3** : 約300m秒間隔で送信します。
- **dt.d. 5** : 約500m秒間隔で送信します。

dt.d. 1

dt.d. 5

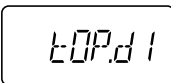
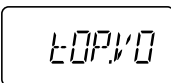
9 セットモード

■ イニシャルセットモードの設定項目について

◇ [VOL]の機能入れ替え設定

[VOL]の機能を設定します。

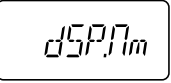
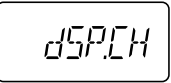
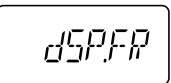
- **tOP.VO** : AFボリュームとして機能します。(初期設定値)
このとき[▼]/[▲]は周波数設定ボタンとして機能します。
- **tOP.dl** : 周波数設定ダイヤルとして機能します。
このとき[▼]/[▲]はAFボリュームとして機能します。



◇ メモリーモード中の表示設定

メモリーモード選択時の表示内容を設定します。

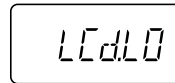
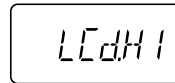
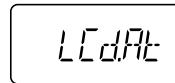
- **dSP.FR** : メモリーの周波数を表示します。(初期設定値)
- **dSP.CH** : メモリーのチャンネル番号を表示します。イニシャル、オプションセットモードで表示されないセット項目があります(ただし、メモリに書き込まれている場合は表示されます)。
- **dSP.nm** : メモリー名を表示します。なお、メモリー名を登録していないチャンネルを選択したときは、メモリーしている周波数を表示します。



◇ LCDコントラストの設定

LCDのコントラストを設定します。

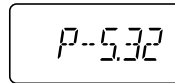
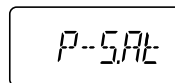
- **LCd.At** : コントラストを自動で設定します。(初期設定値)
- **LCd.HI** : コントラストを濃く設定します。
- **LCd.LO** : コントラストをうすく設定します。



◇ パワーセーブの設定

電池の消耗を防ぐためのパワーセーブ機能を設定します。

- **P-S.At** : 比率を自動で設定します。信号を受信しない状態が5秒で1:2に、さらに55秒で1:16になります。(初期設定値)
- **P-S.32** : 比率を1:32に設定します。
- **P-S.16** : 比率を1:16に設定します。
- **P-S. 8** : 比率を1:8に設定します。
- **P-S. 2** : 比率を1:2に設定します。
- **P-S.OF** : パワーセーブ機能をOFFにします。



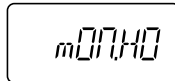
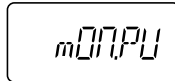
[ご注意] : 別売品のデジタルユニットを取り付けて、GPS自動送信の設定(※P97)をした場合、パワーセーブは機能しませんので、ご注意ください。また、デジタルモード運用時/ページャー/コードスケルチ設定時(UT-108/UT-118装着時)、パワーセーブの比率は1:1で固定です。

■ イニシャルセットモードの設定項目について(つづき)

◇ [MONI]のホールド機能設定

[MONI]の機能(スケルチを開いてモニターをする)が、キーを押しているあいだ動作させるか、1回押すごとに“ON/OFF”させるかを設定します。

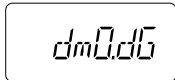
- mOn.PU : [MONI]を押しているあいだだけ、スケルチが開きます。(初期設定値)
- mOn.HO : 1回押すとモニターを“ON”にし、もう一度押すと“OFF”にします。



◇ デジタル/アナログモニターの設定

DV(デジタル音声)モード運用時、モニターをアナログ(FMモード)とするか、デジタル(CS SQL/DS SQLの解除)とするかを設定します。

- dmO.dG : デジタルモード運用時、モニターをデジタルでします。
- dmO.An : デジタルモード運用時、モニターをアナログでします。(初期設定値)

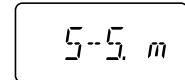
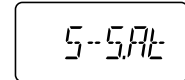


- [ご注意] : ● 別売品のデジタルユニットを取り付けたときだけ、デジタルモニターを選択できます。
- アナログに設定しても、DV(デジタル音声)モード運用時に[SQL]を0にすると、デジタルモニターします。

◇ ダイアルスピードの設定

[VOL]の機能を入れ替えて、[VOL]をはやく回したとき、周波数がアップ、ダウンする速度を自動的に加速させるかどうかを設定します。

- S-S.At : スピードアップします。(初期設定値)
- S-S. m : 一定速度のままとなります。

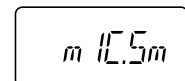
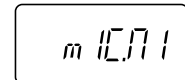


(ご参考) [VOL]の機能を入れ替えずに[▼]/[▲]を押し続けたとき、ダイアルスピードの設定に関わらず、周波数がアップ、ダウンする速度を自動的に加速します。

◇ リモコン機能付きスピーカーマイクロホンの設定

別売品のHM-75A(リモコン機能付きスピーカーマイクロホン)使用時に、必要最小限のリモコン機能を設定します。(P98)

- mlC.n1 : ノーマル1(初期設定値)
- mlC.n2 : ノーマル2
- mlC.Sm : シンプルモード



9 セットモード

■ イニシャルセットモードの設定項目について(つづき)

◇ Sメータースケルチの設定

設定したレベル以上の信号を受信したときだけスケルチが開く機能を設定します。

- **SSq.OF** : OFFにします。
(初期設定値)
- **SSq.S1/S2/S3** : SメータースケルチをONにします。

SSq.OF

SSq.S1

◇ ALCの設定

ALC(Automatic Level Control)を機能させるかどうかを設定します。ALCをONにすると、マイクゲインを自動的に調整します。

- **ALC.OF** : OFFにします。(初期設定値)
- **ALC.ON** : ONにします。

ALC.OF

ALC.ON

◇ バッテリー保護の設定

バッテリーの電圧が下がり、一定電圧以下になると、自動的に無線機の電源をOFFにする機能を設定します。

- **bAt.OF** : 機能しません。(初期設定値)
- **bAt.LI** : バッテリー保護がONになります。別売品のリチウムイオンバッテリーパック(BP-211N)をご使用になるときは、バッテリー保護を“bAt.LI”にします。

bAt.OF

◇ オプションセットモードの設定

別売品のオプションユニット(UT-108、UT-118)をつけたときに、オプションセットモードの設定や、DTMF/コードスケルチの設定をできるようにするための設定です。

- **OPS.OF** : オプションセットモードの設定ができません。
(初期設定値)
- **OPS.ON** : オプションセットモードの設定やDTMF/コードスケルチの設定ができます。

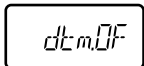
OPS.OF

■ オプションセットモードの設定方法

オプションセットモードはイニシャルセットモードでオプションセットモードの設定が“ON”のときだけ表示されます。
(P51)

◇ オプションセットモードの操作

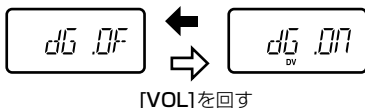
- ① [SET(TONE)]を長く押します。
(オプションセットモードを表示します。)



- ② [▼]または[▲]を短く押すごとに、設定項目が切り替わります。(次ページ参照)

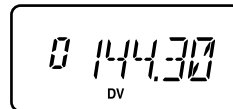


- ③ [VOL]を回して、設定内容を選択します。



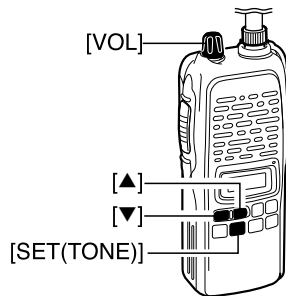
続けてオプションセットモードの項目を設定するときは、②と③を繰り返し操作してください。

- ④ [SET(TONE)]または[MONI]を押すと、オプションセットモードを解除します。



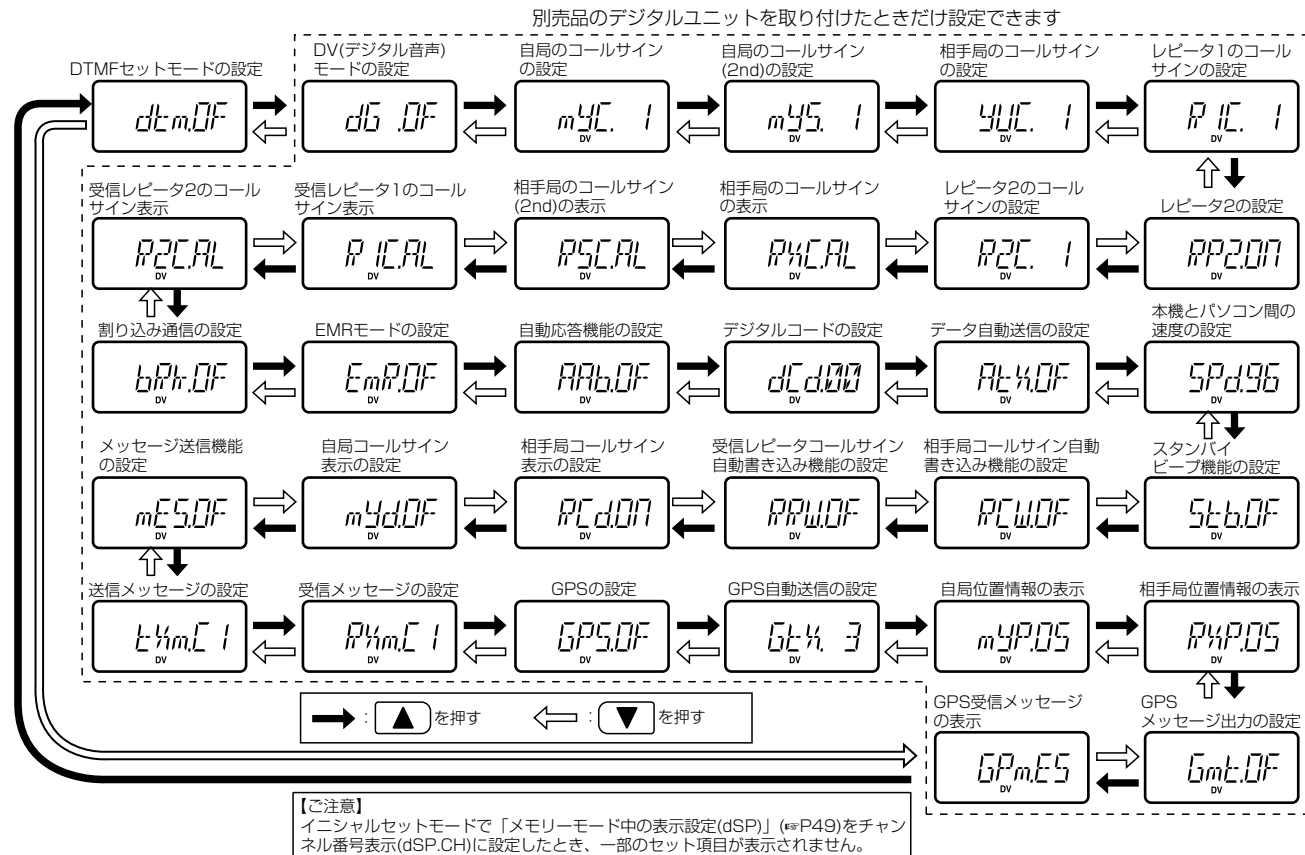
※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

● オプションセットモードの操作キー



9 セットモード

◇ セットモードの設定項目(オプションセットモード)

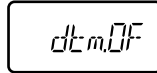


■ オプションセットモードの設定項目について

◇ DTMFセットモードの設定

DTMFモードを設定します。

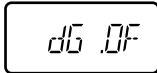
- **dtm.OF** : DTMFモードOFF。
(初期設定値)
- **dtm.PG** : ページャーモードON(別売品のUT-108が必要です)。
- **dtm.CS** : コードスケルチモードON(別売品のUT-108が必要です)。



◇ DV(デジタル音声)モードの設定

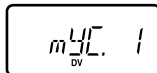
別売品のデジタルユニット(UT-118)を取り付けたとき、DV(デジタル音声)モードで通信するかどうかを設定します。

- **dG .OF** : アナログモードで通信します。(初期設定値)
- **dG .ON** : DV(デジタル音声)モードで通信します。
表示部に“DV”が表示されます



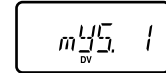
◇ 自局のコールサインの設定

自局のコールサインを設定します。



◇ 自局のコールサイン(2nd)の設定

移動運用などで自局のコールサインのうしろに、“/エリア番号”を付けたいときなどに設定します。



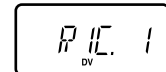
◇ 相手局のコールサインの設定

相手局のコールサインを設定します。



◇ レピータ1のコールサインの設定(IC-U1のみ動作)

レピータ1のコールサインを設定します。
VHF帯にはレピータが設置されていないので、IC-V1では設定しても動作しません。



◇ レピータ2の設定(IC-U1のみ動作)

レピータ2を使用するかどうかを設定します。

- **RP2.ON** : レピータ2を使用します。
(初期設定値)
- **RP2.OF** : レピータ2を使用しません。
VHF帯にはレピータが設置されていないので、IC-V1では設定しても動作しません。

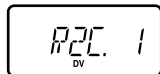


9 セットモード

■ オプションセットモードの設定項目について(つづき)

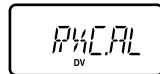
◇ レピータ2のコールサインの設定(IC-U1のみ動作)

レピータ2のコールサインを設定します。
VHF帯にはレピータが設置されていませんので、IC-V1では設定しても動作しません。



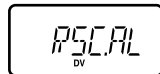
◇ 相手局のコールサイン表示

相手局のコールサインを表示します。
この項目を閲覧することで、受信した相手局のコールサインを確認できます。



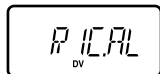
◇ 相手局のコールサイン(2nd)表示

相手局のコールサイン(2nd)を表示します。
相手局が移動運用などでコールサインのうしろに付いている、“/エリア番号”などを確認できます。



◇ 受信レピータ1のコールサイン表示(IC-U1のみ動作)

レピータからの信号を受信したとき、そのレピータのコールサインを表示します。
ここでそのコールサインを確認できます。
VHF帯にはレピータが設置されていませんので、IC-V1では設定しても動作しません。



◇ 受信レピータ2のコールサイン表示(IC-U1のみ動作)

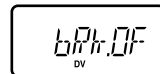
レピータ2からの信号を受信したとき、そのレピータのコールサインを表示します。
ここでそのコールサインを確認できます。
VHF帯にはレピータが設置されていませんので、IC-V1では設定しても動作しません。



◇ 割り込み通信の設定

割り込み通信をするかどうかを設定します。

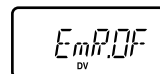
- **bRk.OF** : 割り込み通信しない。
(初期設定値)
- **bRk.On** : 割り込み通信します。



◇ EMRモードの設定

EMRモードで通信するかどうかを設定します。

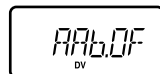
- **EmR.OF** : EMRモードで通信せず、通常モードで通信する。
(初期設定値)
- **EmR.On** : EMRモードで通信する。



◇ 自動応答機能の設定

DV(デジタル音声)モードで呼び出しを受けたとき、呼び出した相手局に自動で応答する機能を設定します。自動応答機能は、相手局から呼び出しを受けたとき、送信操作をすると解除(OFF)します。

- **AAb.OF** : 自動応答は機能しません。
(初期設定値)
- **AAb.On** : 自動応答が機能します。

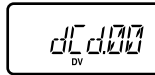


■ オプションセットモードの設定項目について(つづき)

◇ デジタルコードの設定

デジタルコードスケルチで使用するコードを設定します。

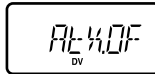
- dCd.00 : 00~99(100コード)の中から選択します。
(初期設定値 : 00)



◇ データ自動送信の設定

DV(デジタル音声)モードでの簡易データ通信で、データを自動送信するかどうかの設定をします。

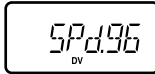
- Atx.OF : [PTT]を押すと、[DATA]ソケットに入力したデータを送信する。
(初期設定値)
- Atx.On : [DATA]ソケットにデータを入力すると、自動で送信する。



◇ 本機とパソコン間の通信速度の設定

無線機とパソコン間のデータ転送速度を設定します。

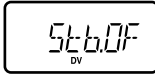
- SPd.96 : 9600bpsに設定します。
(初期設定値)
- Spd.48 : 4800bpsに設定します



◇ スタンバイビープ機能の設定

自局に対して通信(通話)の終わりに鳴らすビープ音を設定します。

- Stb.On : 通信の終わりにビープ音を鳴らします。
- Stb.OF : 通信の終わりにビープ音を鳴らしません(初期設定値)。



◇ 相手局コールサイン自動書き込み機能の設定

相手局のコールサインを自動書き込みするかどうかを設定します。

- RCW.OF : 自動書き込みしません。
(初期設定値)
- RCW.On : 自動書き込みします。



◇ 受信レピータコールサイン自動書き込み機能の設定
(IC-U1のみ動作)

レピータからの信号を受信したとき、そのレピータのコールサインを自動的に書き込むかどうかを設定します。

- RRW.OF : 書き込みしません。
(初期設定値)
- RRW.On : 自動的に書き込みます。

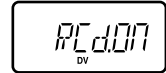


VHF帯にはレピータが設置されていませんので、IC-V1では設定しても動作しません。

◇ 相手局コールサイン表示の設定

DVモード受信時、相手局のコールサインを表示部に表示するかどうかを設定します。

- RCd.OF : 相手局のコールサインを表示部に表示しません。
- RCd.On : 相手局のコールサインを表示部に表示します。
(初期設定値)



9 セットモード

■ オプションセットモードの設定項目について(つづき)

◇ 自局コールサイン表示の設定

電源を入れたとき、DVモードで送信したときに自局のコールサインを表示するかどうかを設定します。

- **myd.OF** : コールサインを表示しません。(初期設定値)
- **myd.On** : コールサインを表示します。

◇ メッセージ送信機能の設定

送信時、メッセージを一緒に送信するかどうかを設定します。

- **mES.OF** : メッセージを送信しません。(初期設定値)
- **mES.On** : メッセージを送信します。

◇ 送信メッセージの設定

送信するメッセージのメモリー番号を設定します。

番号はC1～C6の中から設定します。

◇ 受信メッセージの設定

受信したメッセージを閲覧するときに、メモリー番号を設定します。

番号はC1～C6の中から設定します。

◇ GPSの設定

本機にGPSレシーバーを接続してDVモードで運用しているとき、GPS機能を使用するかしないかを設定します。

- **GPS.OF** : GPSを使用しません。(初期設定値)
- **GPS.1～25** : GPSを使用します。

GPSを使用するとき、GPSのセンテンス(フォーマット)を設定する必要があります。センテンスは次のようになっています。

番号とGPSセンテンス(フォーマット)の関係

番号	対応フォーマット					番号	対応フォーマット				
	GLL	GGA	RMC	GSA	VTG		GLL	GGA	RMC	GSA	VTG
OF	x	x	x	x	x	13	x	x	○	○	x
1	○	x	x	x	x	14	x	x	○	x	○
2	x	○	x	x	x	15	x	x	x	○	○
3	x	x	○	x	x	16	○	○	○	x	x
4	x	x	x	○	x	17	○	○	x	○	x
5	x	x	x	x	○	18	○	○	x	x	○
6	○	○	x	x	x	19	○	x	○	○	x
7	○	x	○	x	x	20	○	x	○	x	○
8	○	x	x	○	x	21	○	x	x	○	○
9	○	x	x	x	○	22	x	○	○	○	x
10	x	○	○	x	x	23	x	○	○	x	○
11	x	○	x	○	x	24	x	○	x	○	○
12	x	○	x	x	○	25	x	x	○	○	○

○ : 対応 × : 非対応

【ご注意】

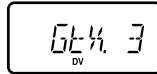
GPSデータが[DATA]ジャックから入力されているとき、「GPSの設定(GPS)」を1～25に設定し、次頁の「GPS自動送信の設定(Gtx)」を05/1/3/5/10/30のどれかに設定すると、設定時間ごとに位置情報を自動的に送信します。アンテナが外れているときに自動送信すると、本機が故障する恐れがありますのでご注意ください。

■ オプションセットモードの設定項目について(つづき)

◇ GPS自動送信の設定

DV(デジタル音声)モード運用時、前頁の「GPSの設定(GPS)」が1～25に設定されており、GPSデータが[DATA]ジャックから入力されているとき、自局の位置情報を一定間隔で、自動的に送信するか、しないかを設定します。

- **GtX.OF** : 位置情報を送信しません。
- **GtX.O5/1/3/5/10/30(分)** :
[VOL]で自動的送信する時間を選択します。
(初期設定値: 3)

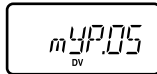


※3を選択した場合、3分ごとに位置情報を送信します。

◇ 自局位置情報の表示

DV(デジタル音声)モード運用時、自局の位置情報を表示します。

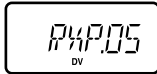
- **myP.OS**項目で、[SET(TONE)]を長く(約1秒)押すと、自局の位置情報を表示します。



◇ 相手局位置情報の表示

DV(デジタル音声)モード運用時、受信した相手局の位置情報を表示します。

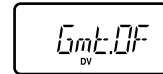
- **RXP.OS**項目で、[SET(TONE)]を長く(約1秒)押すと、相手局の位置情報を表示します。



◇ GPSメッセージ出力の設定

GPSメッセージを出力するかどうかを設定します。

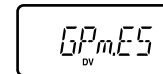
- **Gmt.OF** : GPSメッセージを出力しません。(初期設定値)
- **Gmt.C1～C6** : GPSメッセージを出力します。
メッセージ出力チャンネルを指定してください(C1～C6から選択できます)。



◇ GPS受信メッセージの表示

DV(デジタル音声)モード運用時、着信メッセージを表示します。

- **GPm.ES**項目で、[SET(TONE)]を長く(約1秒)押すと、メッセージが表示されます。



※メッセージが添付されているときに、表示します。

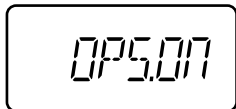
10 各種機能の使いかた

■DTMFメモリー機能の使いかた

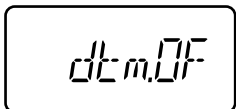
最大24桁のDTMF信号を、16チャンネルのDTMFメモリーに記憶することができます。

◇DTMFメモリーの書き込みかた

- ① イニシャルセットモードで「オプションセットモード(OPS)」項目が「OPS.On」になっていることを確認します。(※P51)

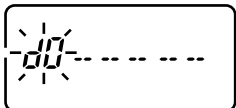


- ② [SET(TONE)]を長く押し、オプションセットモードにして、「DTMFモードの設定(dtm)」を選択します。(※P54)

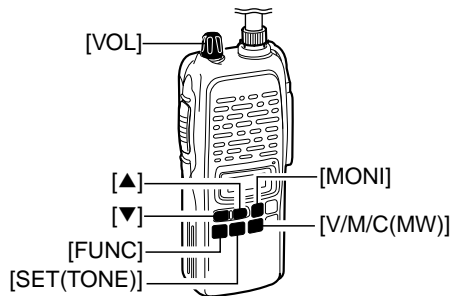


- ③ [SET(TONE)]を長く押し、DTMFメモリーチャンネル状態にして、[VOL]を回し、DTMFメモリーチャンネルを選択します(DTMFメモリー表示が点滅します)。

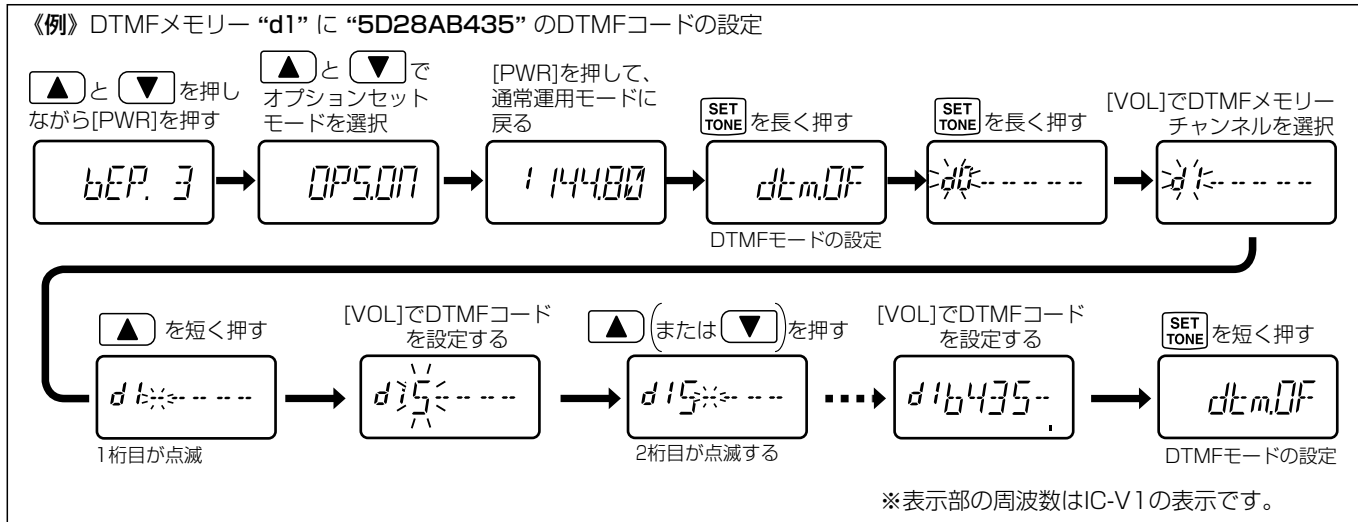
※DTMFメモリーチャンネルは「d0～d9、dA～dF」が選択できます。



- ④ [▲]を短く押すと、1桁目が点滅してDTMFコードの入力状態になります。
- ⑤ [VOL]を回して、DTMFコードを設定します。
DTMFコードは、「0～9、A～F」が選択できます。
- ⑥ [▲]を短く押すと、点滅が2桁目に移動します。
設定桁の移動は、[▲]を短く押すと右に移動、[▼]を短く押すと、左に移動します。
前記⑤と⑥を繰り返し操作することで、最大24桁まで設定できます。
6桁以上入力したときは、6桁ずつ順送りで表示します。
24桁入力したときは、自動的に次のDTMFメモリーチャンネルに移動します。
- ⑦ 設定したDTMFコードを書き込むときは、[SET(TONE)]を短く押すと、DTMFコードを書き込みます。書き込んだあと、「DTMFモードの設定(dtm)」状態に戻ります。
続けて別のDTMFメモリーチャンネルに書き込むときは、前記②～⑥を繰り返し操作します。



■ DTMFメモリー機能の使いかた (つづき)



◇ DTMFコードの訂正と消去のしかた

不要になったDTMFメモリーのコードを消去できます。

- ① [SET(TONE)]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、**「DTMFモードの設定(dtm)」**を選択します。(DTMFメモリー表示が点滅します。)(※P54)。
- ② [SET(TONE)]を長く押して、DTMFメモリーチャンネル選択状態にします。
- ③ [VOL]を回して、訂正または消去するDTMFメモリーチャンネル(d0～d9、dA～dF)を選びます。

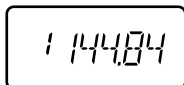
- ④ [▼]または[▲]を短く押して、訂正する桁を点滅させます。
- ⑤ [VOL]を回して、正しいDTMFコードを設定します。
点滅している桁で“- -”を選択すると、“- -”表示以降の桁がすべて“- -”になり消去されます。
1桁目に“- -”を選択すると、選択したメモリーのDTMFコードはすべて消去されます。
- ⑥ [SET(TONE)]を短く押すと、訂正、削除したDTMFコードを書き込んでから、**「DTMFモードの設定(dtm)」**状態に戻ります。

10 各種機能の使いかた

■ DTMFメモリー機能の使いかた (つづき)

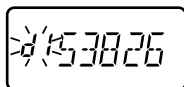
◇ DTMFコードの送的操作

- ① **[V/M/C (MW)]** を短く押して、VFOモードにして、**[▼]/[▲]** を押して周波数を設定します。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。

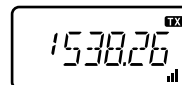


※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

- ② **[SET (TONE)]** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、**「DTMFモードの設定 (dtm)」** を選択します。(DTMFメモリー表示が点滅します。)(※P54)
- ③ **[SET (TONE)]** を長く押して、DTMFメモリーチャンネル選択状態にします。
- ④ **[VOL]** を回して、DTMFメモリーチャンネルを選択します。DTMFメモリーチャンネルは**「d0～d9、dA～dF」** が選択できます。



- ⑤ **[PTT]** を押しながら、**[MONI]** を押します。



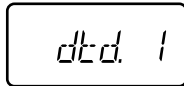
オプションセットモードを解除して、DTMFメモリーの内容が送信されます。
DTMFメモリーのコードが順次送出されると同時に、“ピポパ”音が鳴ります。

■ DTMFメモリー機能の使いかた (つづき)

◇ DTMFコード送出スピードの設定

初期設定でDTMFメモリーの送出スピードは、約100ミリ秒間隔に設定していますが、イニシャルセットモードで変更できます。

- ① [PWR]を押して、いったん電源を切ります。
- ② [▼]/[▲]を押しながら[PWR]を押して、電源を入れます。
(イニシャルセットモードを表示します。)(※P45)
- ③ [▼]または[▲]を短く押して、「DTMFコード送出スピードの設定(dtd)」項目を選択します。(※P48)



- ④ [VOL]を回して、DTMFコードの送出スピードを選択します。
 - dtd. 1 : 約100msec間隔で送出します。(初期設定値)
 - dtd. 2 : 約200msec間隔で送出します。
 - dtd. 3 : 約300msec間隔で送出します。
 - dtd. 5 : 約500msec間隔で送出します。
- ⑤ [PWR]を押すと、イニシャルセットモードを解除します。

10 各種機能の使いかた

■ トーンスケルチ/デジタルコードスケルチ/デジタルコールサインスケルチ/ポケットビープ機能の使いかた

◇ トーン機能とは

送信周波数にCTCSSトーン周波数またはDTCSコードを重畳して送出します。

受信時には重畳されたCTCSSトーン周波数またはDTCSコードが一致したときのみ、受信回路を動作させ、特定局の個別呼び出しを行う便利な機能です。

◇ トーンスケルチ/デジタルコードスケルチ/デジタルコールサインスケルチ機能とは

特定の相手局と交信するときに便利な機能です。

自局が設定したCTCSSトーン周波数またはDTCSコード(FMモード)、デジタルコード(DV(デジタル音声)モード)、または自局のコールサインを受信したときだけ、スケルチが開いて通話できるので、快適な待ち受け受信ができます。

◇ ポケットビープ機能とは

トーンスケルチ機能での待ち受け受信中、呼び出しを受けるとビープ音で知らせてくれる便利な機能です。

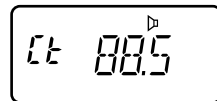
呼び出しを受けると、ビープ音“ピロピロピロ”が30秒間鳴り続けるとともに、表示部の“!”を点滅して知らせてくれるので、聞き逃すことはありません。

◇ 運用のしかた

◇ CTCSSトーン周波数を設定する(FMモード)

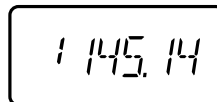
CTCSSトーン周波数は、セットモードで設定します。

- ① [▼]/[▲]で、運用周波数を設定します。(※P11)
- ② [SET(TONE)]を短く押して、セットモードを表示します。(※P38)
- ③ [▼]または[▲]を短く押して、「トーンスケルチ用トーン周波数の設定(Ct)」項目を選択します。(※P40)



● 88.5Hz
(初期設定値)

- ④ [VOL]を回して、トーン周波数を選択します。
- ⑤ [SET(TONE)]を短く押すと、セットモードを解除します。



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

■ トーンスケルチ/デジタルコードスケルチ/デジタルコールサインスケルチ/ポケットビープ機能の使いかた (つづき)

◇ DTCSコードを設定する(FMモード)

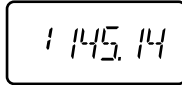
DTCSコードは、セットモードで設定します。

- ① [▼]/[▲]で、運用周波数を設定します。(☞P11)
- ② [SET(TONE)]を短く押して、セットモードにします。(☞P38)
- ③ [▼]または[▲]を短く押して、「DTCSコードの設定(dt)」項目を選択します。(☞P40)



- 023
(初期設定値)

- ④ [VOL]を回して、DTCSコードを選択します。
- ⑤ [SET(TONE)]を短く押すと、セットモードを解除します。



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

◇ デジタルコードを設定する(DV(デジタル音声)モード)

デジタルコードを使用するには、デジタルユニット(別売品：UT-118)を取り付けて、オプションセットモードで設定します。

- ① [▼]/[▲]で、運用周波数を設定します。(☞P11)
- ② [SET(TONE)]を長く押して、オプションセットモードにします。(☞P52)
- ③ [▼]/[▲]を押して、「DV(デジタル音声)モード(dG)」項目を選択します。
- ④ [VOL]を回して、「dG.On」を選択します(これでデジタル音声モードが“ON”になります)。(☞P76)

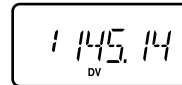


- ⑤ [▼]または[▲]を短く押して、「デジタルコード(dCd)」の項目を選択します。(☞P56)



- 00
(初期設定値)

- ⑥ [VOL]を回して、デジタルコードを選択します。
- ⑦ [SET(TONE)]を短く押すと、セットモードを解除します。



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

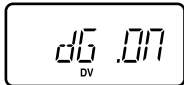
10 各種機能の使いかた

■ トーンスケルチ/デジタルコードスケルチ/デジタルコールサインスケルチ/ポケットビーブ機能の使いかた (つづき)

◇ コールサインを設定する(DV(デジタル音声)モード)

デジタルコールサインスケルチを使用するには、デジタルユニット(別売品：UT-118)を取り付けて、オプションセットモードで設定します。

- ① [▼]/[▲]で、運用周波数を設定します。(※P11)
- ② [SET(TONE)]を長く押し、オプションセットモードに入ります。(※P52)
- ③ [▼]/[▲]を押して、「DV(デジタル音声)モード(dG)」項目を選択します。
- ④ [VOL]を回して、「dG.On」を選択します(これでデジタル音声モードが“ON”になります)。(※P76)

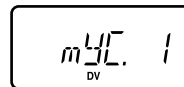


- ⑤ [▼]または[▲]を短く押し、「相手局のコールサイン(yUC)」項目を選択します。(※P80)



- ⑥ [SET(TONE)]を長く押し、登録番号(C1～C6)の選択状態になります。(登録番号表示が点滅)
- ⑦ [VOL]を回して、登録番号(C1～C6)を選択します。すでにコールサインが書き込まれているときは、この状態で選択できます。
- ⑧ [▲]を押すと、相手局(yUC)のコールサイン入力状態になります。コールサイン入力は(※P80、81)を参照してください。

- ⑨ [SET(TONE)]を短く押し、オプションセットモードに戻ります。
- ⑩ [▼]または[▲]を短く押し、「自局のコールサイン(myC)」設定項目を選択します。(※P77)



- ⑪ 上記⑥～⑧を操作して、自局のコールサインを設定します。(※P78)

【ご注意】

- “DSQL”(デジタルコールサインスケルチ)は自局のコールサインを判断して動作しているため、3局以上の複数局で運用するときは、“CSQL”(デジタルコードスケルチ)で運用してください。
- DV(デジタル音声)モード運用時の簡易データ通信では、“DSQL”(デジタルコールサインスケルチ)、“CSQL”(デジタルコードスケルチ)は動作しません。音声会話のみ動作します。

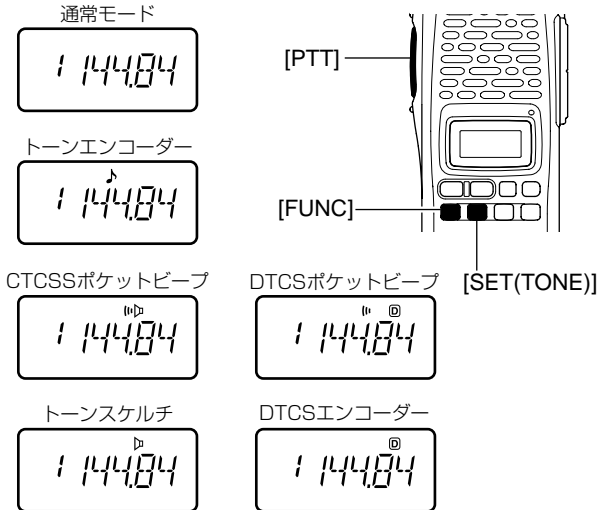
【ご参考】

- 隣接したトーン周波数/DTCSCコードを使用している局がいると、トーンスケルチが開くことがあります。(アナログモード)
- 自局のコールサイン以外でも信号を受信して、表示部にSメーターが表示されますが、音声は聞こえません。(DV(デジタル音声)モード)

■ トーンスケルチ/デジタルコードスケルチ/デジタルコールサインスケルチ/ポケットビーブ機能の使いかた (つづき)

◇ 運用モードを設定して、交信する(FMモード)

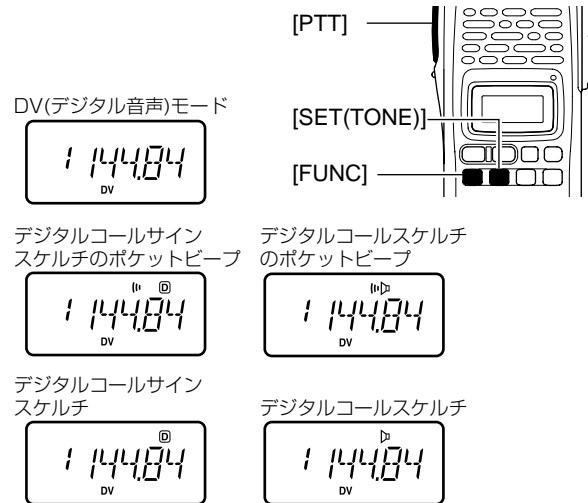
- ① [FUNC]を押してから、[SET(TONE)]を短く押すごとに、
「通常モード」→「♪：(トーンエンコーダー)」→「㊦：
(CTCSSポケットビーブ)」→「♫：(トーンスケルチ)」→
「㊦ ㊦：(DTCSポケットビーブ)」→「㊦：(DTCSコード)」
→「通常モード」と切り替わります。
- ② [PTT]を押して、相手局を呼び出して、通常の運用と同様に
交信します。



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

◇ 運用モードを設定して、交信する(DV(デジタル音声)モード)

- ① [FUNC]を押してから、[SET(TONE)]を短く押すごとに、
「通常モード」→「㊦ ㊦：(デジタルコールサインスケルチの
ポケットビーブ)」→「㊦：(デジタルコールサインスケルチ)」
→「㊦㊦：(デジタルコードスケルチのポケットビーブ)」→
「♫：(デジタルコードスケルチ)」→「通常モード」と切り替わ
ります。
- ② [PTT]を押して、相手局を呼び出して、通常の運用と同様に
交信します。





※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

10 各種機能の使いかた


■ トーンスケルチ/デジタルコードスケルチ/デジタルコールサインスケルチ/ポケットビーブ機能の使いかた (つづき)


◇ ポケットビーブで待ち受け受信しているとき(FMモード)

呼び出しを受けたら、30秒以内に[PTT]を押して通話するか、[FUNC]を押してから、[SET(TONE)]を短く押すと、ポケットビーブ機能は解除(“”が消灯する)され、トーンスケルチ機能またはコードスケルチ機能の動作に変わります。

また、30秒経過しても何も操作しなかった場合、ビーブ音は自動停止しますが“”は点滅状態を続け、呼び出されたことを知らせます。

◇ ポケットビーブで待ち受け受信しているとき (DV(デジタル音声)モード)

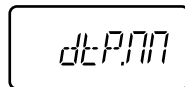
呼び出しを受けたら、30秒以内に[PTT]を押して通話するか、[FUNC]を押してから、[SET(TONE)]を短く押すと、ポケットビーブ機能は解除(“”が消灯する)され、デジタルコールサインスケルチ機能またはデジタルコードスケルチ機能の動作に変わります。

また、30秒経過しても何も操作しなかった場合、ビーブ音は自動停止しますが“”は点滅状態を続け、呼び出されたことを知らせます。

◇ DTCS位相反転機能について(FMモード)

送信側、受信側にそれぞれの組み合わせで、DTCSコードの送出または検出の位相をセットモードで設定することができます。

- ① [SET(TONE)]を短く押して、セットモードにします。
(※P38)
- ② [▼]または[▲]を短く押して、「DTCS位相反転機能(dtP)」の項目を選択します。
(※P41)



- ③ [VOL]を回して、下記から選択します。
 - dtP.nn : 送信/受信とも反転しません。(初期設定値)
 - dtP.nR : 送信側を反転しないで、受信側を反転します。
 - dtP.Rn : 送信側を反転し、受信側は反転しません。
 - dtP.RR : 送信/受信とも反転します。
- ④ [SET(TONE)]を短く押すと、セットモードを解除します。

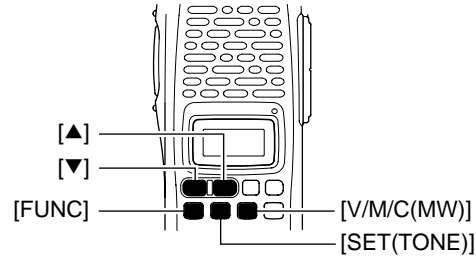
■ CTCSS トーン/DTCS コード スキャンのしかた

トーンスケルチ機能(☞P63)を使用して交信している局が、どのトーン周波数またはDTCSコード(☞P40)を使用しているかを検知するスキャンです。

- VFO/メモリー/コールチャンネルモードに関係なく動作します。
- スキャン中に[▼]/[▲]を押すと、押した方向にアップスキャンとダウンスキャンを切り替えます。

◇ スタート操作

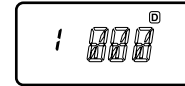
- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、運用モードを設定します。
66ページの「◇運用モードを設定して、交信する」を参照してください。
- ② [FUNC]を押してから、[SET(TONE)]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
トーン周波数またはDTCSコードを表示して、スキャンを開始します。
 - スキャン中にスケルチが開いているときはゆっくり、スケルチが閉じているときは速くスキャンします。
 - 一致したトーン周波数またはDTCSコードを検知すると、スキャンが約10秒間(スキャン一時停止タイマーで設定した時間)一時停止し、トーン周波数またはDTCSコードを自動的に書き替えたあと(VFOモード時のみ)、スキャンを再スタートします。
 - ポケットビープ状態から、トーンスキャンを行うと、ポケットビープを解除して、トーン周波数またはDTCSコードスキャンになります。



※トーンスケルチ設定時のトーンスキャンの表示



※DTCSエンコーダー設定時のコードスキャンの表示



- **T SQL** : トーンスケルチ用トーンを書き替える
- **DTCS** : DTCSコードを書き替える

【ご注意】

トーンスケルチモードでトーン周波数が一致するとトーンスケルチ用トーン周波数を書き替えます。したがって、レピータ運用またはトーンスケルチ運用時はご注意ください。ただし、M-CH、またはCALL-CHでトーンスキャンをしたときは、一時的に記憶しますが、書き替えはしません。

10 各種機能の使いかた

■ ページャー/コードスケルチについて

【ご注意】

ページャー/コードスケルチの運用をするには、別売品のDTMF/コードスケルチユニット(UT-108)が必要です。

◇ ページャー機能とは

ある特定局との待ち受け、呼び出しをするときに便利な機能です。

あらかじめ交信相手と個別コードやグループコードを決めておくことにより、特定の相手局の呼び出し/待ち受け/グループ斉呼び出し/待ち受けなどができます。また、呼び出されたときはピーブ音(ピロピロピロ…)で知らせると共に、呼び出した側のコードが表示部に表示されるので、確実な待ち受けができます。

◇ コードスケルチ機能とは

ある特定局と交信するときに便利な機能です。

自局でセットしたコードと同じコードを受信したときのみ、スケルチが開き、通話が受信できますので、特定局との交信ができ、従来のトーンスケルチと同様の運用ができます。

また、トーンスケルチとの併用もできます。

◇ ページャーコードとグループコードについて

ページャー機能は、ページャーコードとグループコードを設定する必要があります。それぞれコードは3ケタのDTMFコードで構成されています。コードは、下記のように前もって決めておく必要があります。

- 各トランシーバーでページャーコードを決めてください。
- グループコードは各グループで共通のコードに決めてください。
- 自局と相手局のページャーコード、グループコードは表を参考に設定してください。

コードの種類	登録番号(C0～C6)	用途
自局のコード	C0	受信専用
相手局のコード	C1～C6	送信/受信用
グループコード	C1～C6の中の1個	送信/受信用
メモリスペース*	CP	書き込み用

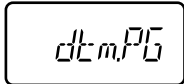
*メモリスペースは、受信したコード書き込み用ですので、編集や削除ができません。

■ ページャー機能の使いかた

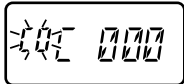
- ① イニシャルセットモードで、「オプションセットモード項目 (OPS)」が「OPS.ON」となっていることを確認します。
(※P51)
確認が終われば、[PWR]を押して、イニシャルセットモードを終了してください。



- ② [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ③ [▼]/[▲]を押して、周波数を設定します。
- ④ [SET(TONE)]を長く押すと、「DTMFモードの設定(dtm)」項目を選択します。(※P54)

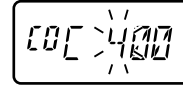


- ⑤ [VOL]を回して、「ページャー機能(dtm.PG)」を選択します。
- ⑥ [SET(TONE)]を長く押すと、登録番号(C1～C6)の選択状態になります。(登録番号表示が点滅)
- ⑦ [VOL]を回して、登録番号(C1～C6)を選択します。



- ⑧ [▲]を短く押すと、ページャーコード入力状態となり、1ケタ目が点滅します。

- ⑨ [VOL]を回して、コードを選択します。
※0～9の数字が選択できます。



- ⑩ [▲]を短く押すと、選択したコードが確定し、次のケタに点滅が移動します。
※ [▲]を押すとカーソルが右に移動し、[▼]を押すとカーソルが左に移動します。
- ⑪ 前項⑧～⑩を繰り返して、ページャーコードを入力します。
- ⑫ [SET(TONE)]を短く押すと、ページャーコード設定が記憶され、もう一度[SET(TONE)]を短く押すと、ページャーモードに入ります。
※ページャーモードに入ると、周波数100MHzの桁が“P”に変わります。

◇ 特定局の呼び出しかた

- ① [PTT]を押すと、ページャーコードを送信します。このとき、“ピ・ポ・パ”が音が鳴ります。
- ② 特定局から呼び出しの返答(アンサーバック)があると、表示部にその特定局のページャーコードか、グループコードが表示され、通信できるようになります。

《ご参考》

ページャー機能を使って通信が確立すると、「DTMFモードの設定(dtm)」を“OFF”(dtm.OF)にするか、「コードスケルチ機能(dtm)」を“ON”(dtm.CS)に設定されることをおすすめします。
(※P54)

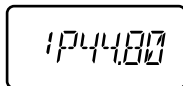
10 各種機能の使いかた

■ ページャー機能の使いかた (つづき)

◇ 待ち受け受信のしかた


① ページャーモードに入ります。ページャーモードへの入りかたは、70ページの「ページャー機能の使いかた」を参照してください。

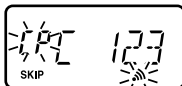
※ページャーモードに入ると、周波数の先頭の数字が“P”に変わります。




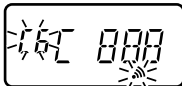
※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

② 特定局から呼び出しがあると、ピープ音(ピロピロピロ...)が鳴り、表示部に送信相手のページャーコード、またはグループコードが表示されます。

※ページャーコードを受信したとき、表示部には相手局のページャーコードが表示され、“CP”と“”が点滅します。



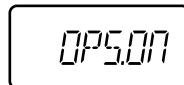
※グループコードを受信したとき、表示部にはグループコードが表示され、該当するグループコードが登録されているチャンネルと(ここでは例として“C6”します)“”が点滅します。



③ [PTT]を押すと、特定局に呼び出しの返答(アンサーバック)が送信され、表示部が周波数表示に変わります。

■ コードスケルチ機能の使いかた

① イニシャルセットモードで、「オプションセットモード項目 (OPS)」が「OPS.On」となっていることを確認します。(※P51)



確認が終われば、[PWR]を押して、イニシャルセットモードを終了してください。

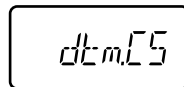
② [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOにします。

※押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。

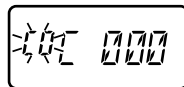
③ [▼]/[▲]を押して、周波数を設定します。

④ [SET(TONE)]を長く押すと、DTMP/ページャー/コードスケルチセットモードに入ります。

⑤ [VOL]を回して、「コードスケルチ機能(dtm.CS)」項目を選択します。(※P54)



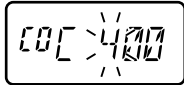
⑥ [SET(TONE)]を長く押すと、登録番号(C1~C6)の選択状態になります。(登録番号表示が点滅)



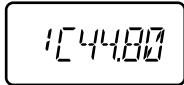
⑦ [VOL]を回して、登録番号(C1~C6)を選択します。

■コードスケルチ機能の使いかた (つづき)

- ⑧ **[▲]**を短く押すと、スケルチコード入力状態となり、1ケタ目が点滅します。



- ⑨ **[VOL]**を回して、コードを選択します。
0～9の数字が選択できます。
- ⑩ **[▲]**を短く押すと、選択したコードが確定し、次のケタに点滅が移動します。
※**[▲]**を押すとカーソルが右に移動し、**[▼]**を押すとカーソルが左に移動します。
- ⑪ 前項⑧～⑩を繰り返して、スケルチコードを入力します。
- ⑫ **[SET(TONE)]**を短く押すと、スケルチコード設定が記憶され、もう一度**[SET(TONE)]**を短く押すと、コードスケルチモードに入ります。
※コードスケルチモードに入ると、周波数100MHzの桁が“C”に変わります。



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

◇コードスケルチでの通話のしかた

- ① **[PTT]**を押して、通常の通信と同じように通話してください。
- ② コードスケルチを取り消すには、**[SET(TONE)]**を長く押して、「**DTMFモードの設定(dtm)**」項目を選択します。(☞P54)
- ③ **[VOL]**を回して、「**DTMF機能(dtm.OF)**」を選択します。
- ④ **[SET(TONE)]**を短く押して、オプションセットモードを解除します。(☞P54)

10 各種機能の使いかた

■ ビープ音について

キーを操作したときに、その操作が有効か無効かを下記のようにビープ音で知らせる機能です。

● ビープ音の種類

- “ピッ” : 短く押すキー操作が正しいとき
- “ピッ、ピー” : 長く押すキー操作が正しいとき
- “ブツ” : キー操作が無効のとき
- “ピッ、ピピ” : メモリー書き込み操作が正しいとき

※ イニシャルセットモードの「**ビープ(操作音)(bEP)**」の設定項目で、ビープ音の“ON(鳴る)/OFF(鳴らない)”が設定できます。(P47)

■ キーロック機能の使いかた

不用意にツマミやキーに触れても、周波数や運用状態が変わらないようにする機能です。

● **[FUNC]**を押してから、**[H/M/L(🔒)]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すごとに、ロック機能が“ON/OFF”します。ロック中は、表示部のメモリー表示部にロック表示“🔒”を点灯します。

※ いずれの状態においても、**[MONI]**(モニター機能のみ)、**[PWR]**、**[FUNC]**、**[PTT]**、**[VOL]**はロックしません。

■ オートパワーオフ機能の使いかた

このタイマーは、電源の切り忘れを防止するための機能です。運用を終了し、何も操作しない状態が設定したタイマー時間まで続くと、“ピー”音が5回鳴って電源が自動的に切れます。

◇ イニシャルセットモードの「**オートパワーオフ機能(POF)**」の設定項目で時間を設定することができます。(P48)

● 30(30分)/1H(1時間)/2H(2時間)の指定時間がすぎると、電源が自動的に切れます。

タイマーを一度セットすると、電源を入れるたびにタイマーが動作します。

※ 使用しないときは、“OFF”にしておきます。

● オートパワーオフ機能がONになると、表示部に“AO”が表示されます。

■ タイムアウトタイマー機能の使いかた

送信時間を監視し、設定した時間になると強制的に送信を停止する機能です。

設定したタイマー時間になると、強制的に送信を停止します。

◇ イニシャルセットモードの「**タイムアウトタイマー機能(tOt)**」の設定項目で、タイムアウトタイマー時間を設定することができます。(P47)

● 1～30分の中から設定できます。

※ 設定した時間の10秒前にビープ音を鳴らして知らせます。DVモードでレピータを運用しているときは、約10分でタイムアウトタイマーが動作します。

■ クローニングについて

クローンとは、1台のIC-V1/IC-U1に設定したメモリーの内容やセットモードの設定内容を、他のIC-V1/IC-U1に送出して、同じ設定内容にする機能です。

● クローンのしかた

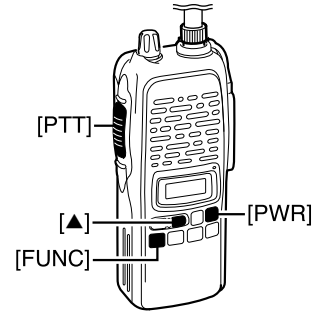
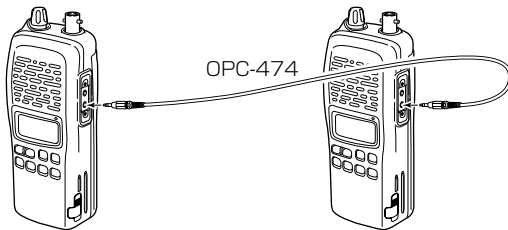
- ① 下図のようにOPC-474(別売品)で接続します。
- ② 子機(クローン受信側)の電源を“ON”にします。
- ③ 親機(送出側)の操作

[▲]と[FUNC]を押しながら、[PWR]を押して電源を入れます。

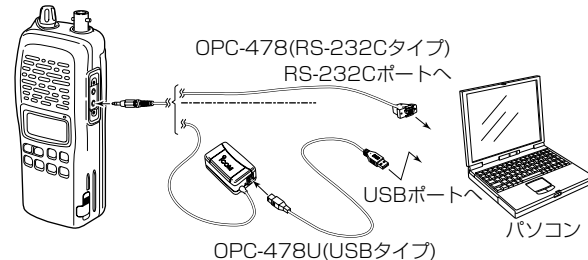
“CLONE”を表示します。

[PTT]を押すと、親機(クローン送信側)では“CL OU”を表示し、設定内容を送出します。子機(クローン受信側)では“CL IN”を表示します。

※ 子機が“CL OK”を表示して、クローニングが完了します。



◎ クローニングには左記の本体間クローニングのほかに、パーソナルコンピュータ(PC)でクローニングする方法があります。PCクローニングソフトウェアとしてCS-V82(英語版)がありますので、販売店におたずねください。



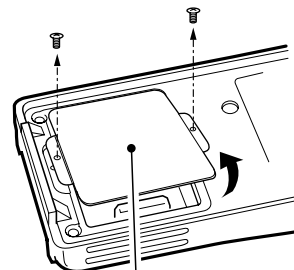
11 DV(デジタル音声)モードの操作

■ デジタル音声ユニットの取り付け

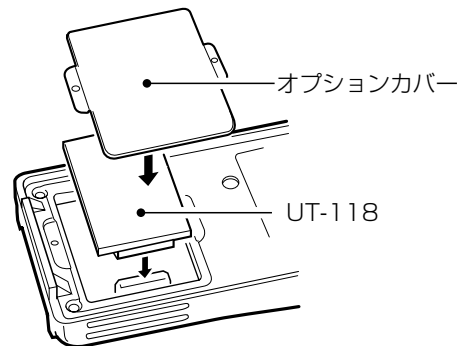
《ご注意》DV(デジタル音声)モードを運用するには、別売品のデジタル音声ユニット(UT-118)が必要です。DVモードでは、ショートメッセージの送受信、GPSとの接続による、位置情報の送受信などがお楽しみいただけます。

◇ デジタル音声ユニットを取り付ける

- ① 電源が入っているときは、[PWR]を長く押し、電源を切ります。
- ② バッテリーパックを外します。
- ③ 無線機の裏側にあるオプションカバーのネジを2箇所外し、オプションカバーを矢印の方向に持ち上げて外します。このとき、ネジをなくさないようにご注意ください。
- ④ デジタル音声ユニット(UT-118)を取り付けます。取り付けたあと、オプションカバーを元の位置に取り付けて、手順③で外したネジを元の位置に取り付けてください。



オプションカバー



オプションカバー

UT-118

■ DV(デジタル音声)モードの設定

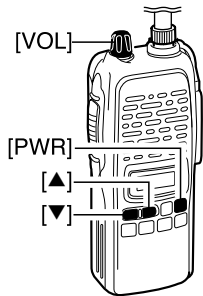
DV(デジタル音声)モードを有効にするには、DVモードをONにする必要があります(表示部に“DV”が表示されます)。

◇ イニシャルセットモードの設定

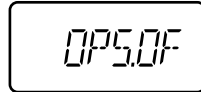
- ① 電源が入っているときは、[PWR]を長く押して、電源を切ります。
- ② [▼]/[▲]を同時に押しながら、[PWR]を長く押すと、イニシャルセットモードを表示します。
- ③ [▼]/[▲]を押して、「オプションセットモードの設定(OPS)」項目を選択します。(☞P52)



- ④ [VOL]を回して、「OPS.ON」を選択します。これでオプションセットモードが“ON”になります。
- ⑤ [PWR]を短く押して、イニシャルセットモードを解除します。



オプションセットモードがOFFのときの表示



オプションセットモードがONのときの表示

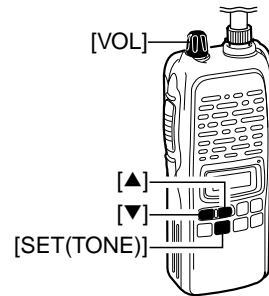


◇ DV(デジタル音声)モードの設定

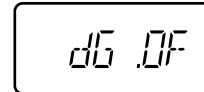
- ① [SET(TONE)]を長く押すと、セットモードを表示します。
- ② [▼]/[▲]を押して、「DV(デジタル音声)モード(dG)」項目を選択します。(☞P54)



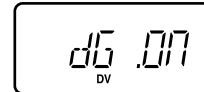
- ③ [VOL]を回して、「dG.On」を選択します。これでDV(デジタル音声)モードが“ON”になります。
- ④ [SET(TONE)]を短く押して、VFOモードにします。DV(デジタル音声)モードがONになっていると、“DV”が表示されます。



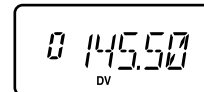
デジタルモードがOFFのときの表示



デジタルモードがONのときの表示



デジタルモードがONのときのVFO表示



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

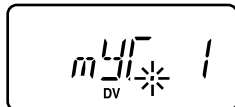
11 DV(デジタル音声)モードの操作

■ 自局と相手局のコールサインの設定

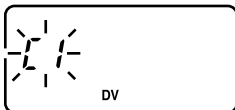
DV(デジタル音声)モードを運用するには、相手局と自局のコールサインを入力する必要があります。

◇ 自局のコールサインを設定する

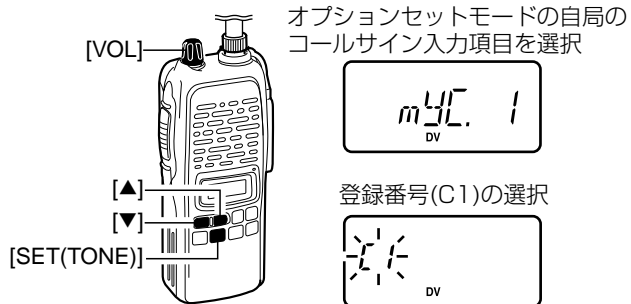
- ① [SET(TONE)]を長く押し、オプションセットモードに入ります。(P52)
- ② [▼]/[▲]を押して、「自局のコールサインの設定(myC)」項目を選択します。(P54)



- ③ [SET(TONE)]を長く押しと、登録番号(C1～C6)の選択状態になります。(登録番号表示が点滅)

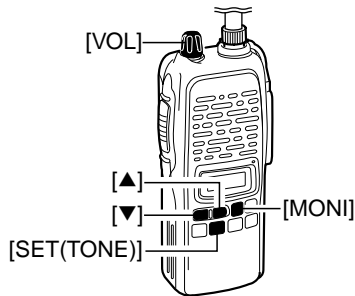


- ④ [VOL]を回して、登録番号(C1～C6)を選択します。

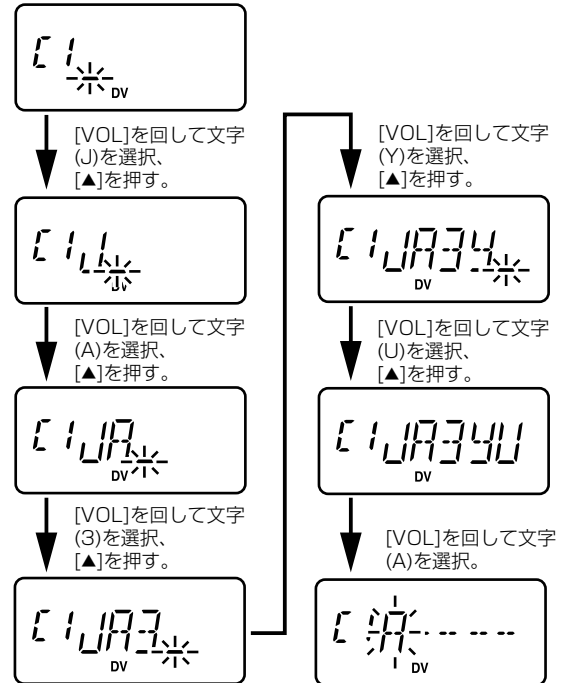


■ 自局と相手局のコールサインの設定 (つづき)

- ⑤ [▲]を短く押すと、コールサイン入力状態となり、1ケタ目が点滅します。
- ⑥ [VOL]を回して、文字を選択します。
一(スペース)、0~9(数字)、A~Z(英文字)、/(記号)が選択できます。
- ⑦ [▲]を短く押すと、選択した文字が確定し、次のケタに点滅が移動します。
※ [▲]を押すとカーソルが右に移動し、[▼]を押すとカーソルが左に移動します。
- ⑧ 前述⑥、⑦を繰り返して、自局のコールサインを入力します。
- ⑨ [SET(TONE)]を短く押すと、「自局のコールサインの設定(myC)」項目に戻り、設定が記憶されます。
※ [SET(TONE)]をもう一度短く押すか、[MONI]を短く押すと、オプションセットモード画面を解除します。
移動運用時に移動エリアなどを入力するときは、「◇ 自局のコールサイン(2nd)の設定(myS)」(次ページ)に進みます。



例：“JA3YUA”を入力する場合

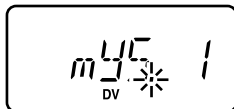


11 DV(デジタル音声)モードの操作

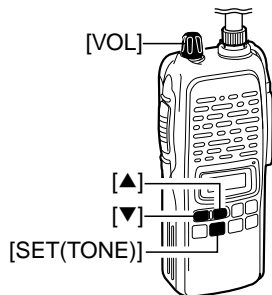
■ 自局と相手局のコールサインの設定(つづき)

◇ 自局のコールサイン(2nd)を設定する

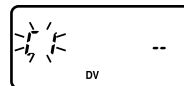
- ① [SET(TONE)]を長く押し、オプションセットモードに入ります。(※P52)
すでにオプションセットモードになっているときは、②に進んでください。
- ② [▼]/[▲]を押して、「自局のコールサイン(2nd)の設定(myS)」項目を選択します。(※P54)



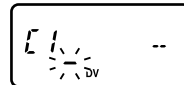
- ③ [SET(TONE)]を長く押しと、登録番号(C1~C6)の選択状態になります。(登録番号表示が点滅)
- ④ [VOL]を回して、登録番号(C1~C6)を選択します。
- ⑤ 入力のしかたは、「◇自局のコールサインを設定する」の⑤~⑨を参照してください。(※P78)



ご注意: 自局のコールサイン設定と自局のコールサイン設定(2nd)は連動しますので、登録番号(C1~C6)を合わせて入力してください。



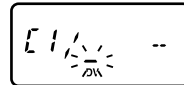
点滅が1ケタ目に移動します。



[▼]/[▲]を押し、[VOL]を回して文字を選択します。



点滅が2ケタ目に移動します。

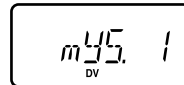


操作を繰り返して4文字まで入力できます。



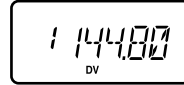
[SET(TONE)]を押します。

myS. 1 設定表示



[SET(TONE)]を押します。

周波数表示に戻ります。



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

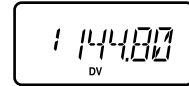
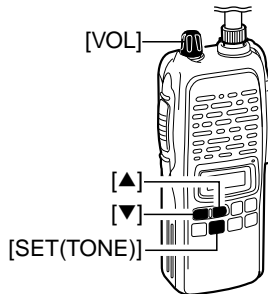
■ 自局と相手局のコールサインの設定 (つづき)

◇ 相手局のコールサインを設定する

- ① [SET(TONE)]を長く押し、オプションセットモードにします。(※P52)
すでにオプションセットモードになっているときは、②に進んでください。
- ② [▼]/[▲]を押して、「相手局のコールサインの設定(yUC)」項目を選択します。(※P54)



- ③ [SET(TONE)]を長く押すと、登録番号(C1～C6)の選択状態になります。(登録番号表示が点滅)
- ④ [VOL]を回して、登録番号(C1～C6)を選択します。



↓ [SET(TONE)]を長く押しします。



[▼]/[▲]を押して、「相手局のコールサイン設定モード」項目を選択します。

↓ [SET(TONE)]を長く押しします。

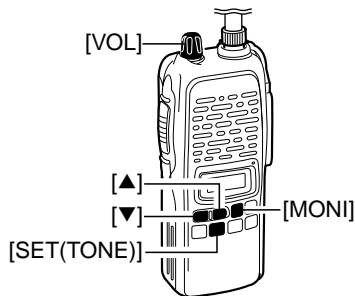
次のページに進む

※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

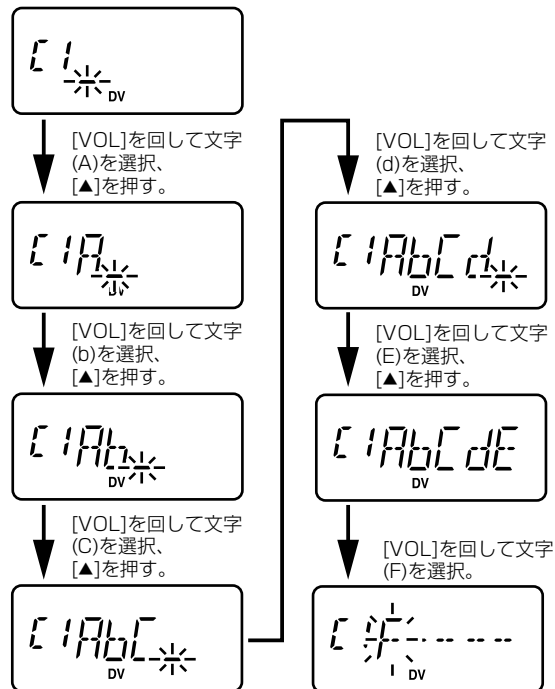
11 DV(デジタル音声)モードの操作

■ 自局と相手局のコールサインの設定 (つづき)

- ⑤ [▲]を短く押すと、コールサイン入力状態となり、1ケタ目が点滅します。
- ⑥ [VOL]を回して、文字を選択します。
ー(スペース)、0~9(数字)、A~Z(英文字)、/(記号)が選択できます。
- ⑦ [▲]を短く押すと、選択した文字が確定し、次のケタに点滅が移動します。
※ [▲]を押すとカーソルが右に移動し、[▼]を押すとカーソルが左に移動します。
- ⑧ 前述⑥、⑦を繰り返して、相手局のコールサインを入力します。
- ⑨ [SET(TONE)]を短く押すと、「相手局のコールサインの設定(yUC)」項目に戻り、設定が記憶されます。
※ [SET(TONE)]をもう一度短く押すか、[MONI]を短く押すと、オプションセットモード画面を解除します。
- 《ご参考》登録番号(C1~C6)のどれかに、「CQCQCQ」を入力されることをおすすめします(CQ呼び出し用)。



例：“ABCDEF”を入力する場合



《ご参考》CQCQCQを設定するとき、コールサイン入力状態で、[SET(TONE)]を長く押すと、自動的に“CQCQCQ”が入力されます。

■ DV(デジタル音声)モードで交信するときの設定

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOにします。
 押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [SET(TONE)]を長く押して、オプションセットモードにします。(※P52)
 すでにオプションセットモードになっているときは、③に進んでください。
- ③ [▼]/[▲]を押して、「DV(デジタル音声)モード(dG)」項目を選択します。(※P54)

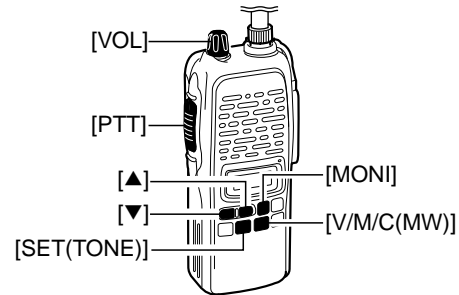


- ④ [VOL]を回して、「dG.On」を選択します。これでデジタルモードが“ON”になります。



- ⑤ [SET(TONE)]を短く押して、VFOモードにします。
 デジタルモードがONになっていると、“DV”が表示されます。
- ⑥ [▼]/[▲]を押して、交信する周波数を設定します。
- ⑦ 次頁の「CQを出して交信する場合」または「相手局を指定して交信する場合」を参照して、自局と相手局のコールサインを設定します。

- ⑧ 送信するときは、マイクロホンの[PTT]スイッチを押しながら、マイク部に向かって話します。(送信中は **TX** 表示点灯) マイクロホンと口元は5cm程離して、普通の大きさの声で話します。
- ⑨ [PTT]スイッチを離すと、受信状態に戻ります。



《ご参考》

● デジタルモニターについて

DV(デジタル音声)モードで交信中に、Sメーターが振れているのに相手局の音声が聞こえないときは、FM局と混信していることがあります。

このようなときは、イニシャルセットモードの「デジタル/アナログモニターの設定(dmO)」の設定を“AN”(アナログ)にセットしておく、信号がすばやく確認できます(※P50)

● スケルチについて

DV(デジタル音声)モードでは、スケルチが動作しません。また受信信号がなくなった場合もノイズがでませんので、相手局の信号が聞き取りにくい時は、交信の内容を確認して送信してください。

11 DV(デジタル音声)モードの操作

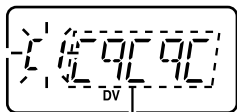
■ DV(デジタル音声)モードで交信するときの設定 (つづき)

◇ CQを出して交信する場合

- ① **[SET(TONE)]**を長く押し、オプションセットモードに入ります。(※P52)
- ② **[▼]/[▲]**を押して、「**相手局のコールサインの設定(yUC)**」項目を選択します。(※P54)



- ③ **[SET(TONE)]**を長く押し、登録番号(C1～C6)の選択状態になります。(登録番号表示が点滅)
- ④ **[VOL]**を回し、CQを登録している番号(C1～C6)を選択します。
※まだ登録されていない場合は、**[SET(TONE)]**を長く押し、**[CQCQCQ]**を登録してください。



CQCQCQを設定する

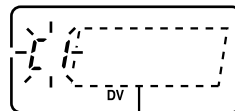
- ⑤ **[MONI]**、または**[SET(TONE)]**を押すと、オプションセットモードを解除します。

◇ 相手局を指定して交信する場合

- ① **[SET(TONE)]**を長く押し、オプションセットモードに入ります。
- ② **[▼]/[▲]**を押して、「**相手局のコールサインの設定(yUC)**」項目を選択します。(※P54)



- ③ **[SET(TONE)]**を長く押し、登録番号(C1～C6)の選択状態になります。(登録番号表示が点滅)
- ④ **[VOL]**を回して、登録番号(C1～C6)を選択します。
※相手局の登録については(※P80、81)を参照してください。



相手局のコールサインを表示する

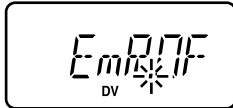
- ⑤ **[MONI]**、または**[SET(TONE)]**を押すと、オプションセットモードを解除します。

■ EMRモードの運用

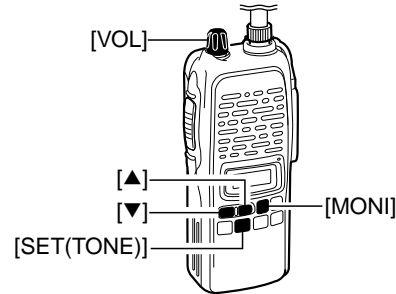
EMRモードは、DV(デジタル音声)モードで至急に連絡を取るときなどに使用します。また、相手局のコールサインやCQの設定は不要です。

EMR信号を受信すると、音量が最小、最大レベルになっていても、一定レベル(12レベル)で通話が聞こえるようにしています。

- ① [▼]/[▲]を押して、運用周波数を設定します。(※P11)
- ② DV(デジタル音声)モードを設定します。(※P76)
- ③ [SET(TONE)]を長く押し、オプションセットモードにします。(※P52)
- ④ [▼]/[▲]を押して、「EMRモードの設定(EmR)」項目を選択します。(※P55)

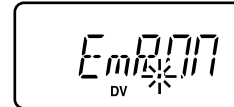


- ⑤ [VOL]を回して、「EMRモードの運用(EmR)」項目を“ON”にします。
- ⑥ [SET(TONE)]、または[MONI]を押してVFOモードにします。
- ⑦ 通常の運用と同様に交信してください。



《EMRモードを解除するとき》

- ① EMRモードを解除するときは、[SET(TONE)]を長く押し、オプションセットモードにします。(※P52)
- ② [▼]/[▲]を押して、「EMRモードの設定(EmR)」項目を選択します。(※P54)



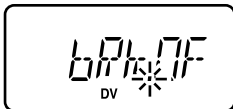
- ③ [VOL]を回して、「EMRモードの運用(EmR)」項目を“OFF”にします。
- ④ [MONI]、または[SET(TONE)]を押すと、オプションセットモードを解除します。

11 DV(デジタル音声)モードの操作

■ BK(割り込み)通信の運用

BK(割り込み)通信は、DV(デジタル音声)モードで動作します。

- ① [▼]/[▲]を押して、運用周波数を設定します。(※P11)
- ② DV(デジタル音声)モードを設定します。(※P76)
- ③ [SET(TONE)]を長く押し、オプションセットモードに入ります。(※P52)
- ④ [▼]/[▲]を押して、「割り込み通信の設定(bRk)」項目を選択します。(※P55)



- ⑤ [VOL]を回して、「割り込み通信の設定(bRk)」項目を“ON”にします。(※P55)
- ⑥ [SET(TONE)]を短く押し、オプションセットモードの項目設定で、コールサイン設定項目([myC]、[yUC]、[R1C]、[R2C])を、[▼]/[▲]を押して順番に選択、設定します。

設定項目

myC：自局のコールサインを設定します。

yUC：相手局のコールサインを設定します。

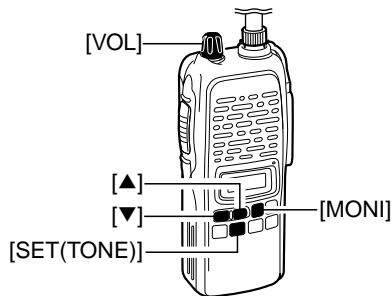
R1C：送り元中継局のコールサインを設定します。

R2C：送り先中継局のコールサインを設定します。

※ 自局/相手局のコールサインの設定は(※P77～81)を参照してください。

※ 送り元中継局/送り先中継局のコールサインの設定は(※P90、91)を参照してください。

- ⑦ [SET(TONE)]、または[MONI]を押してオプションセットモードを解除します。
- ⑧ 双方の通信が受信状態のときに、[PTT]スイッチを押してブレイクインコールをします。



■DV(デジタル音声)モード運用時の簡易データ通信について

DVモード運用時、音声通信と簡易データ通信を同時に行うことができます。

簡易データ通信をするには、パソコン、通信ソフト(市販品)と接続ケーブルが必要です。

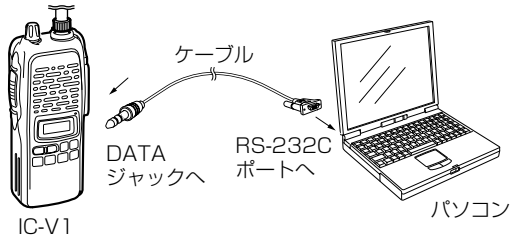
- ① VFOモードで運用周波数を設定します。(☞P11)
- ② DV(デジタル音声)モードに設定します。(☞P76)
- ③ 送信出力を設定します。

[H/M/L(☞)]を短く押すごとに送信出力が切り替わります。

※ LOWパワー選択時は表示部に“L”が、MIDDLEパワー選択時は“M”が表示されます。

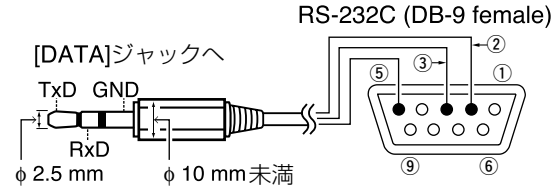
●パソコンとの接続

本機のDATA(データ)ソケットとパソコンをケーブルで接続します。ケーブルはお客様でご用意願います。



●ケーブルについて

下図のようなケーブルをご用意ください。



ピン②とRxDを接続、ピン③とTxDを接続、ピン⑤とGNDを接続する。

11 DV(デジタル音声)モードの操作

■DV(デジタル音声)モード運用時の簡易データ通信について (つづき)

◇通信ソフトの設定

- ①通信ソフトを起動します。
- ②COMポート設定画面を表示したときは、ケーブルを接続しているCOMポート番号を設定します。
- ③ **[OK]**をクリックします。
COMポート番号は、パソコンの環境により、COMポート番号が5以上になる場合があります。
通信ソフトによっては、COMポート番号が5以上を設定できないことがあります。
このときは、COMポート番号が5以上を設定できる通信ソフトをご使用ください。
- ④ 下記を参照して通信速度などを設定します。

Port	: ケーブルを接続しているCOMポート番号 を選択
Baud rate	: 9600/4800bps(イニシャルセットモード の設定にあわせる)
Data	: 8bit
Parity	: none
Stop	: 1bit
Flow control	: Xon/Xoff
- ⑤ 設定値を確認し、**[OK]**をクリックします。
- ⑥ 使用する通信ソフトの取扱説明書などにしたがって、操作してください。

- ⑦ **[PTT]**スイッチを押すと、音声と同時にデータを送信します。
 - ※ データ送信には、**[PTT]**スイッチを押して送信するモードと、文字を入力するごとに送信する自動送信モードがあります。
 - オプションセットモードの**[データ自動送信の設定(Atx)]**項目(☞P56)で設定できます。
 - Atx.OFF** : **[PTT]**スイッチを押すと、**[DATA]**ソケットに入力したデータを送信する
 - Atx.ON** : **[DATA]**ソケットにデータを入力すると自動送信する
 - ※ 自動送信時は送信開始前に約500msのキャリアセンスを実行します。

《ご参考》

使用できる文字は、ASCII(アスキー)コードの文字となっています。
本製品の標準機能として、DV(デジタル音声)モード運用時に、20文字(半角英数字、記号)までのメッセージ通信機能も装備しています。(☞P92)

【ご注意】

- 通信ソフトとパソコンまたはOS(オペレーティング・システム)の組み合わせによっては、一部のデータが正しく送受信できない場合があります。
- インターネット回線網を経由したゾーン間通信では、パケットロスによって、データの一部を失うことがあります。

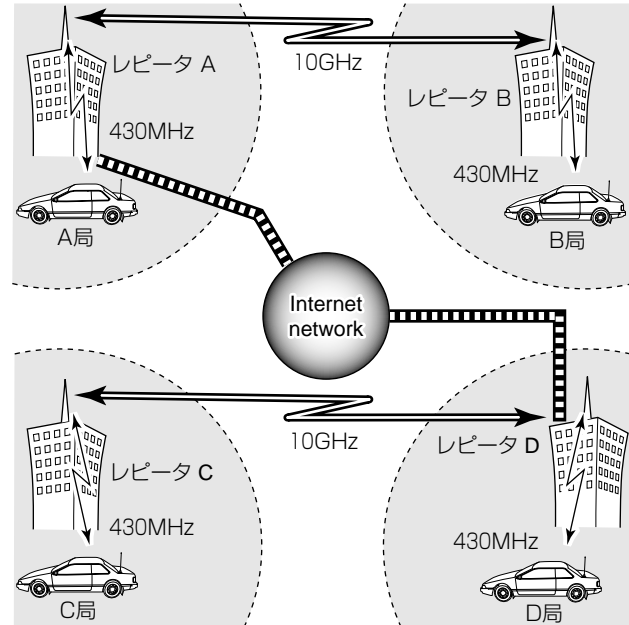
■ D-STAR®システムについて(IC-U1のみ)

- D-STAR®システムは4.8kbpsのデジタル音声通信が運用できます。
- D-STAR®システムのレピータを起動するには、自局/相手局/RPT1(送り元中継局)/RPT2(送り先中継局)のコールサインの設定が必要です。
- **デジタル音声通信**は、従来のFMと同様なデュプレックス方式で中継します。
- アップリンクとダウンリンクを430MHz帯、レピータ同士を10GHz帯の周波数でリンクしています。
- デジタルレピータへの連続送信を10分に制限しています。連続送信が制限時間の約30秒前になると、ビープ音(ピー)が鳴り、送信を停止する前にビープ音(ピーピーピー)を鳴らして警告します。
- RPT1(送り元中継局)またはRPT2(送り先中継局)の後にG(Gateway)を設定すると、インターネットを利用した通信が可能になります。

「おことわり」

2004年11月現在430MHz帯のデジタルレピータは設置されておらず、デジタルレピータの運用はできません。

設置後は、記載しているデジタルレピータの運用を楽しむことができます。



【ご注意】

DV(デジタル音声)モードでレピータを運用するときは、レピータからの電波が停止してから、送信するようにしてください。

レピータが受信状態に戻る前に送信すると、正常に通信できなくなることがあります。

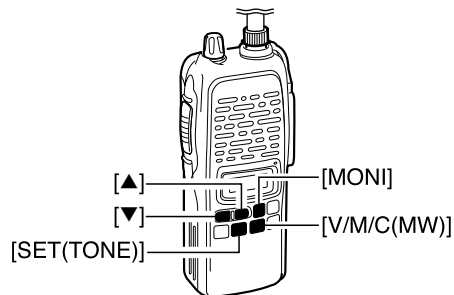
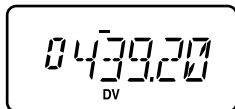
11 DV(デジタル音声)モードの操作

■ デジタルレピータの運用(IC-U1のみ)

DV(デジタル音声)モードで、レピータを運用するには、相手局、送り元中継局、送り先中継局と自局のコールサインを入力する必要があります。

◇ 運用周波数とDV(デジタル音声)モードを設定する

- ① **[V/M/C(MW)]**を短く押して、VFOにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② DV(デジタル音声)モードを設定します。(※P76)
- ③ **[SET(TONE)]**または**[MONI]**を短く押して、VFOモードにします。
- ④ **[▼]/[▲]**を押して、周波数を439.000MHz~440.000MHzに合わせます。
“-”を表示して、マイナスシフトとオフセット周波数(5.000MHz/初期設定値)が自動的に設定されます。



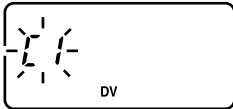
■ デジタルレピータの運用(IC-U1のみ) (つづき)

◇ レピータのコールサインを設定する

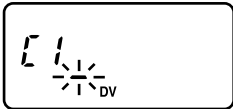
- ① [SET(TONE)]を長く押し、オプションセットモードにします。(※P52)
- ② [▼]/[▲]を押して、「レピータ1のコールサインの設定(R1C)」項目を選択します。(※P54)



- ③ [SET(TONE)]を長く押し、登録番号(C1~C6)の選択状態になります。(登録番号表示が点滅)



- ④ [VOL]を回して、登録番号(C1~C6)を選択します。すでにコールサインを登録しているときは、[VOL]で登録番号を選択し、[SET(TONE)]を短く2回押すか、[MONI]を短く押し、オプションセットモードを解除します。
- ⑤ [▲]を押すと、コールサイン入力状態となり、1ケタ目が点滅します。



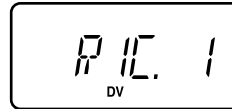
- ⑥ [VOL]を回して、文字を選択します。一(スペース)、0~9(数字)、A~Z(英文字)、/(記号)が選択できます。

- ⑦ [▲]を押すと、選択した文字が確定し、次のケタに点滅が移動します。
[▲]を押すと、カーソルが右に移動し、[▼]を押すと、カーソルが左に移動します。
- ⑧ 前記⑥、⑦を繰り返して、送り元中継局(R1C)のコールサインを入力します。
- ⑨ [SET(TONE)]を押すと、レピータ1のコールサインを書き込み、「レピータ1のコールサインの設定(R1C)」設定画面に戻ります。
- ⑩ [▲]を短く2回押して、「レピータ2のコールサインの設定(R2C)」項目を選択します。(※P55)

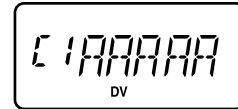


- ⑪ 前記⑤~⑨を繰り返して、送り先中継局(R2C)のコールサインを入力します。
レピータ2を使用しないときは、何も入力しないでください。

RPT1(送り元中継局)を選択



送り元中継局のコールサイン設定



※図は仮設定例です。

RPT1(送り先中継局)を選択



送り先中継局のコールサイン設定



※図は仮設定例です。

11 DV(デジタル音声)モードの操作

■ デジタルレピータの運用(IC-U1のみ) (つづき)

- ⑫ インターネット回線網を経由して、別のゾーンと通信するときは、**[V/M/C(MW)]**を短く押して、**レピータ2のコールサイン(R2C)**の末尾に**G(Gateway)**を設定します。

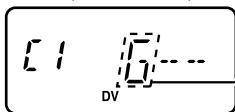
R1Cのみを使用するときは、R1Cのコールサインの末尾に“**G**”を設定します。

R1C/R2Cを使用するときは、R2Cのコールサインの末尾に“**G**”を設定します。

[V/M/C(MW)]を短く押すごとに、G(Gateway)の設定/解除を切り替えます。

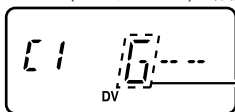
RPT1(送り元中継局)を選択

RPT1にG(ゲートウェイ)の設定例



RPT2(送り先中継局)を選択

RPT2にG(ゲートウェイ)の設定例

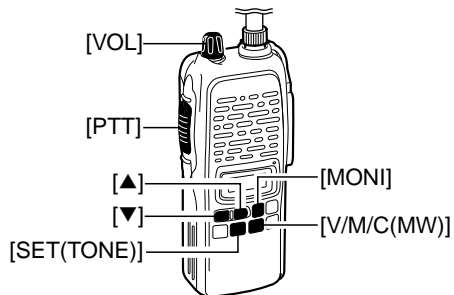


[V/M/C(MW)]を短く押すと、G(ゲートウェイ)の設定/解除を切り替えます。

- ⑬ **[SET(TONE)]**を短く2回押すか、**[MONI]**を短く押して、オプションセットモードを解除してください。

- ⑭ 送信するときは、**[PTT]**スイッチを押しながら、マイク部に向かって話します。(送信中は**TX**表示点灯)
マイクロホンと口元は5cm程離し、普通の大きさの声で話します。

- ⑮ **[PTT]**スイッチを離すと、受信状態に戻ります。



※ レピータ1、2のコールサインを入力するときは、「**自局のコールサイン設定(myC)**」/**「相手局のコールサイン設定(yUC)**」(☞P77~81)を参照してください。

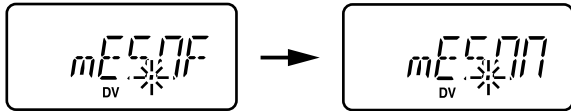
※ ゾーン外CQで呼び出すときは、yUC(相手局)を設定するとき、“**/**”を入力して、続けて目的のゾーンにあるレピータのコールサインを入力してください。

■ メッセージ通信機能の使いかた

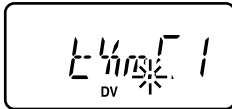
DV(デジタル音声)モードで音声通信しながら、同時にテキストメッセージでの通信ができます。

- 最大20文字のメッセージを送受信できます。
- 使用できる文字は、英数字と記号です。

- ① [DV(デジタル音声)モードの操作](P75)を参照して、運用周波数、自局と相手局のコールサインなどを設定します。
- ② [SET(TONE)]を長く押して、オプションセットモードにします。(P52)
- ③ [▼]/[▲]を押して、「メッセージ送信機能(mES)の設定」項目を選択します。(P57)

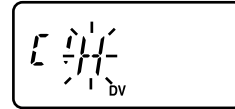


- ④ [VOL]を回して、「メッセージ送信機能(mES)の設定」項目を“ON”にします。
- ⑤ [▼]/[▲]を押して、「送信メッセージ(tXm)の設定」項目を選択します。(P57)



- ⑥ [SET(TONE)]を長く押すと、登録番号(C1～C6)の選択状態になります。(登録番号表示が点滅)
- ⑦ [VOL]を回して、登録番号(C1～C6)を選択します。このとき、すでに登録している登録番号を選択すると、その内容を表示します。
- ⑧ [▲]を押すと、1ケタ目が点滅します。

- ⑨ [VOL]を回して、文字を選択します。



- ⑩ [▲]を押すと、選択した文字が確定し、次のケタに点滅が移動します。
[▲]を押すと、カーソルが右に移動し、[▼]を押すと、カーソルが左に移動します。
- ⑪ 前記⑨～⑩を繰り返し、メッセージを入力します。

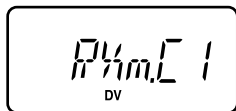


- ⑫ [SET(TONE)]を押すと、メッセージを書き込み、「送信メッセージ(tXm)の設定」項目に戻ります。
- ⑬ [SET(TONE)]または[MONI]を短く押して、オプションセットモードを解除します。
- ⑭ マイクの[PTT]スイッチを押すと、設定したメッセージを送信します。
会話しながらメッセージを送信できます。
[PTT]を押すと、「メッセージ送信機能(mES)の設定」が自動的に“OFF”になります。もう一度メッセージを送信したいときは、「メッセージ送信機能(mES)の設定」を“ON”にしてください。

11 DV(デジタル音声)モードの操作

■メッセージ通信機能の使いかた(つづき)

- ⑮ [PTT]スイッチを離して、受信状態にします。
相手局からメッセージを受信すると、メッセージが取り込まれます(表示部には表示されません)。
- ⑯ [SET(TONE)]を長く押し、オプションセットモードに入ります。(☞P52)
- ⑰ [▼]/[▲]を押して、「受信メッセージ(RXm)の設定」の項目を選択します。(☞P57)



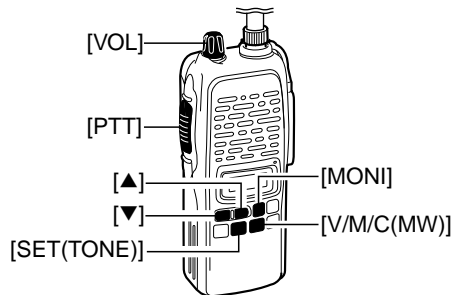
- ⑱ [SET(TONE)]を長く押すと、登録番号(C1~C6)の選択状態になります。(登録番号表示が点滅)
[VOL]を回して、閲覧する登録番号(C1~C6)を選択します。
- ⑲ [▼]/[▲]を押して、メッセージを確認します。

【ご注意】

本機では、メッセージを6件記憶できます。
記憶したメッセージが6件を超えると、古い順番に上書きされます。また、消去されたメッセージは元に戻せません。

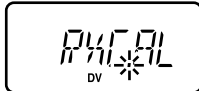
●文字入力一覧表

(space)	1 (l)	2 (")	3 (#)	4 (\$)	5 (%)	6 (&)	7 (')	8 (l)	9 (l)
0 (*)	1 (+)	2 (.)	3 (-)	4 (.)	5 (/)	6 (0)	7 (1)	8 (2)	9 (3)
4 (4)	5 (5)	6 (6)	7 (7)	8 (8)	9 (9)	1 (:)	1 (;)	2 (<)	3 (=)
7 (>)	7 (?)	2 (@)	4 (A)	5 (B)	6 (C)	7 (D)	8 (E)	9 (F)	0 (G)
4 (H)	1 (I)	2 (J)	3 (K)	4 (L)	5 (M)	6 (N)	7 (O)	8 (P)	9 (Q)
4 (R)	5 (S)	6 (T)	7 (U)	8 (V)	9 (W)	4 (X)	5 (Y)	6 (Z)	7 (l)
4 (N)	7 (l)	7 (^)							



■ 受信履歴項目を呼び出してコールサインを確認する

- ① [SET(TONE)]を短く押して、オプションセットモードにします。(☞P52)
- ② [▼]/[▲]を押して、受信履歴項目(「相手局のコールサイン表示(RXC)」)、「受信レピータ1のコールサイン表示(R1C)」、「受信レピータ2のコールサイン表示(R2C)」をそれぞれ選択、設定します。(☞P55)



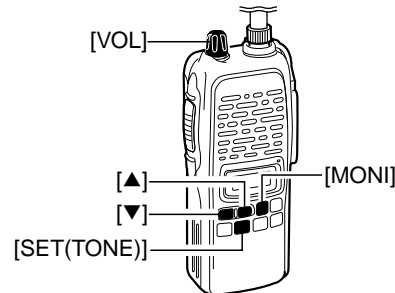
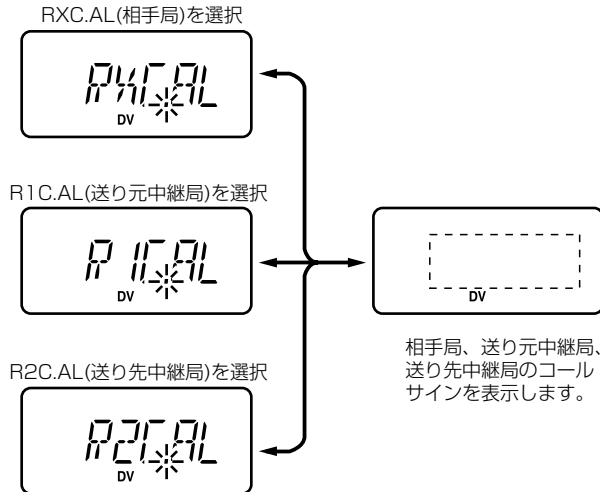
RXC.AL(相手局)

各受信履歴項目で、[VOL]を回してコールサインを選択します。

設定項目

- RXC.AL** : 相手局コールサインの受信履歴を表示します。
- R1C.AL** : 送り元中継局コールサインの受信履歴を表示します。
- R2C.AL** : 送り先中継局コールサインの受信履歴を表示します。

- ③ [SET(TONE)]を長く押すと、選択した受信履歴のコールサインを表示します。
- ④ [SET(TONE)]または[MONI]を短く押すと、オプションセットモードを解除します。

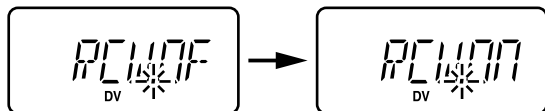


11 DV(デジタル音声)モードの操作

- 受信履歴項目を呼び出してコールサインを確認する (つづき)

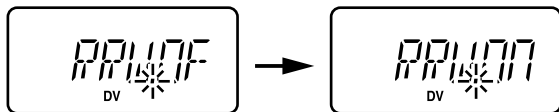
【ご参考】

- オプションセットモードの「相手局コールサイン自動書き込み機能の設定(RCW)」(☞P56)をONに設定すると、「相手局のコールサイン表示(RXC)」(☞P55)に記憶したコールサインを「相手局のコールサインの設定(yUC)」(☞P54)に転送し、その内容を書き替えます。



[VOL]を回して切り替える

- オプションセットモードの「受信レピータコールサイン自動書き込み機能の設定(RRW)」(☞P56)をONに設定すると、「レピータ1のコールサイン表示(R1C.AL)」、「レピータ2のコールサイン表示(R2C.AL)」に記憶したレピータコールサインを、それぞれ「レピータ1のコールサインの設定(R1C)」、「レピータ2のコールサインの設定(R2C)」に転送し、その内容を書き替えます。



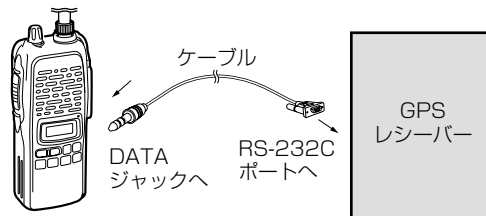
[VOL]を回して切り替える

【ご注意】

一度、本体の電源を“OFF”にすると、「相手局コールサインの受信履歴(RXC.AL)」、「送り元中継局コールサインの受信履歴(R1C.AL)」、「送り先中継局コールサインの受信履歴(R2C.AL)」に記憶したコールサインは消去されます。

■ GPSの運用

市販されているGPSレシーバー*を本機に接続することにより、自局の位置情報などを相手局に送ることができます。データフォーマットは、NMEAのGPSデータが使用できます。GPSデータは、本機の後面パネル(DATAソケット)とGPSレシーバーのRS-232C端子をクロス変換を介して接続します。*RS-232C端子を装備しているGPSレシーバーをご使用ください。



ケーブルについては、「DV(デジタル音声)モード運用時の簡易データ通信について」(☞P86)を参照ください。

■ GPSの運用 (つづき)

- ① [SET(TONE)]を長く押し、オプションセットモードにします。(※P52)
- ② [▼]/[▲]を押し、「GPSの設定(GPS)」項目を選択します。(※P57)



- ③ [VOL]を回して、GPSセンテンス(GPSのフォーマット)を設定します。
“1”から“25”の中から、GPSセンテンスを選択します。



番号とGPSセンテンス(フォーマット)の関係

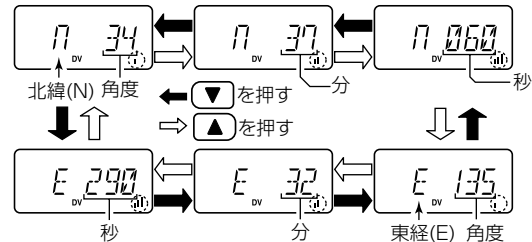
番号	対応フォーマット					番号	対応フォーマット				
	GLL	GGA	RMC	GSA	VTG		GLL	GGA	RMC	GSA	VTG
01	×	×	×	×	×	13	×	×	○	×	×
2	○	×	×	×	×	14	×	×	×	×	×
3	×	○	×	×	×	15	×	×	×	×	○
4	×	×	×	○	×	16	○	○	×	×	×
5	×	×	×	×	○	17	○	○	×	×	×
6	○	○	×	×	×	18	○	×	×	×	○
7	○	×	○	×	×	19	○	×	○	×	×
8	○	×	×	×	×	20	×	×	○	×	×
9	○	×	×	×	○	21	○	×	×	○	○
10	×	○	○	×	×	22	×	○	○	○	×
11	×	○	×	×	○	23	×	×	×	×	○
12	×	○	×	×	○	24	×	○	×	○	○
						25	×	×	×	○	○

○: 対応 ×: 非対応

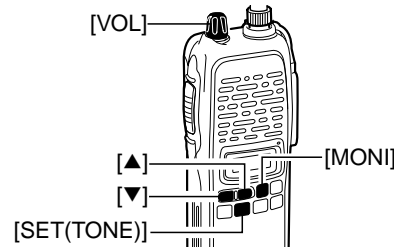
- ④ [▼]/[▲]を押し、「自局位置情報の表示(myP.OS)」項目を選択します。(※P58)



- ⑤ [SET(TONE)]を長く押すと、自局の位置データを表示します。
[▲]を押しと右にスクロールし、[▼]を押しと左にスクロールします。



- ⑥ [SET(TONE)]を短く2回押すか、[MONI]を短く押すと、周波数表示に戻ります。

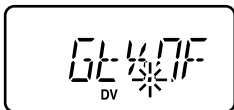


11 DV(デジタル音声)モードの操作

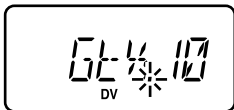
■GPSの運用(つづき)

◇GPS自動送信の設定

- ① [SET(TONE)]を長く押し、オプションセットモードに入ります。(P52)
- ② [▼]/[▲]を押して、「GPS自動送信の設定(GtX)」項目を選択します。(P54)



- ③ [VOL]を回して、送信する間隔(0.5/1/3/5/10/30分)を選択します。



0.5 : 30秒ごとに送信 1 : 1分ごとに送信
3 : 3分ごとに送信 5 : 5分ごとに送信
10 : 10分ごとに送信 30 : 30分ごとに送信

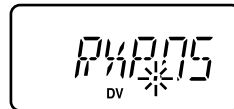
選択した時間ごとに、GPSからの位置情報を送信します。

また、メッセージが設定されていれば、その情報も送信します。(P92)

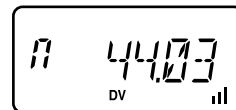
- ④ [SET(TONE)]を短く2回押すか、[MONI]を短く押すと、オプションセットモードを解除します。

◇受信位置情報を確認する

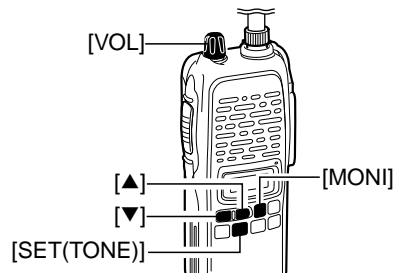
- ① [SET(TONE)]を短く押し、セットモードに入ります。(P52)
- ② [▼]/[▲]を押して、相手局位置情報の表示[RXP.OS]項目を選択します。(P58)



- ③ [SET(TONE)]を長く押し、相手局の位置情報を表示します。
[▲]を押すと右にスクロールし、[▼]を押すと左にスクロールします。



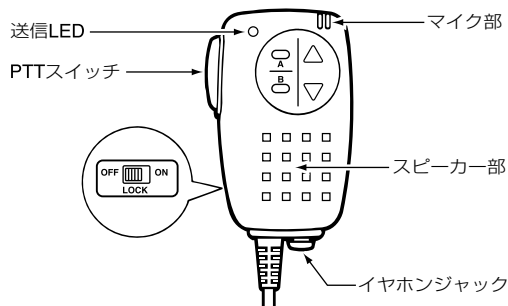
- ④ [SET(TONE)]を短く2回押すか、[MONI]を短く押すと、オプションセットモードを解除します。



■ HM-75A(スピーカーマイクロホン)の使いかた

別売品として、リモコン機能付きスピーカーマイクロホンも用意しています。

セットモードの「リモコン機能付きスピーカーマイクロホンの設定(mIC)」項目(※P50)で、HM-75A(リモコン機能付きスピーカーマイクロホン)使用時に、必要最小限のリモコン機能を設定します。(右記参照)



※ 裏面にはLOCK(ロック)スイッチがあり、“ON”にすると各キーの機能を無効にします。

本体の電源を切ってから、HM-75Aを[SP]/[MIC]ジャックに抜き差ししてください。

● NORM-1：(初期設定)	
[A]	以前に使用したCALL-CHを呼び出します。
[B]	VFO/メモリーモードを切り替えます。
[▲]	VFO時の周波数またはメモリー時のM-CHをアップします。
[▼]	VFO時の周波数またはメモリー時のM-CHをダウンします。

● NORM-2：	
[A]	モニター機能を“ON/OFF”します。
[B]	VFO/メモリーモードを切り替えます。
[▲]	VFO時の周波数またはメモリー時のM-CHをアップします。
[▼]	VFO時の周波数またはメモリー時のM-CHダウンします。

● SIMPLE：	
[A]	モニター機能を“ON/OFF”します。
[B]	以前に使用したCALL-CHを呼び出します。
[▲]	M-CHの000CHを呼び出します。
[▼]	M-CHの001CHを呼び出します。

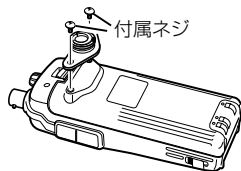
■ シンプル機能について

グループでツーリングやスキーに行くときに、必要最小限のリモコン機能だけに限定し、トランシーバーの操作になれていない初心者でも、簡単に周波数移行ができるように工夫された便利な機能です。

12 別売品について

■MB-86(回転式ベルトクリップ)の取り付けかた

- ストッパーの取り付けかた



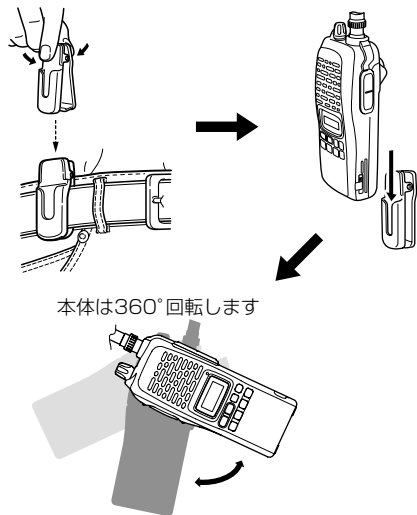
【ご注意】

付属品以外のネジで
取り付けないでくだ
さい。

- ベルトクリップの取り付けかた

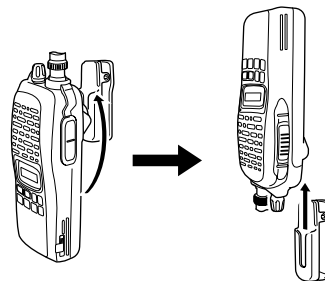
ベルトクリップをベルトなど
に取り付けます

本体に取り付けたストッパー部を
ベルトクリップに取り付けます



- 無線機のはずしかた

ベルトクリップから無線機をはずすときは、無線機を回転(180°)
させてから引き抜きます。



△注意

ストッパーの破損にご注意ください。

落としたり、強い衝撃が加わってストッパー部分を破損すると、
ベルトクリップが正常に機能しないおそれがあります。

■ 工場出荷時の状態に戻す(リセット)には

静電気などによる外部要因で、CPUが誤動作して表示部の表示がおかしくなったときは、オールリセット、またはパシャルリセット操作をしてください。


■ オールリセット操作をすると、次の機能データを工場出荷時の状態に戻します。

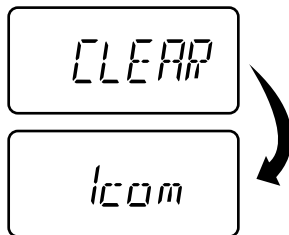
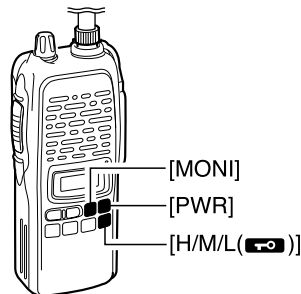
- VFO周波数、メモリーチャンネル(M-CH)、メモリーバンク、SETモード、音量設定、スキャンエッジ、スケルチレベルなど

■ パシャルリセット操作をすると、次の機能データを工場出荷時の状態に戻します。


- VFO周波数、SETモード、音量設定

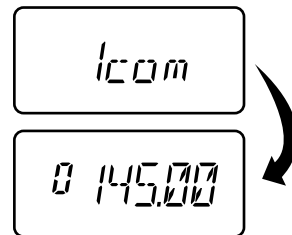
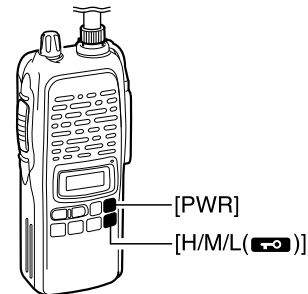
① オールリセットのしかた

- ① [PWR]を長く押し、いったん電源を切ります。
 - ② [MONI]と[H/M/L()]を同時に押しながら、[PWR]を長く押し電源を入れます。
- “CLEAR”→“Icom”を表示したあと、初期表示になります。



② パシャルリセットのしかた

- ① [PWR]を長く押し、いったん電源を切ります。
 - ② [H/M/L()]を押しながら、[PWR]を長く押し電源を入れます。
- “CLEAR”は表示しません。“Icom”を表示したあと、初期表示になります。



※表示部の周波数はIC-V1の表示です。

13 ご参考

■ 故障かな?と思ったら

下表にあげた状態は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。

それでも異常があるときは、弊社各営業所のサービス係まで、その状態を具体的にご連絡ください。

状 態	原 因	処 置	参照
●電源が入らない	◎バッテリーパック(ケース)の接触不良 ◎電池の極性まちがい ◎バッテリーパックまたは電池の消耗	●バッテリーパック(ケース)の端子を清掃する ●極性を確認して、電池を入れなおす ●バッテリーパックは充電し、電池は入れ替える	P6 P6 P6~9
●スピーカーから音が出ない	◎音量が小さくなっている ◎外部スピーカーを接続している	●[VOL]を回して、音量を設定しなおす ●外部スピーカープラグが正常に接続されているか、ケーブルが断線していないかを点検する	P11 -
●感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎同軸ケーブルの断線またはショート(外部アンテナ使用時)	●同軸ケーブルを点検し、正常にする	P5
●[VOL]を回すと、周波数を調整する	◎入れ替え機能が動作している	●セットモードで[VOL]機能の入れかえを解除する	P50
●[▼]または[▲]を押すと、音量を調整する	◎入れ替え機能が動作している	●セットモードで[VOL]機能の入れかえを解除する	P50
●電波が出ないか、電波が弱い	◎LOWパワーの設定になっている ◎バッテリーパックまたは電池の消耗	●HIGHパワーにする ●バッテリーパックは充電し、電池は入れ替える	P12 P6~9
●送信しても応答がない	◎デュプレックス運用になっていて、送受信の周波数が違っている	●デュプレックス運用を解除し、送受信の周波数を同じにする	P19、20
●周波数の設定ができない	◎キーロック機能が動作している ◎メモリーモードまたはコールチャンネルになっている	●キーロック機能を解除する ●VFOモードにする	P73 P11
●周波数が異常な表示になっている	◎CPUが誤動作している ◎静電気などによる外部要因	●リセットする ●バッテリーを装着しなおす	P100 P6

■ 故障かな?と思ったら(つづき)

状態	原因	処置	参照
●プログラムスキャンが動作しない	◎VFOモードになっていない ◎PROGRAM-CHの“*A”と“*B”に同じ周波数が書き込まれている	●[V/M/C(MW)]を押して、VFOモードにする ●“*A”と“*B”に違う周波数を書き込む	P11 P23、33
●メモリスキャンが動作しない	◎メモリーモードになっていない ◎M-CHに2CH以上書き込まれていない	●[V/M/C(MW)]を押して、メモリーモードにする ●2CH以上をM-CHに書き込む	P22 P23
●急速充電器で充電中、充電器のLEDが橙色で点滅して充電できない	◎本体の電源が“ON”の状態になっている	●本体の電源を“OFF”にする “OFF”にできないときは、本体からバッテリーパックをはずし、バッテリーパックを単体で充電する	P8

■ 故障のときは

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 修理を依頼されるとき

「故障かな?と思ったら(※P101、102)」にしたがって、もう一度調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

14 定 格

■一般仕様

- 送信 / 受信周波数範囲 : 144.000~146.000MHz [IC-V1]
: 430.000~440.000MHz [IC-U1]
- 使用温度範囲 : -10℃~+60℃
- 周波数安定度 : ±2.5ppm以内(-10℃~60℃)
(25℃を基準とする)
- 周波数分解能 : 5、10、12.5、15、20、25、30、
50kHz
- M-CH(メモリーチャンネル) : 207CH
(PROGRAM-CH 1A~3b : 6CH、
CALL-CH : 1CHを含む)
- 電源電圧 : DC 7.2V(動作可能電圧 : 6.0~10.3V)
- 接地方式 : マイナス接地
- 電波型式 : F2D、F3E
- アンテナインピーダンス : 50Ω 不平衡
- 外形寸法 : 54.0(W)×139.0(H)×36.7(D)mm
(突起物を除く)
- 重量 : 約200g
(アンテナ、電池パック、ベルトク
リップを除く)

■送信部

- 変調方式 : FMリアクタンス変調
- 最大周波数偏移 : (ワイド) ±5kHz
(ナロー) ±2.5kHz
- マイクロホンインピーダンス : 2.2kΩ
- スプリアス発射強度 : -60dBc以下

■送信部(つづき)

- 送信出力 / 消費電流 :

モード	IC-V1		IC-U1	
	送信出力	消費電流	送信出力	消費電流
High	7.0W	2.6A	5.0W	2.0A
Middle	4.0W	2.0A	2.0W	1.4A
Low	0.5W	1.0A	0.5W	0.9A

■受信部

- 受信方式 : ダブルスーパーヘテロダイン
- 中間周波数 : 1st : 46.35MHz / 2nd : 450kHz
- 受信感度 : FM 12dB SINAD
-14dBμ以下 (0.16μV typical)
- スケルチ感度 : Threshold
-16dBμ以下 (0.11μV typical)
- 選択度 : (ワイド) 55dB以上
(65dB typical)
(ナロー) 50dB以上
- 相互変調 : 55dB以上 (65dB typical)
- スプリアス妨害比 : 60dB以上
(80dB typical) [IC-V1]
(70dB typical) [IC-U1]
- 受信消費電流 : 最大出力時 250mA以下
受信待ち受け時 80mA以下
パワーセーブ時 30mA以下
- 低周波出力 : 0.3W以上 (8Ω負荷 10%歪率時)
- 低周波負荷インピーダンス : 8Ω

※測定値は、JAJA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。
※定格、外観、仕様などは、改良のため予告なしに変更することがあります。

■ 免許申請の書きかた

本機は、技術基準適合証明を受けた「技術証明送受信機」です。

免許申請書類のうち「無線局事項及び工事設計書」は、以下の要領で記入してください。

21 希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式						
周波数帯	空中線電力	電波の型式		周波数帯	空中線電力	電波の型式
IC-V1の場合 144M	10	4VF		オプションデジタルユニット (UT-118)をご使用の場合は [4VA]を記入してください。		
IC-U1の場合 430M	10	4VF				

電波の型式は、一括記載コードで記入できます。
一括記載コードの中に、希望する電波型式が無い場合は、個々に新電波型式で記入してください。

22 工事設計	IC-V1の場合		IC-U1の場合		第3送信機
	第1送信機	第2送信機	第2送信機	第3送信機	
変更の種類	取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去	
技術基準適合証明番号	技術番号を記入する		技術番号を記入する		
発射可能な電波の型式、周波数の範囲	144MHz帯：F2D,F3E	430MHz帯：F2D,F3E	オプションデジタルユニット(UT-118)をご使用の場合は ●IC-V1の場合、 「144MHz帯:F2D,F3E,F7W」 ●IC-U1の場合、 「430MHz帯:F2D,F3E,F7W」 を記入してください。		
変調の方式	リアクタンス変調	リアクタンス変調			
定格出力	144MHz帯：7W	430MHz帯：5W			
終段管	名称個数	RD12MVS1×1	2SK3476×1		
	電圧	7.0V	7.0V		
送信空中線の型式	単一型		周波数測定装置	A	(誤差)
その他の工事設計	電波法第3章に定める条件に合致している		添付図面	<input checked="" type="checkbox"/> 送信機系統図	

本機に、技術証明マークと技術証明番号が印刷されたシールを貼っています。
その番号を記入してください。
必ず、申請に使用するトランシーバ本体をご確認ください。

「技術基準適合証明番号」を記入しているときは、記入する必要はありません。
オプションのデジタルユニット(UT-118)、付属装置(TNCなど)、または付加装置(トランスバーターやパワーブースターなど)を付ける場合は、非技術証明送受信機となりますので、TSS株式会社の保証を受ける必要があります。
したがって、網掛け部分に発射可能な電波型式などを追記し、お使いになる装置を含めた送信系統図を添付して申請してください。

※工事設計書には、一括記載コードではなく、個別の新電波型式を記入してください。

付属のアンテナで申請するときは「単一型」と記入してください。

◇ 認定の申請について

TSS株式会社に必要な事項を記入した「アマチュア無線局の無線設備の保証願書」を、「無線局申請書」に添えて申請してください。

保証願書および申請に関するお問い合わせ先は、右のとおりです。

〒112-0011

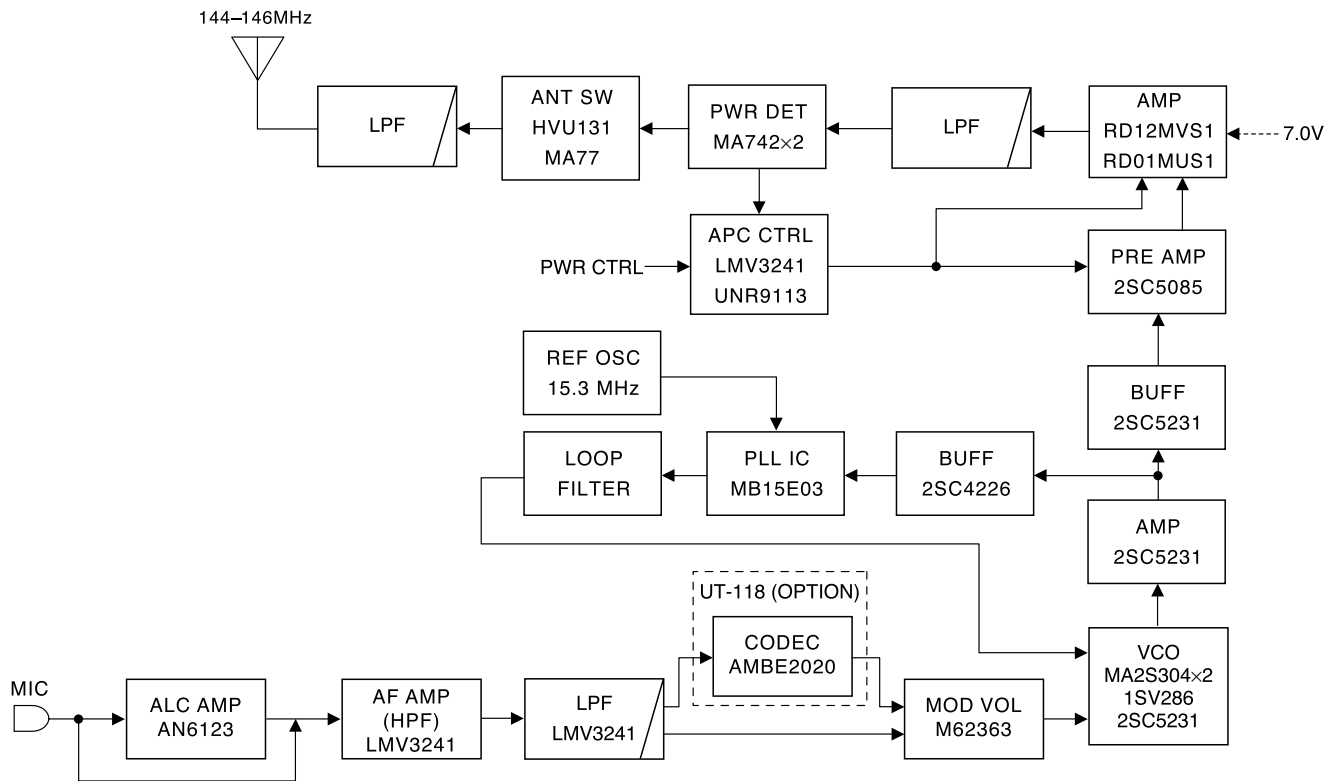
東京都文京区千石4-22-6

TSS株式会社 保証事業部

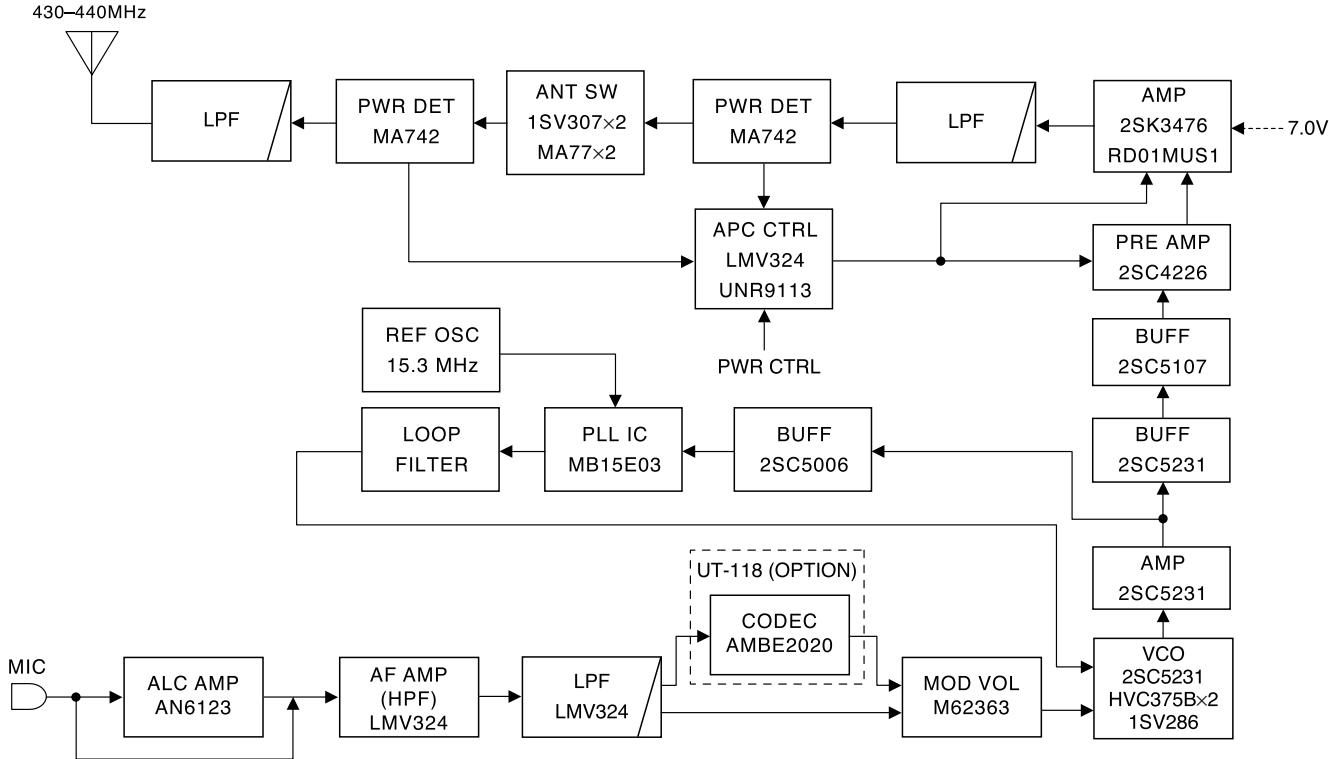
TEL：03-5976-6411

15 免許申請について

■送信系統図 (IC-V1)



■送信系統図 (IC-U1)



15 免許申請について

■ バンドの使用区別について

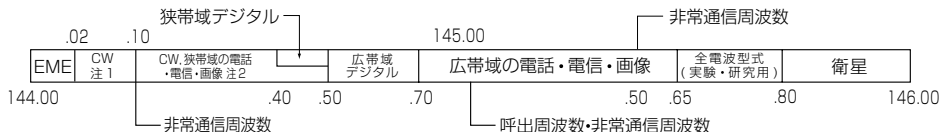
電波を発射するときは、下記の使用区別にしたがって運用してください。

なお、バンドプラン(使用区別)は改訂される場合があります。

最新の情報は、JARLニュースなどでご確認ください。

144MHz帯

周波数：MHz



【注1】 144.02MHzから144.10MHzまでの周波数は、月面反射通信にも使用できる。

この場合の電波の占有周波数帯幅の許容値は6kHz以下のものに限る。

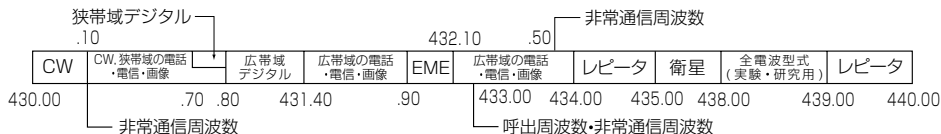
【注2】 144.30MHzから144.50MHzまでの周波数は、国際宇宙ステーションとの交信に限って広帯域の電話、電信及び画像通信にも使用することができる。

【注3】 DV(デジタル音声)モードを運用するときは、145.65MHzから145.80MHzまでの全電波型式(実験・研究用)の周波数を使用すること。

狭帯域：占有周波数帯幅6kHz以下、広帯域：6kHzを超える

430MHz帯

周波数：MHz



狭帯域：占有周波数帯幅6kHz以下、広帯域：6kHz以上

【注1】 DV(デジタル音声)モードを運用するときは、438.00MHzから439.00MHzまでの全電波型式(実験・研究用)の周波数を使用すること。

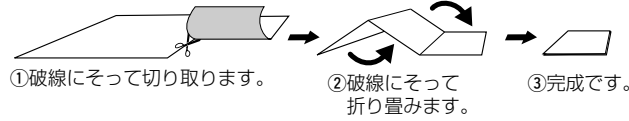
操作ガイド 16

主要な操作について、このページと裏に続くページにまとめています。

破線にそって切り取り、折りたたんでいただくことにより、簡単な操作ガイドになります。

財布やカードケースに収まるカードサイズですので、携帯にも便利です。

ちょっとした操作方法の確認や、屋外での運用などの際に、ご利用ください。



切り取り線

■キーロックの“ON/OFF”
[FUNC]を押してから、[H/M/L]を長く押す

■リセット操作のしかた
◆オールリセット

- ①いったん電源を切る
- ②[MON]と[H/M/L]を押しながら、電源を“ON”にする

◆バーチャルリセット

- ①いったん電源を切る
- ②[H/M/L]を押しながら、電源を“ON”にする

■スケルチレベルの設定

- [MON]を押しながら、[▼]/[▲]を押してスケルチレベルを設定する

■送信出力の設定

- [H/M/L]を短く押すごとに、Low/Middle/Highが切り替わる

■セットモードの操作

- ①[SET(TONE)]を短く押すと、設定項目を表示する
- ②[▼]/[▲]を押して、設定項目を選択する
- ③[VOL]を回して、設定内容を変更する
- ④[SET(TONE)]を押すと、セットモードを解除する

■イニシャルセットモードの操作

- ①いったん電源を切る
- ②[▼]/[▲]を押しながら、[PWR]を押して電源を“ON”にする
- ③[▼]/[▲]を押して、設定項目を選択する
- ④[VOL]を回して、設定内容を変更する
- ⑤[PWR]を押すと、イニシャルセットモードを解除する

■オアシシヨンセットモードの操作

- ①いったん電源を切る
- ②[▼]/[▲]を押しながら、電源を“ON”にしてオニシャルセットモードにする
- ③[▼]/[▲]を押して、「TOPS OFF」項目を選択する
- ④[VOL]を回して、“OPS.ON”に設定する
- ⑤[PWR]を押して、オニシャルセットモードを解除する
- ⑥[SET(TONE)]を長く押すと、オアシシヨンセットモードの設定項目を表示する
- ⑦[▼]/[▲]を押して、設定項目を選択する
- ⑧[SET(TONE)]を長く押すと、選択した項目を設定できる状態にする(設定項目によっては、⑧がない場合があります)
- ⑨[VOL]を回して、設定内容を変更する
- ⑩[SET(TONE)]を2回押すか、[MONI]を押して、オアシシヨンセットモードを解除する

■M-CHへの書き込み(C-V1使用時)

- [例] M-CH 2、145.600MHzを書き込む
- ①[V/M/C(MW)]を押してVFOモードにする
 - ②[▼]/[▲]を押して、145.600MHzに設定する
 - ③[FUNCI]を押してから[V/M/C(MW)]を短く押して、M-CH選択状態(M-CH表示部が点滅する)にする
 - ④[▼]/[▲]を押して、M-CH 2を選択する
 - ⑤[FUNCI]を押してから[V/M/C(MW)]を長く(ピープ音がビツビツと鳴るまで)押す
(書き込み後はVFOモードに戻る)
- ## ■M-CHの内容をVFOに転送する
- ①[V/M/C(MW)]を押してメモリーモードにする
 - ②[▼]/[▲]を押して、希望するM-CHを選択する
 - ③[FUNCI]を押してから[V/M/C(MW)]を長く(ピープ音がビツビツと鳴るまで)押す

■VFOモードでスキャンする

- ①VFOモードにする
- ②[FUNCI]を押したあと、[▼]/[▲]を押すとスキャンがスタートする。
- ③[SET(TONE)]を短く押すと、フルスキャン、プログラムスキャンを切り替える
- ④[V/M/C(MW)]を押すとスキャンを解除する

■メモリーモードで行うスキャン

- ①メモリーモードで、[FUNCI]を押してから、[MONI]を押し、メモリーバンクモードにする
- ②[FUNCI]を押したあと、[▼]/[▲]を押すとスキャンがスタート
- ③[V/M/C(MW)]を押すとスキャンを解除する

■メモリーバンクモードで行うスキャン

- ①メモリーモードで、[FUNCI]を押してから、[MONI]を押し、メモリーバンクモードにする
- ②[FUNCI]を押したあと、[▼]/[▲]を押すとスキャンがスタート
- ③[V/M/C(MW)]を押すとスキャンを解除する

◇ 充電器

AD-101	充電アダプタ(BC-119N用)
BC-119N	急速充電器
BC-146	卓上充電器 (リチウムイオンバッテリーパックは充電できません)

◇ バッテリーパック/ケース

BP-208N	乾電池ケース
BP-209N	ニカドバッテリーパック (7.2V/1100mAh)
BP-210N	ニッケル水素バッテリーパック (7.2V/1650mAh)
BP-211N	リチウムイオンバッテリーパック (7.4V/1800mAh)
BP-222N	ニカドバッテリーパック (7.2V/600mAh)

◇ クローニングソフト/ケーブル

CS-V82	クローニングソフト(英語版)
OPC-478/U	クローニングケーブル
OPC-474	クローニングケーブル(本体間用)

◇ アンテナ

FA-B2E	ホイップアンテナ(IC-V1用)
FA-B70C	ホイップアンテナ(IC-U1用)

◇ イヤホン/マイク/ヘッドセット

SP-13	イヤホン
HM-128L	イヤホンマイク
HM-131L	スピーカーマイク
HM-75A	スピーカーマイク
HS-85	ヘッドセット
HS-95	ネックタイプヘッドセット
HS-94	ヘッドセット
HS-97	咽喉マイク
VS-1L	PTT/VOXユニット

◇ ベルトクリップ

MB-103	ベルトクリップ(アリゲータータイプ)
MB-86	回転式ベルトクリップ

◇ DTMF/デジタルユニット

UT-108	DTMF/コードスケルチユニット
UT-118	デジタルユニット

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本 社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	003-0806	札幌市白石区菊水6条2-2-7	TEL 011-820-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	108-0022	東京都港区海岸3-3-18	TEL 03-3455-0331
名古屋営業所	468-0066	名古屋市天白区元八事3-249	TEL 052-832-2525
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。